

キニ付此意味ニテノ「プーリング」ニハ賛成ナリ実業借款ニ就テハ勿論(一)ノ通り

(二)新國際団体ノ構成ニハ異存ナシ

(四)Political Control 云々ノ意ハ解シ難シ

米國提議ニ対スル英國政府ノ方針ハ來週外務大臣ニ伺ヒ分

リ次第内報スベキモ軍事内閣ハ容易ニ決意セザルベシ然シ米國側ハ巴里講和予備會議ニ於テ必ズ本件ヲ提起スベシト信ズト内話セリ

米仏伊大使ヘ転電セリ

事項四 日中軍事協定締結ニ関スル件

註

本件ニ於テハ主トシテ左記ニ関スル文書収録セラレタリ

一 日中軍事協定ニ関スル大正七年三月二十五日附交換公文

二 同年五月十六日調印ノ日中陸軍共同防敵軍事協定

三 同年五月十九日調印ノ日中海軍共同防敵軍事協定及同

協定説明書

四 同年九月六日調印ノ日中陸軍共同防敵軍事協定実施ニ

要スル詳細ノ協定

二六七

二月二日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

日中軍事協同ニ関スル大綱指示方稟請シタル
理由並馮國璋王士珍ハ軍事協同ニ同意ナル旨
説明ノ件

附記

田中参謀次長ヨリ坂西少將宛訓電案

日中軍事協同問題ニ関シ先方ヨリ提議セシ

ムル様回訓ノ件

坂特電第七号

(二月三日接受)

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二六七

二月一日貴電第一号敬承、坂特電第五号ニテ指示ヲ仰キタルハ日支軍事協同ニ関スル大綱ハ直ニ之ヲ支那人ニ示スヘ

キ性質ノモノニアラズ小官カ此目的ヲ達スル為支那人ヲ指導スルニ必要ナル程度ノモノヲ具體的ニ小官ニ限リ示サレシコトヲ願ヒ出デタルナリ輕卒ニ支那人ニ内示スルカ如キハ絶対的ニナキ故御安心ヲ請フ又本件ノ形式ニ拘泥スル必要ナキハ勿論ナルモ支那側ニ於ケル実行ノ主任者ハ今日ノ

所參戰督弁タル段祺瑞タルコト明白ニシテ然カモ日支軍事協同ノ実ヲ拳ゲンニハ之ニ関シテ帝國ノ希望セル諸要件ヲ實施シ得ヘキ諸機關並ニ軍隊ヲ組織セザルベカラズ現在ノモノニテハ到底不可能ナリ然ルニ段祺瑞ト馮國璋トノ關係ハ今日ノ処余リ面白カラザル故主トシテ自ラ馮國璋ニ迫リテ之カ準備ニ着手スルニ困難ナル狀況ニ在リ故ニ馮國璋ヲシテ反テ段祺瑞ニ命シテ之ヲ実行セシムル一手段トシテ坂特電第四号ノ如キ具申ヲ為セルモノニシテ敢テ形式ヲ求ム

ル意味ニアラズ単ニ閣下トシテ何等カノ機会ニ個人的ニ章公使ニ向ヒ篤ト軍事協同ノ必要ヲ説キ大總統ニ報告セシムル如キハ敢テ形式ニ拘泥スル所以ニアラズト愚考ス又情報交換ハ勿論軍事協同ノ件ニ就キテモ馮國璋、王士珍共ニ同意ナルコトハ坂特電第四号ノ筆頭ニ述ヘタルノミナラズ一月十一日発坂極秘電第十四号同十六日発坂極秘電第二十二号ニモ明確ニ馮、王兩人ノ意嚮ヲ報告シアルヲ以テ我ヨリ提議シテ馮王等カ同意セザルノ憂ヒ万々之レナキヲ信ズルカ故ニ小官等カ彼等ヲ指導スル一方便トシテ願ヒ出デタルニ過キズ小官ト參戰督弁タル段祺瑞並ニ陸軍總長タル段芝貴トノ間ニハ大体ノ計畫ヲ立案シツツアリ靳雲鵬ハ其參謀長、曲同豐ハ其參謀ノ資格ヲ以テ万事ヲ小官ニ打チ明カシ居レリ故ニ彼等ヲシテ此計畫ヲ立テシムルニ際シ帝國トシテ必要ノ場合支那ヲ如何ニ指導利用スヘキヤノ大綱ヲ小官限リニテ知り置キ之ヲ實現スル場合ニ於テ齟齬ナキヲ期セントシツツアル衷情ヨリ坂電第五号ニテ指示ヲ仰ギタルナリ御賢察ヲ乞フ

現在支那參謀本部ナルモノハ何等ノ働キヲ為シアラザルモノナルコトハ十分ニ御了解アリ度対内軍事ハ専ラ大總統府

參陸弁公署ニ於テ行ヒ對外軍事ハ參戰督弁之ヲ統轄シテ今ヤ其實行ニ着手セントスルモノナリ、坂特電第四号ノ顯出ハ之ヲ促進セシムル一方便タリ小官靳雲鵬、曲同豐三人ノ間ニハ之カ為更ニ一名ノ參謀官ヲ聘用スル必要アリト感シツツ其歩ヲ進メツツアリ御合ミ置キヲ乞フ

註 貴電第一号トハ附記トシテ左ニ掲載シタル訓電案ニ該当スルモノト認メラル

(附記)

田中參謀次長ヨリ坂西少將宛訓電案(註)

日中軍事協同問題ニ関シ先方ヨリ提議セシムル様努力方回訓ノ件

坂特第五号日支軍事協同考量ハ当部ニ於テ既ニ研究ヲ進メアルモ馮王等ノ意向ヲ確メズシテ輕卒ニ之レヲ内示スルハ危険ナリト考フ又本件ハ敢テ形式ニ拘泥スルヲ要セズ只管其事カ現実セラルヘキヲ希望セル次第第二付其他ノ実況ニ適合スヘキ形式方法アラバ意見ヲ電報セラレタシ、坂特電第四号ノ申出アルモ王總理及陸外交總長等モ齊藤少將ノ提議セル情報交換ニ至極賛成セル事實ヲモ考フレハ馮王等ヲ誘フコトノ絶対不可能ナルモノトモ思ハレズ万一我ヨリ提議シテ馮王等之レニ同意セザルトキハ我國ノ体面ヲ損スルコ

ト大ナリ故ニ出来得ル限リ尽力シテ馮王何レカヨリ協同ノ意向ヲ漏ラサシムルコト(切望ニ堪ヘズ)絶対ニ必要トス、依テ青木、齊藤トモ熟議ノ上右ノ(希望)目的ヲ達シ得ル様尽力アリ度ク要スレハ閣下限リ其手段方法ニ付段等ニ相談セラレテモ可ナラント思フ

註 右訓電案ハ大正七年一月三十一日磯谷大尉外務省ニ持参シ

本野外務大臣之ヲ訂正ノ上(括弧内ハ原案ナリ)同意シタリ

二六八 二月十一日

在北京坂西陸軍少將ヨリ田中參謀次長宛(電報)

日中軍事協同ニ関スル段祺瑞ノ意見報告ノ件

坂特電第十号

(二月十二日接受)

劉宗傑ノ談、二月六日貴電第三、閣下ト章公使トノ談話ノ要旨ハ章ヨリ政府ニ報告セラレ一昨九日王總理ハ劉ヲ代表トシテ對露外交問題ニ関スル段祺瑞ノ意見ヲ求メタルニ段ハ露國ノ現状ニ於テ独逸勢力カ漸次極東ニ波及セントスルハ最モ重大視スヘキ所以ヲ述ヘ之カ為今ヨリ所要ノ兵力ヲ準備スルハ刻下ノ急務ニシテ寧ロ手遅レノ感アリ蓋シ此軍隊タルヤ斷シテ在来ノモノノ如ク素質不良ナルヲ許サズ有

形無形共十分ナル訓練ヲ施スノ要アレハナリ今ヤ日本政府ハ本問題ニ関シ熱心且好意的ニ我ト協力セントスルノ勢ヲ示シツツアリ故ニ我レモ亦宜シク進ンテ誠意ヲ披瀝シ円満ナル協定ヲ遂ケ以テ極東防備上ニ違算ナキヲ期セザルヘカラズ即チ我レトシテハ赤裸々ニ財政ノ状態、各級幹部能力ノ程度(募兵ノ状態及其素質)兵器、彈藥、被服其他一般軍需品準備ノ状況等ヲ詳細ニ示シ其不足ノ点ハ日本ノ同情アル援助ヲ求メ只我レトシテハ國家ノ体面ト國憲ノ保持トヲ努ムルノ真意ヲ通ズルニ於テハ日本トシテモ我意ヲ諒トシテ喜ンテ我レヲ扶掖スルノ勞ヲ惜マザルヘシ、從テ一部ノ人士カ杞憂シアル如ク本問題ヨリシテ日本カ我レヲ利用シテ野望ヲ逞ウスルカ如キ行為ヲナスコト万ナカルヘシ否寧ロ斯ル危険ハ我レカ此際因循退嬰シアル場合ニ於テ更ニ大ナルモノアルヘシ予ハ本問題ヲ以テ多年ノ懸案タル日支親善提携ノ実ヲ絶好ノ機會ナリト信スルモノナリ只之カ実行上ノ方針ヲ定ムルハ政府ノ權限ナルヲ以テ予トシテハ目下ノ境遇上其定メラレタル方針ニ基キ之カ円満ナル実行ヲ期スヘキノミ云々ト述ヘタリ、

(右ハ外交總長陸徵祥全然同意ニシテ之カ積極的実行ヲ王

総理ニ迫リ要スレハ職ヲ抛ツモ之ヲ争フヘシトノ意気込ミヲ有シアリ云云)

二六九 二月十六日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

陸外交総長國務會議ニ於テ露中国境警備ト日

中協力ノ必要ニ付説明シタル件

坂特電第十二号 (二月十八日外務省接受)

劉崇傑ノ言

一昨十四日ノ國務會議ニ於テ外交総長陸徵祥ハ極東ニ於ケル露國ノ現況ト独逸國勢力東漸ノ状ヲ述ヘ情況刻々陰惡ニ赴キツツアル所以ヲ説明シ此際支那ハ自衛上國境方面ノ警備ヲ嚴ニスルヲ要スヘク差当リ東三省ノ警備ヲ更ニ完全ニシ且將來之ニ備フヘキ基幹軍隊ヲ新設訓練スルノ必要ヲ力説シ之カ為日支協同動作ノ必要ナルヲ主張シタルカ全閣員何等之ニ異議ナカリシモ具體的議決ヲ見ルニ至ラズ兎ニ角王總理ハ本問題ニ付大總統ト熟議ヲ遂ケタル後更ニ議スヘキコトトナレリト

又陸徵祥ハ目下ノ政争ニ関シテハ全ク中立の人物ナルカ故ニ本問題ヲ主張スルニハ反對ノ誤解ヲ解ク為極メテ好適ナ

二七一 二月十九日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

日中軍事協同ニ賛成ナル旨章公使ヨリ日本側

ニ通告セシムベシト馮國璋青木中将ニ内話ノ

件

坂特電第十六号 (二月二十日接受)

青木中将ハ本日馮國璋ト會見シ日支軍事協同問題ニ関シ其意見ヲ求メシニ彼ハ素ヨリ大賛成ニシテ殊ニ今日国内ノ紛擾ヲ極メアル際一度外國ト事ヲ生スル場合支那ノ頼リトスヘキハ日本ノ外ニアルコトナシ何処迄モ協同ノ所置ニ出デザルヘカラズ此事ハ先日外務部次長ヨリ章公使ノ電報ヲ(田中次長ヨリ章公使ニ話サレタル事柄ニ関スルモノ)示セシ時モ充分申含メ置キタレトモ彼ハ猶或ハ其所置ヲ忘リ居ルナラン依テ更ニ外務部ニ命シ章公使ヨリ非公式ニ貴國參謀本部又ハ田中次長ニ右賛成ノ旨ヲ通告セシムルコトニ取計フヘシト答ヘ尚現政府對日本ノ外交方針ハ前内閣ト同様何等變更スル処ナキ故吳々モ誤解ナキ様頼ムト附言セリ

ル人ナリ云々

右ハ坂特電第十号結果ノ一ナリ

二七〇 二月十九日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

日中軍事協同ニ関シ段祺瑞ノ陸外交総長ニ對

スル談話報告ノ件

坂特電第十五号 (二月二十日接受)

劉崇傑ノ言

對西比利亞防備ト日支軍事協同ニ就キ去十六日國務會議ニテ多少討議セラレタルモ未タ具體的トナラザリシカ其後外交総長陸徵祥等モ段祺瑞ヲ訪ヒ親シク其意見ヲ徵シタルニ段祺瑞ハ本問題ノ緊急ニシテ一刻モ忽ニスベカラザルハ申ス迄モナク抑モ本件ハ主トシテ外交総長タル貴下ノ專管事項タリ依テ貴下ハ速ニ之カ主任トナリ成立ニ全力ヲ尽サンコトヲ熱望スト述ヘタル由予ハ其後外交關係提出問題トシテ將來日支協同防備ノ必要ニ関シ議案ヲ作製シタリ多分本十九日ノ國務會議ニ提出討議セラルルニ至ルナラン云々
右ハ段芝貴ノ議案ト相俟テ具體的ニ進ムナラン

二七二 二月二十二日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

參戰督弁設置ノ趣旨及張作霖ノ募兵ニ関シ馮

國璋ニ確メタル件

坂特電第二十号 (二月二十三日接受)

坂特電第八号去ル四日小官ニ語レル馮總統ノ言ト坂特電第十七号去ル十九日青木中将ニ語レルコトト相違アリ殊ニ貴電第八号ノ趣旨ニモ一致セサルヲ以テ小官本日馮國璋ト會談シ其意圖ヲ確メタリ

一參戰督弁ハ決シテ仏國出兵ノ為メニノミ設ケタルモノニアラズ凡ソ參戰ノ為メニ生スル國際的軍事ヲ掌ラシムル為メ設ケタルモノナレハ何レノ方面ト限ルコト断シテナシ予ノ青木ノ問ニ對シ日支兩國軍事協同ヲ為スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ全ク政府ノ事ニシテ參戰督弁タル段祺瑞一人ノ事ニアラズト答ヘタル積リナリ今日ノ對外時局ニ処スルニ際シ予トシテハ異見ヲ挿ムコトナク同心協力シテ之ニ当ル故安心アレ

依テ小官ハ今尚外觀ニテハ馮、段兩派ノ軋轢日ニ甚タシク今ニモ破裂スヘシト稱ヘツツアリ之レ畢竟段カ參戰督

弁タル地位ニアリナカラ何等業務ヲ実施セザル為メ所謂
疑心暗鬼ヲ生スルモノナルヘシ今ヤ日支兩國軍事協同ノ
方針確定セラレタルハ大總統ハ速ニ參戰督弁処ノ事務開
始ヲ命シ常設軍事諸機關トノ權限ヲ明ニシ段祺瑞始メ其
左右ノ者ヲシテ大總統ノ意圖ヲ知ラシメ安心セシムルコ
トヲ努メラルヘシト述ヘタルニ彼ハ数日内ニ段祺瑞ヲ招
キ其意見ヲ徴シ着手セシムヘキヲ約セリ

二、張作霖兵ヲ募リ武器横取セントノ噂ヲ聞キ尋ネタルニ
張ハ過日人ヲ派遣シ警備隊二万ノ編成ヲ願出デタルニ付
予ハ之ヲ許可セリ其所要兵器ハ彼ニテ調弁スル筈ナリ此
事カ何等特別ノ意味アルトモ思ハレズ又今回陸軍部力貴
國ヨリ購入シツツアル兵器ニ就キテハ何等曖昧ノコトナ
シト言明セリ、

右ニ付小官昨日段芝貴ニ尋ネタルニ段芝貴モ予ハ陸軍部
ニ入り日尚ホ浅ク張次長専ラ事務ヲ執リ居レル故直接審
カニ知ラザルモ張作霖ハ陝西ニテ購買セル兵器ヲ其督軍
ト相談シテ受取りタルヤニ聞クモ中央ニテ購買セル兵器
ニハ何等錯誤ナキ筈ナリ、殊ニ張次長ハ大總統ノ乾兒故
万間違ナカルヘシト云ヘリ

ヘクト察セラルルヲ以テ種々御協議致度所存ナリ參戰督弁
署ノ規則モ愈々今日制定セラレタルカ該督弁署ハ陸海軍及
參謀本部ノ關係事項ニ付テハ是等ト協議シ國際戰爭ノ進行
方ニ關シテハ日本トノ協同ヲ要スベキニ付種々具体的ニ協
議ヲ申出ヅルコトトナルヘシト述ヘタリ仍テ本官ハ日支兩
國力密接ナル關係ヲ有シ互ニ相協力スヘキハ勿論ニテ特ニ
近來兩國ノ關係益々親善トナリツツアル次第ニ付各般ノ事
項ニ關シ兩國相互協力スヘキハ当然ニテ西比利亞問題ノ如
キモ本官個人ノ私見トシテハ素ヨリ貴代理總理ノ御申出ニ
同感ナルモ何分本件ハ頗ル重大ナル問題ニ付貴代理總理御
申出ノ次第ハ兎ニ角早速本國政府ニ電報シ其考慮ヲ請フコ
トトスヘキ旨答ヘ置キタリ(奉天發由二月二十六日後八、四〇)

二七四 二月二十六日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日中協同問題ニ關連シ段祺瑞ハ日本軍ノシベ
リア出動ノ場合ニ北滿使用ハ当然ナル旨談話
ノ件

坂特電第二十四号

(二月二十七日接受)

貴電第二十一号敬承本二十六日段ニ会见之ヲ質シタルニ段

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二七四 二七五

小官察スルニ陝西督軍陳樹藩ハ徐樹錚ト連絡アルモノナル
ヲ以テ一時其兵器ヲ張作霖ニ融通シタルヤモ知レズ尚ホ二
十一日附齋藤少將宛參謀總長ノ電報命令ノ次第モアレハ右
徐樹錚等ノ行為ハ段祺瑞ニ對シテ十分警メ置クヘク而シテ
大總統ノ考モ概ネ貴電ノ趣旨ニ合シツツアルモノト認ム尚
今後ノ実行ニ就キ之ヲ確カメントス

二七三 二月二十六日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

錢能訓國務總理代理來訪ノ上西比利亞問題ニ
關シ日中兩國ノ協同ニ依リ処理スルノ必要ア
ル旨ヲ陳ベタル件

第二五七号 (二月二十七日接受)

二月二十五日錢代理國務總理本官ヲ來訪シ王總理病氣ニ付
暫時代理スルコトナリタリトテ挨拶ヲ述ヘタル上日支兩
國ノ關係ハ益々密接トナリ相互協力スルノ必要アルハ勿論
ナルガ殊ニ最近發展シツツアル西比利亞問題ニ付テハ特ニ
日支兩國ノ協同動作ニ依リ之ヲ処置スルノ必要アルヲ確信
シ又之ヲ希望スル次第ナルカ林公使御帰任ノ節ハ日本政府
ノ西比利亞問題ニ關スル意見ヲ充分御承知ノ上帰任セラル

曰ク、予カ担当シテ協同的ニ軍事行動ヲ開始スル以上事實
ニ於テ日本軍ニ不便ヲ与フルコト無キヲ期シ居ル故安心ア
リタシ例ハ貴國軍カ西伯利ニ對シ作戰スルニ對シ北滿ヲ使
用スルカ如キハ当然ニシテ外交上ニ何等支障ナカルヘシ云
々

參戰督弁カ本事項ヲ管掌スルコトハ二十五日大總統令(坂
電一四)ニ依リ明瞭トナレリ其主任者タル段ノ意圖カ斯ノ
如クナル以上実行上ニ於テ左程ノ支障ナカルヘシト信ス
要スルニ支那側ニ於テハ既ニ日支協同防備ノ実行ヲ決定シ
アルヲ以テ我トシテハ最早抽象的問答ヲ止メ具体的ニ交渉
ヲ進メ我目的ニ向テ指導スルノ要アリト信ズ

二七五 二月二十六日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

日中軍事協同ハ馮總統ト協力シテ遂行スル旨
ノ段祺瑞談話報告ノ件

坂極秘電第九六号

(二月二十七日接受)

二十一日發齊藤少將宛參謀總長電訓ノ主旨ヲ伝フヘク本日
段祺瑞ト会见ス段曰ク徐樹錚等カ督軍等ト相談シテ運動シ
ツツアルカ如キモ素ト是レ予ノ関知スル所アラズ然レトモ

二七三

秦皇島ニ於ケル兵器ノ授受カ其端緒ト成リ累ヲ貴国政府ニ及ホスカ如キハ断シテ不可ナリ予ハ大ニ注意戒飭スヘシ彼等ト雖政府ノ威信今日ノ如ク失墜セハ今後国家ヲ維持シ得ヘカラズトノ見地ヨリ行ヘルモノニシテ決シテ北軍派ヲ分裂セシメ大局ヲ攪乱セシムルモノニアラサル故其辺ニ諒察アリタシ

馮總統ノ予ニ対スル固ヨリ意思ノ疎隔アリ我ヨリ進ンテ事ヲ行フカ如キハ却テ彼ノ疑惑ヲ増スノ憂アルハ頗ル遺憾トスル所ナルトモ是個人ノ性格上已ムヲ得ザルナリ然レトモ今回ノ所謂兩國軍事協同ノ如キ切要ナル国家ノ大事ニ関シテハ兩人ノ主義ニ於テ何等異ル事ナク和衷協同シテ其遂行ヲ期スル故安心アリ度此旨貴国当局各位ヘ伝ヘラレ度シト依頼アリ

二七六 二月二十七日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

参戦督弁署經費及兵器供給ニ援助アリタキ旨

新督弁署参謀長申出ノ件

支極秘第一〇六号 (二月二十八日接受)

靳雲鵬ノ談

二七七 二月二十八日 中村正金銀行副総支配人ヨリ
小幡政務局長宛

西比利亜出兵費トシテ改革借款支払基金塩税

一千万弗交付方中国政府申出ノ件

附屬書 二月二十六日在北京武内横浜正金副総支配人ヨリ同行本店宛電報

大正七年二月二十八日

横浜正金銀行副総支配人 中村錠太郎

外務省

政務局長 小幡西吉殿

拜啓支那政府出兵ニ関スル軍費トシテ改革借款支払基金塩税老千万弗交付方財政総長申出ノ件左記ノ通り在北京弊行武内副総支配人ヨリ電報有之候間玆許供貴覽候 敬具

(附屬書)

二月二十六日在北京武内副総支配人発正金銀行本店宛電報

北京來電 (二月二十六日発同二十八日着)

此電信ハ最モ秘密ニ取扱フヘキモノト承知セヨ
支那政府ハ数個師団 Siberia (或ハ黒龍江省ナルヤノ疑有之)ニ出兵スルコトニ國務院ニ於テ可決シ軍費トシテ塩税 Reserve 老千万弗ヲ四回月賦交付方財政総長ヨリ代理公使

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二七七 二七八 二七八

参戦督弁署参謀長ハ段祺瑞ヨリ予ニ内命アリ又同署参贊ニハ外交陸海軍財政交通ノ各総長ヲ以テ同参議ハ前記各部次長及参謀次長ヲ以テ之ニ充ツル筈

差当リ經費一千万元ヲ支出シ最初ニ二ヶ師団ヲ編成セントス然レトモ尠クモ八万乃至十万ノ兵力ヲ備フルノ必要アリト思考スルモ之ヲ練成センカ為ニハ大ニ天意神助ヲ負ハザルヘカラズ且ツ經費及兵器供給ニ就テモ此上ナカラ援助ヲ受ケタシ又督弁署ノ編成成立ノ曉ニハ情報交換其他諸計画ニ就テモ特ニ日本ト打合セ度是等ノ為メ本職ニ援助ヲ乞フト云ヘリ依テ本職ハ之ヲ諾シ尚将来彼我益々胸襟ヲ開キ更ニ協議スヘシト告ケ置キタリ

又靳ノ談ニ依レハ一週間ノ停戦命令ハ事實發送セズ然レトモ馮總統ハ最近曹錕、張敬堯ニ対シ露国及西伯利ノ情況ヲ述ヘ此際速ニ争乱ヲ停止スルコト換言スレハ停戦的ノ内意ヲ暗示セル電報ヲ発セリ、曹錕ハ之ニ対シ不満足ナル旨ノ返電ヲ為セリ

「ホルワット」ハ過日段ヲ訪問セシカ唯一片ノ挨拶ヲ述ヘタルニ過キサリシ多分其中会见スルコトアルナラント

ニ申出デタリ委細代理公使ヨリ外務省ニ電報有之候筈

二七八 二月二十八日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

参戦ニ関スル業務ハ総テ参戦督弁ニ委任スル

旨大總統ヨリ靳雲鵬ニ談話ノ件

坂特電第二十五号 (三月一日接受)

大總統ハ昨日更ニ靳雲鵬ヲ招致シ参戦ニ関シ意見ヲ交換セル結果本業務ヲ参戦督弁ニ委任スルコトニ就テ円満ナル解決ヲ告ケ尚大總統ハ本件ニ関シ從來自己ノ計画セシコトヲモ示シ本回特ニ之ヲ撤回シ全部督弁ノ計画ニ待ツ旨ヲ明ニシ且軍隊訓練ニ関シテモ一切委任スヘク差当リ一千万元ヲ準備スルヲ以テ二ヶ師団ノ練成ニ取懸ルヘキヲ命シタリトテ靳雲鵬モ大ニ満足ノ体ナリキ

二七九 三月三日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

日中兩國軍ノ作戦区域ニ境界ヲ置クノ意図ナキ旨並張作霖ノ兵器強奪ニ関シ馮總統ヨリ青

木中将ニ談話ノ件

坂特電第二十八号 (三月四日接受)

青木中将本日大總統ニ会见シ第十三号電ノ趣意ヲ糺セシニ
彼ハ之ヲ何カノ誤解ニ出デタルモノナラントシ兩國軍ノ作
戦区域ニ一定ノ境界ヲ置クノ意味ニテハ毛頭ナク唯普通ノ
見解トシテ自国内ノ防衛ニハ自己之ニ当ランコトヲ希望セ
シニ過ギズ作戰ノ必要ニ応シ彼我ノ軍隊カ互ニ応援策動ス
ルハ勿論ノコトニシテ其間ニ何等ノ境界アルコトナク又何
等政略上ノ意味モナシ國務院ノ意見モ之ト同様ナル故誤解
ナキヲ望ムト語り且協同作戰上細部ノ事項ヲ協定スル為ノ
支那側委員トシテハ既ニ靳雲鵬外数名ヲ指定シアル故会合
ノ時機ト地点トダニ定マラハ何時ニテモ協議シ得ルコトニ
ナリ居レリト告ケタリ、尚本件ニ就キテハ更ニ總統ヨリ章
公使ニ電報シ同公使ヨリ閣下ニ転電スヘク依頼シ置ケリ
右ノ外大總統ハ目下灤州ニ軍隊ヲ出シ山西用ノ兵器ヲ強奪
スル等無謀ノ挙ヲ敢テセル張作霖ニ対シ相当ノ処置ヲ執リ
得レトモ間接ニ日本ニモ關係アル事故何トカ法ヲ設ケ日本
側ヨリ相当ノ警告ヲ彼ニ与ヘラルレハ仕合セナリトノ意ヲ
漏セリ然ルヘク御配慮ヲ乞フ

二八〇 三月四日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

日中共同防衛ニ関シ田中參謀次長ニ意見問
合方訓令ノ件

拝啓先刻御話之件茲ニ北京電報大要ノ写御送付仕候間御査
収被下度候 敬具

章 宗 祥

子爵 本野一郎閣下

三月五日

(附屬書)

中国外交部ヨリ章公使宛訓電大要

日中共同防衛ニ関シ日本当局ニ非公式ニ申入方訓令ノ件

北京國務院外交部來電

西伯利亞近時現狀甚為緊迫中日兩國亟應共同防禦現經政府
詳慎研究為実行準備計擬由兩國軍事当局各委專員共同規画
所有關於共同防禦一切動作及應預行研究各端統由兩國委員
接洽此頃委員應即日遴派如能由日派員來華更為妥速希非正
式轉達日当局竝盼復

(右和訳文)

北京國務院外交部ノ來電 (三月三日着)

西伯利亞近時ノ現狀ハ甚タ緊迫シ日支兩國ハ速ニ共同防禦
スヘシ現ニ政府ハ慎重ニ研究シ実行準備ノ為メニ計リ兩國

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二八一

靳雲鵬日中軍事協同ニ関スル委員長ニ任命セ
ラレタル件

支極秘第百十五号

(三月五日接受)

本日靳雲鵬ノ本職ニ語ル所ニ依レハ大總統ハ一昨日段祺瑞
ニ教令ヲ与ヘ靳ヲ軍事協同ニ関シ諸般ノ事項ヲ日本ト協議
スル委員長ニ任セリ之ニ附屬スル委員ハ陸軍部參謀本部等
ヨリ出ス筈ナリト
尚靳ハ西伯利亞出兵ノ場合日本軍ノ北滿洲通過鐵道沿線駐兵
及後方連絡線設置ノ外支那ハ軍器ヲ日本ヨリ供給セラレ又
支那ヨリ鉄革羊毛綿花等ノ原料ヲ日本ニ供給スヘキハ固ヨ
リ実行セラルヘキ事項ニシテ前記三大要綱ノ根本問題決定
セハ此事ハ附隨事項トシテ直ニ解決セラルヘシトノ意見ヲ
有ス

二八一 三月五日 在本邦中国公使ヨリ
本野外務大臣宛

日中共同防衛ニ関スル中国外交部ヨリ章公使
宛訓電大要送附ノ件

附屬書 中国外交部ヨリ章公使宛右訓電大要
附記 中国外交部ヨリ章公使宛訓電写

ノ軍事当局ヨリ各特別委員ヲ任命シテ共同規画シ凡テ共同
防禦ニ関スル一切ノ動作及予備研究ノ各事ハ都テ兩國委員
ヨリ打合セント欲ス該委員ハ即日選派スヘキ筈ナルカ若シ
日本ヨリ委員ヲ支那ニ派遣セラレバ更ニ快速ナリ希クハ非
正式ニ日本当局ニ轉達セラレタシ竝ニ回答ヲ望ム

(附記)

中国外交部ヨリ章公使宛訓電写

日中共同防衛ニ関シ田中參謀次長ニ意見問合方訓令ノ件

北京國務院外交部來電 (三月三日到)

中日共同防禦俄乱事迭電均悉現經政府詳慎研究擬即採取第
二弁法由兩國軍事当局各委專員共同規画所有關於共同防禦
一切動作及應預行研究各端統由兩國委員先行接洽速行此項
委員自應即日遴派如能由日派員來華更為妥速至電聲明後來
華境内日兵一律撤退境外仍共同防禦足徵排日政府協助誠意
尤為感佩至西伯利亞近時現狀疊飭各処報告情形甚為緊迫兩
方派員協商必以從速為要即希与田中次長以非正式說明竝探
明意見速復國務院外交部二日

(右和訳文)

北京國務院外交部來電 (三月三日著)

中日共同防衛ノ件ハ屢次ノ電報ニヨリ知悉ス政府ハ已ニ慎重研究ノ結果今ヤ第二ノ弁法ニ出デ兩國軍事当局ハ各委員ヲ設ケ共同規画以テ有ラユル共同防禦一切ノ動作及予備研究万端ニ達算ナカラシムル為兩國委員ニ由テ速ニ接洽協定セシメムトス而シテ該委員ハ速ニ選派スル考ナルモ若シ日本ヨリ該委員ヲ派遣セラルルニ於テハ最好都合ナリ貴電中ニ在ル将来日本兵ヲ支那境内ヨリ一律ニ撤退セシメ且支那境外ニ於テハ共同防禦ヲナスヘキ声明ハ実ニ日本政府支那協助ノ誠意ヲ徴スルニ足り感佩ニ甚ヘズ西比利亞現下ノ状況ハ各方面ノ報告ニ觀ルモ形勢愈切迫シツアリ故ニ相互委員ヲ派シ協商セシムルハ必ズ迅速ナルヲ要ス貴官ハ田中次長ニ之ヲ非公式ニ説明シ且其ノ意見ヲ徴シ速ニ國務院外交宛覆電セラレンコトヲ望ム

二八二 三月七日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

東部西比利亞ニ於ケル中国ノ協力ヲ日本政府
ガ要請シタル由ノ風説ニ関シ問合ノ件

Aide-Mémoire

D'après des bruits parvenus à la connaissance

du Gouvernement de Sa Majesté, le Gouvernement Impérial aurait sollicité la coopération du Gouvernement chinois en Sibérie Orientale. Le Gouvernement de Sa Majesté serait reconnaissant au Gouvernement Impérial de vouloir bien lui faire savoir si ces bruits sont fondés et, au cas affirmatif, de lui communiquer les détails de l'arrangement intervenu dans le but d'assurer cette coopération.

Le Gouvernement de Sa Majesté désire en même temps savoir si le Gouvernement Impérial approuve l'expédition à la frontière mandchourienne par le Gouvernement chinois d'une force de 40,000 troupes. Tokyo, 7 mars 1918.

(欄外注記)

本件ニ付テハ事実無根ナル旨ヲ答ヘ同時ニ目下時局ニ顧ミ軍事協約ヲ取極ムルノ必要ヲ考量シツ、アリト内話シ置キタリ(本野大臣)

(右和訳文)(註 仮訳文ナリ)

覚書

英國政府ニ達シタル風説ニ拠レハ日本政府ハ東部西比利亞ニ於ケル支那政府ノ協同ヲ求メラレタルカ如シ日本政府ニ於テ右風説ノ真偽ニ就キ英國政府ニ知照セラレ且ツ若シ事実ナル場合右協同ヲ確保スルノ目的ヲ以テ成立セル協定ノ

詳細ヲ通報セラルルニ於テハ英國政府ノ感謝スル所ナルヘシ
尚英國政府ハ日本政府ニ於テハ支那政府カ四万ノ軍隊ヲ滿洲国境ニ派遣スルヲ承認セラルルヤ否ヤ併セテ承知致シ度シ

千九百十八年三月七日

東京ニ於テ

二八三 三月七日 在英國珍田大使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

在仏露国部隊ノ策動ニ付報告並西比利亞方面
ニ於ケル我方行動ヘノ中国軍隊参加案ガ持出
サレタル場合ニ関シ請訓ノ件

第二二九号 (三月七日接受)

往電第二二二号「スチード」ノ談ニ徴スルニ在仏露国部隊ノコトハ差向当方面ニ於テハ未タ真面目ノ議論トハ成リ居ラザル模様ナルガ右露国部隊ハ之レカ指揮官「ジリスキー」及在仏旧露国政府軍事代表者「イグナチエフ」將軍等ニ於テ夙ニ余程持余シ居ルヤニ聞込タルコト之レアリ此等將軍連ハ今日ニテハ生計ノ資源ニモ窮シ居ル際トテ自己

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二八三

ノ立場救済策トシテモ自然右様ノ案ヲ英仏当局者ニ持廻ルコト之レナシトセザルヘク殊ニ信憑スヘキ他ノ消息通ノ談ニ依ルモ前記兩將軍並英國在留ノ露國將軍連ハ概シテ帝政復旧ノ希望ヲ有シ居ルヤノ趣ニ付旁以テ此際彼等ノ側ニ於テ此種ノ計画ヲ立ツルノ懸念ハ絶無トハ申難キ所(第一)右露国部隊ハ軍規ノ廢頗甚タシクテ到底厄介者タルニ過ギザルノミナラズ(第二)苟クモ我方ノ行動カ露国内政上何レカノ一派ニ支持ヲ与フルモノナルカノ如ク殊ニ帝政復旧ト云フカ如キ反動的色彩ヲ帶フルカ如キ形トナルコトハ絶對ニ之レヲ避クルノ必要アリト思考セラルルニ付万一本使ニ於テ何レカノ方面ヨリ右様ノ申出ニ接シタル場合ニハ船腹不足其他適當ノ辞柄ヲ以テ之レヲ排斥スル積ナリ予メ御承認置キアリタク次ニ最近支那方面ヨリノ新聞電報トシテ或ハ露國ノ事態ニ件フ支那民心ノ動揺ヲ伝ヘ或ハ支那軍隊ノ西比利亞方面出動準備ヲ報スルモノ頻々タル有様ナルカ惟フニ在支英米人中裏面ヨリ之レヲ操縦シ居ルモノナシトセザルヘク旁以テ自然支那軍隊ノ我方行動ニ参加ト云フカ如キ案何レカノ方面ヨリ申出ヅル場合絶無ト申難カルヘキガ其際ニハ(一)支那カ西比利亞經由独逸勢力東漸ノ問題ニ関シ

利害關係ヲ有スルコトハ素ヨリ我方ノ之レヲ認ムル所ニシテ從テ支那カ其能力ニ応シ今日ノ場合相当ノ働キヲ為スコトハ我方ニ於テモ主義上異議ナキ所ナルガ(二)支那ノ此際當然為スヘキ所ハ数千哩ニ亘ル伊犁其他西北境界上ノ警備ヲ鞏固ニシ独逸人俘虜及「ヴォルシェウキツク」ノ侵入ヲ喰止ムルニ在ルヘク(三)西比利亞方面ニ対スル我行動ニ支那軍隊ノ参加ノ如キハ到底実行不可能ナルノミナラズ我行動ノ敏速統一ニ害アリ(四)万一支那軍隊ヲ参加セシムル場合ニハ結局武器其他ハ日本ノ援助ヲ必要トスヘキ所昨年日本ガ支那政府ノ求メニ応シ武器ヲ供給シタルニ対シテサヘ之レ北方ヲ擁護シ南方ヲ圧迫スルモノナリトテ甚タシク南方側ノ感情ヲ害ヒタルコトアリ今日支那ハ南北抗争シ揚子江流域ノ要地ヲ互ニ爭奪中ノ折柄若シ日本ニ於テ前述ノ目的ノ為メトハ云ヘ此上支那政府ノ軍隊ニ援助ヲ与フルニ於テハ益々南方ノ猜疑ト南北ノ乖離ト南方支那ノ反日感情ヲ助長スルノミナルヘシトノ理由ヲ以テ体ヨク排斥スル考ナルカ此点ニ関シ至急予メ何分ノ義御電訓ヲ請フ

二八四 三月八日 閣議決定

日中共同防衛ニ関スル協定締結ノ件

二、前項ニ依リ日本国政府及支那国政府合意ノ上決定スルコトアルヘキ事項ヲ実行セムカ為兩國陸海軍ノ協力スヘキ方法及条件ハ兩國当局官憲ニ於テ協定スヘク又該当局官憲ハ相互利害ノ問題ニ関シ互ニ充分ニ且隔意ナク隨時協議スルコト

(附記一)

日中軍事協定ト日英同盟協約トノ關係並右協定ノ秘密院附議ノ必要ニ関スル件

(政務局調)

曩ニ三月八日閣議決定ヲ經タル極東ノ地域ニ対スル独逸勢力ノ浸潤ニ対応スヘキ日支兩國ノ協同措置及之カ実行ノ為兩國陸海軍協力ニ関スル兩國間ノ協定ハ不日在本邦支那公使トノ間ニ交換公文ノ形式ニ依リ取極ヲ了スヘキ筈ノ処本協定ハ其成立前予メ之ヲ英国政府ニ内告スルノ要アリト認ム其ノ次第ハ日英同盟協約第三条ニ於テ兩國ハ何レモ他ノ一方ト協議ヲ經ズシテ他國ト本協約前文ニ記述セル目的ヲ害スヘキ別約ヲ為サザルヘキ旨規定シアル処今回ノ日支協定ガ右ノ通り日英同盟協約ノ前文ニ記述セル目的ヲ害スヘキモノニアラザルヤ論ヲ俟タズト雖其ノ然ルヤ否ヤハ同盟

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二八四

附記一

日中軍事協定ト日英同盟協約トノ關係並ニ右協定ノ秘密院附議ノ必要ニ関スル件
二 日中軍事協定ノ秘密院附議ニ関スル件
三 日中軍事協定ハ英国政府ニ之ガ予告ノ必要アル件

今回支那政府ヨリ同政府ニ於テハ西伯利亞ノ現状甚タ緊迫シ日支兩國ハ速ニ共同防禦ノ方法ヲ講スルヲ要スヘク現ニ支那政府ハ慎重ニ其ノ実行準備ニ当リ居レル次第ナルカ更ニ日支兩國ノ軍事当局ニ於テ特別委員ヲ任命シテ協同企画ノ方途ヲ講スルコトト致度予備研究ニ関スル一切ノ事項及共同防禦ニ関スル一切ノ動作ハ凡テ右兩國委員ニ於テ商議セムコトヲ希望スル趣旨ノ申出ニ接シタル処此種協定ノ成立ハ現下ノ時局ニ対応スルニ最緊要ナルノミナラズ日支兩國ノ關係ヲ益々密接親善ナラシムル絶好ノ方策ト認メラルルニヨリ此際速カニ支那政府ノ申出ニ応シ大体左ノ趣旨ヲ以テ本協定ノ成立ヲ図ルコトト致度

一、極東ノ地域ニ於ケル全局ノ平和及康寧カ独逸勢力ノ同地域ニ浸潤スル結果侵迫セラルコトヲ認ムルトキハ日本国政府及支那国政府ハ其ノ事態ニ適応セムカ為メニ執ルヘキ措置ヲ協同ニ考量スルコト

協約当事者双方ノ解釈ニ俟ツヘキモノタルニ付本協定成立ニ先チ予メ之ヲ英国政府ノ承知ニ入レ置クハ日英同盟協約ヲ誠実ニ遵守スル所以ト謂ハザルベカラズ將又本件協定ハ單純ナル軍事ニ関スル打合タルニ止マラズ其ノ精神ニ於テ政治的意義ヲ有シ彼ノ歐洲聯合諸國間ニ時々協定ヲ觀ル作戦動作ニ関スル軍事上ノ打合トハ其ノ類ヲ異ニスルモノト謂ハザルベカラズ從テ仮リニ日英同盟協約第三条ニ拠レハ通告ノ義務ナシトスルモ同協約全体ノ精神ニ鑑ミ友誼上英國政府ニ予告スルヲ穩当ナリト認ム
尚本件協定ハ前記ノ通り交換公文ノ形式ニ拠ルコトト相成ルヘキ処先般東支鉄道讓渡及松花江航行權ニ関スル交換公文竝同匪事件賠償五年間償還延期ニ関スル連名公書ハ執レモ交換若クハ署名前上奏シ秘密院に諮詢セラレタルヲ以テ右先例ニ從ヘハ本件協定モ其ノ形式ノ協約タルト交換公文タルトヲ問ハズ之カ成立ニ先チ上奏シ秘密院へ御諮詢ノ手續ヲ經ルノ要アリト認ム

(欄外註記)

「本書ハ大臣ノ命ニヨリ作製ス」

(附記二)

日中軍事協定ノ枢密院附議ニ関スル件

(三月十五日政務局)

日支軍事協定ヲ枢密院ニ附議スル件ニ付テ

第一回乃至第三回日露協約、日英同盟協約、日仏協約、日米協商(所謂高平「ルート」取極)ハ総テ調印若クハ公文交換後枢密院ニ報告セラレタルニ止マリシガ其後大正四年ノ倫敦宣言加盟問題以來此ノ点ニ関シ枢密院側ノ故障ヲ招クニ至リ遂ニ大正五年ノ日露協約ハ先例ニ反シ調印前枢密院ニ附議セラレ其通過ヲ俟テ調印ヲ実行セリ然ルニ大正六年ノ日米新協商ハ公文交換ノ形式ニ拠リタル為メ枢密院ニハ其ノ交換後報告シタルニ止マリシガ其後現内閣ニ於テハ重要ナル国際條約ハ其形式ガ協約タルト交換公文タルトヲ區別セズ調印若ハ交換前枢密院ニ付議スルノ了解ヲ生ズルニ至リタル為メ現ニ東支鐵道讓渡及松花江航行權ニ関スル交換公文竝団匪事件賠償金五年間償還延期ニ関スル連名公書ハ孰レモ交換若ハ署名前枢密院ニ付議セラレタリ

仍テ今回ノ日支軍事協定ハ其形式カ協約タルト交換公文タルトヲ問ハス調印若ハ交換前枢密院ニ付議スルノ手續ヲ執ルコト穩当ナルベシ。

モノト認ム

然レドモ斯クシテ本協定ヲ英國政府ニ内告スルハ英國政府ヲシテ本協定ノ趣旨ヲ諒解セシムルヲ眼目トスル次第ニ付之ニ對シ同政府ノ意見ヲ誘致スルカ如キコト成ル措置ハ努メテ之ヲ避クルコト得策ト認ム

(欄外註記)

「三月七日在本邦英國大使ヨリ日支軍事協定交渉ノ報ヲ耳ニスル処若シ事実トセバ協定ノ詳細通報ヲ得度旨申出ノ次第アリ旁々英國政府ニ内告ノ必要益々之アルベシ」

註 冒頭余白ニ左ノ記入アリ

「淨書ノ上大臣ヘ手交(小村)」

二八五

本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

日中軍事協同ニ関シ在本邦中國公使ノ申出及

我回答ノ要旨通報ノ件

別電

同日本野外務大臣発芳沢臨時代理公使宛

電報第一四二号

日中軍事協同ニ関スル章公使ノ申出ニ對

スル我回答ノ要旨

第一四一号(極秘)

日支軍事協同ヲ目的トスル協定ノ件ニ付テハ過般來当地ニ

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二八五

(欄外註記)

「大臣ヨリ調査ヲ命セラレシモノナリ」

(附記三)

日中軍事協定ハ英國政府ニ之ガ予告ヲ為ス必要アル件

(三月十五日政務局)

目下日支兩國間ニ協議進行中ノ軍事協約ハ單純ナル軍事ニ関スル打合タルニ止ラズ其精神ニ於テ政治的意義ヲ有シ彼ノ英仏等ノ聯合諸國間ニ於テ時々協定ヲ見ル作戰動作ニ関スル軍事協定トハ其選ヲ異ニスルモノト云ハザルヘカラズ從テ此種協約ハ日英同盟協約全体ノ精神ヨリ云フモ其成立前一応同盟國タル英國ニ内告スルコト至當ノ筋合ト認メラレ殊ニ日英同盟協約第三條ニ於テ兩國ハ何レモ他ノ一方ト協議ヲ經ズシテ他國ト本協約前文ニ記述セル目的ヲ害スベキ別約ヲ為サザルベキコトヲ約定スル旨規定シアル処本軍事協約ガ右ノ通り日英同盟協約ノ前文ニ記述セル目的ヲ害スヘキモノニアラザルヤ論ヲ俟タズト雖モ其然ルヤ否ヤハ同盟協約當事者双方ノ解釈ニ待ツヘキモノタルニ付為念本件ノ成立ニ先チ英國政府ノ承知ニ入レ置クハ條約ヲ誠実ニ遵守スル所以ト云ハザルヘカラズ彼ノ第一回乃至第四回日露協約ヲ英國ヘ内告シタルカ如キモ亦同一趣旨ニ出デタル

於テ下話ノ次第アリタルカ今回在本邦支那公使ヨリ本國政府ノ訓令ニヨル趣ヲ以テ同政府ニ於テハ西比利亞ノ現状甚タ緊迫シ日支兩國ハ速ニ共同防禦ノ方法ヲ講スルヲ要スヘク現ニ支那政府ハ慎重ニ其実行準備ニ當リ居レル次第ナルガ更ニ日支兩國ノ軍事當局ニ於テ各特別委員ヲ任命シテ協同企画ノ方途ヲ講スルコトト致度予備研究ニ関スル一切ノ事項及共同防禦ニ関スル一切ノ動作ハ凡テ右兩國委員ニ於テ商議セムコトヲ希望スル趣旨ノ申出ニ接シタル処帝國政府ニ於テハ此ノ種協定ノ成立ハ現下ノ時局ニ対応スルニ最緊要ナルノミナラズ日支兩國ノ關係ヲ益々密接親善ナラシムル絶好ノ方策ト認メ大体別電第一四二号ノ趣旨ヲ以テ本協定ノ成立ヲ図ルコトニ決シ三月八日章公使ヲ招致シ本協定ハ別電第一四二号ノ要旨ヲ以テ成立セシムルコトト致度旨回答スルト同時ニ本協定ノ形式ニ付テハ之ヲ協約ト為スカ若クハ公文交換ト為スカ一応支那政府ノ意嚮ヲモ承知シ度旨申添ヘ置ケリ御含迄

註 右第一四一号ノ全文ハ三月九日在英珍田大使宛往電第一三

三号ヲ以テ電報セラレタリ

(別電)

三月八日本野外務大臣発芳沢臨時代理公使宛電報第一四二

二八三

号

日中軍事協同ニ関スル在本邦中国公使ノ申出ニ対スル我回
答ノ要旨

第一四二号 別電(極秘)

一、極東ノ地域ニ於ケル全局ノ平和及康寧カ独逸勢力ノ同
地域ニ浸潤スル結果侵迫セラルルコトヲ認ムルトキハ日
本国政府及支那国政府ハ其ノ事態ニ適応セムカ為ニ執ル
ヘキ措置ヲ協同ニ考量スルコト

二、前項ニ依リ日本国政府及支那国政府合意ノ上決定スル
コトアルヘキ事項ヲ実行セムカ為ニ兩國陸海軍ノ協力スヘ
キ方法及条件ハ兩國当局官憲ニ於テ協定スヘク又該当局
官憲ハ相互利害ノ問題ニ関シ互ニ充分ニ且隔意ナク隨時
協議スルコト

註 右第一四二号全文ハ三月九日在英珍田大使宛往電第一三三
号ヲ以テ電報セラレタリ

二八六 三月八日 本野外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

西比利亞方面ニ於ケル我行動ヘノ中国軍隊參
加ヲ排斥スルノ言說ハ避ケラレ度旨回訓ノ件

第一三二号(極秘)

モ其經費支出ノ能否不明ナル為未タ正式ニ署員任命モナク
然ルニ日日西比利亞方面ノ險惡ナル情報ニ接シテ躊躇逡巡ス
ルノミ因テ小官ハ五日其ノ參謀長タル靳雲鵬ニ其進行ヲ促
カシ軍隊募集ノ如キハ極メテ容易ナルヘキモ其幹部ヲ得ル
コト難キ故一日モ早ク上下級幹部ノ練成教育ヲ開始シ先ツ
日支兩國幹部ノ接觸ヲ図ラザルヘカラズト説キタルモ彼ハ
第一ニ經費ノ支途ナキヲ以テ着手シ能ハザルヲ理由トナス
ト同時ニ兩國軍事当局間ニ正式ノ協定ナキ以上ハ其根本計
画ヲ立テ大總統ノ同意ヲ得テ其實施ニ着手スル能ハズ故ニ
先ツ速ニ貴国軍事当局ト相会シ協同ノ大綱ヲ定ムルニ非ザ
レハ大總統ヲシテ事ヲ始メシムル能ハズ其旨貴官ヨリ次長
閣下ニ伝ヘラレタシトノ依頼アリ右ハ当地ノ現状ヲ露骨ニ
自白セルモノニシテ混沌タル政局ノ渦中ニ没頭シアル彼等
ヲ導キテ對外作戰ノ準備ヲナサシムルニハ事々ニ我ヨリ之
ヲ指導スルノ必要アリ又陸軍ハ平時何等對外作戰準備ナキ
モノ故苟クモ日支協同スヘク決シタル以上速ニ其大綱ヲ協
定シ之カ準備ノ為帝國陸軍ノ援助ヲ求メ其計画其教育等ノ
為我將校ヲ参与セシメ置ク必要アリト信ス協同動作開始ノ
間際ニ至リ諸般ノ要求ヲナスモ帝國陸軍ノ如ク有事ノ為何

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二八八

貴電第二二九号ニ関シ前段在仏露国部隊ノ点ニ付テハ貴見
ノ通り御取計相成差支無キモ後段支那兵參加ノ点ニ付テハ
万一將來我兵西比利亞ヘ出動ノ曉ニハ支那領土ヲ通過セザ
ルヘカラザル等自然日支兩國間ノ協同ヲ必要トスル場合多
カルヘキニ顧ミ目下折角詮議中ノ次第有ルニ付何等支那軍
隊ノ我行動參加ヲ排斥スルカ如キ言說ハ此際之ヲ避ケ置カ
ルル様致シタシ本件ニツイテハ追テ申進スル次第アルモ不
取敢

二八七 三月八日

在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日中軍事協同ノ大綱ヲ兩國軍事当局間ニ於テ
速ニ定ムルノ必要ニ付田中參謀次長ニ伝達方

靳雲鵬ヨリ依頼アリタル件

坂特電第三十号 (三月九日接受)

參戰事務狀況左ノ如シ

政府ハ最初仏国出兵ノコトノミヲ計画シ来リシモ之ニ引当
テノ米國借款未ダ成立セザル時ニ於テ西比利亞ノ情況ノ為
遂ニ日支軍事協同ヲ議スルニ至リタリ去ル二月二十五日軍
務署組織令ニヨリ現將軍府ヲ以テ事務署トナスニ決シタル

等ノ準備ナキ支那陸軍ハ決シテ帝國陸軍ノ如ク敏活ニ行動
シ能ハサルコト明カナリ故ニ兩國軍事協同ノ大綱ハ速ニ具
体的ニ之ヲ定メ帝國ノ指導援助ニヨリ速ニ其準備ニ着手セ
シムルヲ要ス所謂支那人ニ對シテ懸念スヘキ機密漏洩ノ如
キハ日本將校ヲ要所ニ配置スルニヨリ之ヲ防止シ得ヘク又
漏洩防止ノ目的ヲ以テ最初ヨリ協定スヘキ事項ヲ制限スル
モ可ナリ要ハ準備ナキ支那陸軍ヲ督促シ帝國ノ指導援助ニ
ヨリテ速ニ準備ニ着手セシムルニアリ之蓋シ支那陸軍ヲシ
テ我ノ意思ニ從ハシムル素地ヲ作ルヘキ第一着手ナリト信
ス

二八八 三月九日

在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日中軍事協同ニ関シ章公使ニ於テ日本政府ト
所要ノ協議ヲ為スベキ旨國務會議ニ依リ決定

セラレタル件

坂特電第三十一号

(三月十日接受)

曹汝霖曰ク日支軍事協同ニ関シ兩國ヨリ軍事委員カ篤ト相
談スルコトニナリアルモ一方ニ於テ更ニ章公使ト日本政府
トノ間ニ所要ノ協議ヲナシ置クヘキ件ニ付本日ノ國務會議

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二八九 二九〇

ニ附シタルニ異議ナク決定セリ又本件ニ就テハ由来大總統ハ協商各国トノ交渉ノ要アリトノ意見ヲ有シアリシカ本日ノ會議ニ於テハ單ニ日支ノ間ニ之ヲ協定セハ可ナリト云フコトニ一決シ陸外交総長ハ本日此旨ヲ馮大總統ニ具申シ其指令ヲ仰ク筈ナリト

二八九 三月十一日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日中軍事協定ニ関シ聯合側各国公使ノ質問ニ
対スル応答振ニ付請訓ノ件

第三三九号 (極秘) (三月十二日接受)

貴電第一四一号ニ関シ、日支協同動作ノ件ニ付キテハ是レ迄聯合國公使等ヨリ屢次質問ヲ受ケクルコト有之聞ク処ニ依レハ章公使ノ報告ニ係ル帝國政府ノ御提案ハ三月九日既ニ國務會議ヲ通過シ目下大總統ノ承認ヲ俟チツツアル趣ニテ右決定ノ上ハ何分支那人ノコトトテ弗々外間ニ漏レ来タラザルヲ保シ難ク尙帝國政府ニ於テハ本件実行方法等協定ノ為メ陸海軍側ヨリ委員ヲ当地ニ派遣セラルルコトナリ兩三日内ニ貴地出發ノ筈ナル趣ニ仄聞セル処果シテ其通りナルニ於テハ右委員来着ノ上ハ必ズ外間ノ注意ヲ惹クヲ免

二九一 三月十三日 本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

日中軍事協定案ノ英訳文ヲ章公使ニ手交並該
協定成立ト出兵実行トノ關係及協定期間ニ関
スル質疑応答ニ付通報ノ件

別電 同日本野外務大臣發芳沢臨時代理公使宛
電報第一五九号
右協定案綱領ノ英訳文

第一五八号 極秘

往電第一四一号ニ関シ

三月十三日章公使來省本件協定案ノ字句ニ付二三不明ノ点アリトテ質問シタルニ付適宜説明ノ上尙同公使ノ需ニ応シ參考ノ為メ別電第一五九号本件協定案英訳ヲ手交シ置ケリ其際同公使ハ本件協定案ハ支那政府ニ於テモ大体異存ナク略々確定シ居レル次第ナルカ本件協定成立スルトモ直ニ出兵スル訳ニハ非ザルベシト思考スル処果シテ然ルヤト尋ネタルニ付本協定ハ他日出兵等ノ場合ニ備ヘントスル予備的措施ナルヲ以テ其成立ト共ニ当然直ニ出兵ノ運トナルヘキ次第ニアラザルハ勿論ナリト答ヘタルニ同公使ハ更ニ支那政府部内ニハ本協定ノ期限ヲ現戰役中ニ限ルヘシトノ意見

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二九一

二八六

レザルベク旁々此後聯合側各国公使ノ質問ニ對シ全然事實ヲ否認スル訳ニモ參ラザルヘシト思考セラルル処右等已ムヲ得ザル場合ニハ如何応答シ可然哉折返シ何分ノ義御電訓ヲ請フ

二九〇 三月十二日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日中軍事協定案ノ日本文及非公式英訳文ヲ劉
崇傑ニ交付ノ件

第三四三号 (極秘)

往電第三三九号ニ関シ

三月十一日夜劉崇傑ハ本官ニ對シ本件ハ國務會議ヲ通過シ大總統モ事實承認済ミナルカ章公使ヨリ電報シ来レル協定案ノ文句ニ不明ノ箇所アリ問合中ナル為メ未タ日本政府ヘ回答ノ運ビニ至ラザル旨談リタルニ付本官ハ協定案丈ケナラバ其日本文ハ當館ニモ分明シ居ル旨答ヘタル処劉ハ外交部ニテハ尙英訳ヲモ入手シ度キ希望ナル旨申出デタル結果右日本文並ニ英訳(unofficial translation トシテ)作成ノ上先方ニ交付スルコトナシタリ御含迄

モ之アル処右ハ如何ナルヘキヤト申出デタルニ付本大臣ハ右ハ甚タ賛成シ難ク蓋シ此ノ如ク限定ヲ加フルコト成ラハ更メテ日本内部ノ意嚮ヲ纏ムルノ必要ヲモ生シ之カ為徒ニ本件協定ノ成立ヲ遅延セシムルノミナラズ我方ニテハ支那政府ハ戰後ニ至ラバ独逸ノ圧迫ヲ更ニ意トセザル次第ナルヤト云フガ如キ疑惑ヲ挾ムモノモ之アルニ至ルヘシ旁々右ノ点ハ日本政府ニ申出デザル方然ルヘキ旨章公使ノ意見トシ可然本國政府ニ稟申セラルルコトトシテハ如何ト述ヘタルニ同公使ハ能ク旨ヲ諒シテ引取レリ御含迄

(別電)

三月十三日本野外務大臣發芳沢臨時代理公使宛電報第一五九号
日中軍事協定案綱領ノ英訳文

第一五九号

1. Whenever it is found that the general peace and security in the regions of the Far East are threatened by the penetration of the German influence into those regions, the Government of Japan and the Government of China will consider in common the measures which should be taken to meet

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二九二 二九三

the exigencies of such situation.

2. The means and conditions for the military and naval co-operation between Japan and China, in giving effect to any decision which may be taken by the two Governments in common accord under the preceding clause, will be arranged by the competent authorities of the two Powers, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest.

二九二 三月十三日 本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

日中軍事協定ニ関シ各国公使へノ応答振二付

回訓ノ件

第一六〇号 (極秘)

貴電第三三三九号ニ関シ今後聯合側各国公使ノ質問ニ接スル等万已ムヲ得ザル場合ニハ日支兩國政府ハ独逸カ西比利亞方面ニ於テ侵略的活動ノ歩ヲ進ムル場合ニ備ヘムカ為予メ軍事上ノ協定ヲ取極ムルノ必要ヲ考量シツツアルハ事実ナルモ未タ協約成立シタル訳ニアラザル旨回答セラルル様致度シ

二九四 三月十八日

本野外務大臣ヨリ
大島陸軍大臣
加藤海軍大臣 各宛

日中軍事協定關係我陸海軍委員ノ行動ニ付内

達方依頼ノ件

拝啓陳者目下支那政府ト協議進行中ノ軍事協定ノ件ニ関シ追テ同協定成立ノ上之ニ基キ支那当局官憲トノ間ニ軍事專門事項商議ノ任ニ当ルヘキ貴省派遣委員ノ動靜ハ曩ニ及御送付置候在支芳沢代理公使來電第三三三九号ノ次第モアリ此際可成外間ノ耳目ヲ引カザルコト特ニ肝要ナルヘク將又右支那当局官憲トノ商議モ兩國政府間ノ軍事協定成立ヲ待テ始メテ開始セラルヘキ儀ト存候就テハ其辺誤解ナキ様貴省委員一行ニ対シ篤ト御内達置相成様致度此段得貴意候

敬具

二九五 三月十八日

在本邦中国公使ヨリ
本野外務大臣宛

日中共同防衛ニ關スル中国側修正案提示ノ件

一、中国政府及日政府因敵国實力之日見蔓延於俄國境内其結果將使遠東全局之和平及安寧受侵迫之危險為適応此項情勢及実行兩國参加此次戰爭之義務不能不及早協同考量

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二九四 二九五

二八八

二九三 三月十七日 本野外務大臣ヨリ
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

日中軍事協定ニ基ク協同措置実行ノ為協議ヲ

行フベキ我陸海軍委員氏名通知ノ件

第一七一号 (極秘)

往電第一五八号ニ関シ

本件軍事協定成立ノ上ハ支那当局官憲トノ間ニ協同措置ニ付協議ノ任ニ当ルヘキ我委員トシテ陸軍側ヨリハ少將宇垣一成、中佐本庄繁、少佐川崎吉五郎、大尉山田健三ノ四名、海軍側ヨリハ少將吉田増次郎、大佐伊集院俊、同樺山可也ノ三名ヲ貴地ニ出張セシムルコトニ決シタルニ付貴電第三三三九号ノ次第モアリ同委員一行ニ於テハ成ヘク外間ノ耳目ヲ引クカ如キコト之ナキ様又同委員ト支那官憲トノ協議ハ根本ノ軍事協定成立ノ上ニテ開始スルコトト相成様陸海軍大臣ヨリ夫々該委員ニ内達方取計置ケリ御含迄猶又本件ニ関スル公文交換ハ可成速ニ遂行致度ニ付在本邦支那公使ヘハ既ニ打合済ノ通訓令相成居ルヤ内密ニ御問合相成リ若シ未タ訓令シ居ラザル場合ニハ可成速に運フ様可然取計ハレタシ

必行之処置

二、依前項所述経兩國政府合意後因実行決定之事凡兩國陸海軍對於此次共同防敵戰略之範圍必行協力之方法及其条件由兩國当局官憲協定之該当局官憲對於相互利害問題互相詳慎誠實隨時協議並由兩國政府核定俟時機実行

(欄外註記)

「大正七年三月十八日午後八時章公使持參、公文交換ノ形ニシ日本ヨリ提出セル姿ニ致シタキ旨ノ希望ヲ開陳セリ

(本野大臣)」

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

一、中国政府及日本政府ハ敵国實力ノ日ニ露國境内ニ蔓延シ其ノ結果將ニ遠東全局ノ和平及安寧ヲ侵迫スルノ危險アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適応シ且兩國カ此次ノ戰爭参加ノ義務ヲ実行セムカ為速ニ協同シテ行フヘキ処置ヲ考量スルモノトス

二、前項述フル所ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決定ノ事ヲ実行スルカ為凡テ兩國陸海軍ノ此次ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキ方法及其条件ハ兩國当局官憲ニヨリ之ヲ協定スヘク該当局官憲ハ相互ノ利害問題ニ付互ニ慎重誠實ニ隨時協議シ竝ニ兩國政府ヨリ確定シテ時

二八九

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二九六 二九七 二九八
機ヲ俟チ実行スルモノトス

二九六 三月十八日 在本邦中国公使ヨリ
本野外務大臣宛

日中軍事協定ノ有効期間ニ関スル協定案附帶
提示ノ件

此次兩國因共同防敵業經互換書信此項書信之有效期間應由
兩國軍事当局商定至因共同防敵日本兵隊在華境內者俟戰事
終了後所有日本兵隊一律由華境內撤退特此聲明

(刪外註記)

「三月十八日章公使持參、本文之趣旨公文交換希望(本野
大臣)」

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

此次兩國ハ共同防敵ノ為ニ已ニ公文ノ交換ヲ經タルガ本公
文ノ有效期間ハ兩國ノ軍事当局ニヨリ議定スヘシ共同防敵
ノ為ニ日本軍隊ノ支那國境內に在ルモノハ戰爭終了後ヲ俟
チ日本軍隊ハ一切支那國境內ヨリ一律ニ撤退スルコトヲ特
ニ茲ニ聲明ス

二九七 三月十八日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

掲二九五文書ノ和訳全文ニシテ又同第一七五号ハ前掲二
九六文書ノ和訳全文ナリ

二九九 三月十九日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日中軍事協定ノ成立促進方ニ関シ馮總統ニ申
入ノ件

支極秘第一五九号

(三月十九日接受)

蒙古新疆派遣武官帶同昨十八日馮總統ニ謁見ノ際本職ヨリ
我協商委員モ二十一、二日頃着京スル筈ナル処時局ハ急速
ニ進展シツツアルヲ以テ到着後迅速ニ協約ヲ成立スル様致
度一ニ大總統ノ御配慮ヲ乞フ旨述ヘタル所馮ハ日支軍事協
約ハ元来自分ノ主張ナルニ依リ其成立ニ就テハ貴官ニ於テ
安心アリ度ト答ヘタリ

目下坂西少將ヨリ支那側ノ準備ヲ督促シツツアリ
宇垣少將ノ一行明二十日午前七時天津着ノ筈、ナルヘク早
ク一行ノ来着ヲ望ミ各箇条ニ就テ支那側ニ良ク我主義ヲ徹
底シ且先方ノ感情ヲ円満ナラシメ又彼等ヲシテ立場ニ窮セ
シメザル様為スタメ篤ト協議セントス

林公使モ充分斡旋セラレツツアリ今日迄外国人ノ妨害スル

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 二九六 三〇〇 三〇一

二九〇

日中軍事協定ニ関シ陸外交總長ヨリ章公使ニ
電訓済ノ件

第三七四号 至急極秘

(三月十九日接受)

貴電第一七一号末段ニ関シ船津ヲシテ陸外交總長ニ問合サ
セタル所僅ニ字句ノ修正ヲ加ヘ大体帝國政府提議ノ通りニ
公文交換ノ形式ヲ取ル様三月十七日章公使ヘ訓電ヲ發シタ
ル趣ナリ

二九八 三月十九日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協定ニ関シ章公使ヨリ中国側ノ希望
申出ニ付通報ノ件

第一七三号 極秘

貴電第三七四号ニ関シ三月十八日章公使來省本大臣ニ對シ
本件協定ハ別電第一七四号ノ趣旨ニヨリ日本側提議ニ基ク
公文交換ノ形式ニテ取極メ度且右ニ關連シ別電第一七五号
ノ趣旨ノ公文ヲモ交換スルコトト致度旨ノ希望ヲ開陳セリ
別電第一七五号末段文意明瞭ナラザル所アルモ不取敢御含
迄

註 別電第一七四号及第一七五号省略ス右別電第一七四号ハ前

形跡ナシ

蒙古新疆派遣委員ハ陝西ノ通過安全ナルヤニ就キ未タ地方
官ヨリ確答來ラズ支那側ノ準備ヲ督促シ來ル二十三日頃當
地ヲ出發セシメントス

三〇〇 三月二十日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日中軍事協定ノ細目商議開始方ニ付段芝貴ニ
申入ノ件

支極秘第一六四号

(三月二十一日接受)

本職ハ本日段芝貴ヲ訪ヒ東京ニ於ケル軍事協同文書交換ノ
手續ハ兎モ角商議ヲ為セハ自ラ其目的ヲ達スル次第ニ付來
ル二十四日頃ヨリ商議ヲ開キ遅クモ本月中ニハ是非結了ス
ル如ク取計ヒアリ度ク時局切迫延延ヲ許サザル旨ヲ申込ミ
タル処段モ其意ヲ諒シ本夜斬雲鵬ニ至急商議ヲ開始スヘキ
様督促シ時日決定ノ上本職ニ通知スヘク約束セリ

三〇一 三月二十日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日中軍事協定ニ関シ中国軍ノ協同範圍ハ中国
領土内ニ限ルベキ旨馮總統談話ノ件

二九一

第三九〇号

(三月二十一日接受)

三月十九日日本使馮總統へ接見ノ際總統ハ北滿ニ於ケル形勢ニ談及シ其發展ニ件ヒ武器軍費其他何レモ日本ノ同情アル救助ヲ仰クノ必要益々緊切ナルヲ感スル次第ナルカ支那現下ノ実力ニテハ共同動作ノ範圍ハ自國領土内ニ限ル外無キニ付其方針ニテ進行セシムル意存ナリ此儀予メ御含置キヲ請フト云ヘリ(奉天經由三月二十一日前九、五〇)

三〇二 三月二十二日

本野外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

日中軍事協定案ニ付英國政府ニ内告方訓令ノ

件

別 電

三月二十二日本野外務大臣発在英國珍田大使宛
電報第一六〇号

日中軍事協定案綱領

第一五九号 極秘

西比利亞方面險惡ノ状況此後ノ發展如何ニ依リテハ自然出兵ノ必要アルヤモ図リ難キニ付日支兩國ハ之ニ對シ相當ノ軍事上ノ行動ヲ取ル場合ニ処セムカ為兩國共同スルノ方途ヲ講スルノ議兩國間ニ熟シ大体別電第一六〇号ノ趣旨ニヨ

tion between the Chinese and Japanese armed forces in the joint defensive movements against the enemy, to give effect to the decision which may be arrived at by the two Governments in common accord under the preceding clause, will be arranged by the competent authorities of the two powers, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters to be thus arranged by the competent authorities will be put into operation at such time as the two Governments may eventually decide.

Motono.

三〇三 三月二十二日

在中國林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日中軍事協定案ニ関連スル京津タイムスノ記

事ニ付報告ノ件

第四〇〇号

(三月二十三日接受)

三月二十二日ノ北京天津タイムスハ「日本ノ對支勸告」ト題スル北京通信員ノ通信ヲ掲載セリ其大要左ノ通り
最近支那ニ於ケル日本ノ地位ニ関シ何等カノ發展ヲ顯出ス

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三〇三

ル軍事協定ノ成立ヲ見ムトスルニ至レリ就テハ貴官ハ直ニ英國外務大臣ニ面会シ以上ノ次第ヲ叙シタル上右協定案ヲ内告セラレ模様至急電報アリタシ但シ右内告ハ本協定ノ趣旨ヲ諒解セシムルヲ眼目トスル次第ニテ之ニ對シ先方ノ意見ヲ誘致スルコトハ可成避ケ度考ニ付右様含ミ置カレ度シ右在仏伊米各大使ニ含迄極秘トシテ転電シ且本大臣ヨリ追テ何分ノ義訓令スル迄何等措置ヲ執ラザル様附言シ置カレ度シ

(別 電)

三月二十二日本野外務大臣発在英國珍田大使宛電報第一六〇号

日中軍事協定案綱領

1. Having regard to the steady penetration of the hostile influence into the Russian territory, threatening the general peace and security in the Far East, the Government China and the Government of Japan will promptly consider in common the measures which may taken to meet the exigencies of the situation and to do their share in the allied cause for the prosecution of the present war.
2. The means and conditions for the co-operation

ヘク予想セラレタルカ日本ハ果然内外ノ問題ニ関シ確乎タル了解ニ到達センカ為メ支那ニ對シ強要スル所アリタル旨ヲ聞知シタリ、吾人ノ得タル報道ニ依レハ日本公使館ハ林公使帰任ニ先立ツ數日前支那政府ニ一文書ヲ提示シテ之ガ調印ヲ迫レル趣ニシテ右文書ノ内容大要左ノ如シ

独乙ノ勢力極東ニ蔓延シ安寧及平和ヲ侵犯セラルルノ虞アルニ付(一)日支兩國ハ右事態ニ対応センカ為メ共同動作ニヨリ一致ノ措置ヲ執ルコトニ同意ス、(二)前項ノ目的ヲ達成センカ為メ兩國ハ各軍事委員ヲ任命シテ実行セラルヘキ措置ノ細目ニ付キ討議セシムルコトニ同意ス

右協定調印ノ結果支那ニ及ボス影響如何ハ支那官界ノ一部ニ深大ナル疑惧ノ念ヲ生セシメツツアリ即チ若シ支那ニシテ之ニ調印セハ之レ事実上支那ヲシテ日本ノ軍事的支配ニ帰属セシムルモノニシテ勢ヒ二十一ヶ条要求中ノ第五項ヲ自ラ実現セシムルモノニ外ナラズト云フニ在リ更ニ吾人ノ知り得タル所ニ依レバ支那政府ハ往年二十一ヶ条要求當時ニ於ケルカ如ク本協定ノ調印ヲ内密強制セラレツツアリト認メララルル処前掲協定案ニ所謂極東ノ意義明白ナラザル上該協定ノ範圍及期間モ詳カナラズシテ其及ボス影響如何

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三〇四 三〇五

ニ付何等明確ナル了解ヲモ遂ケズシテ之カ調印ヲ強要セラレントスルノミナラズ所謂軍事委員ノ権限等モ明定セラレザルノ事実ハ人ヲシテ頗ル疑懼ノ念ヲ抱カシムルニ足ルモノアリ、林公使帰任以来又本問題ニ関シ親シク大總統ニ進言スル所アリタルガ右会见ノ真相ハ未タ明カナラザルモ大總統ニ取りテハ頗ル芳バンカラザルモノアリシヤニ伝ヘラル

日本当局ニシテ本問題ニ対スル他ノ疑惑ヲ一掃セントセハ須ラク速カニ右提議ノ目的ヲ明カニシテ之ヲ周知セシムルヲ要ス(奉天經出三月二十三日前一〇〇)

三〇四 三月二十三日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

日中軍事協定細目交渉ノ中国側委員ニ付報告ノ件

協第二号 (三月二十四日接受)

昨日外交部ヨリ公使館ニ対シ支那側委員ノ人名ヲ通告シ来レリ次ノ如シ

委員長靳雲鵬、委員陸軍中將董煥文、陸軍中將銜少將劉嗣榮、陸軍少將田書年、陸軍騎兵大佐江寿祺ト外ニ海軍部ヨ

為ニスル所アルモノノ所為ナルヘキカ旁々益々以テ帝國政府ノ迷惑少ナカラザル旨嚴重申入レラレ結果電報アリ度シ

三〇六 三月二十四日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中共同防敵ニ関スル公文案確定ニ付通報ノ件

別電一 同日本野外務大臣發林公使宛電報第一九〇号

在本邦中国公使ヨリノ来翰案和訳文

二 同右電報第一九一号

本野外務大臣ヨリノ往翰案

三 同右電報第一九二号

右交換公文ノ有効期間ニ関スル本野外務大臣

ヨリノ往翰案

四 同右電報第一九三号

右交換公文ノ有効期間ニ関スル在本邦中国公使ヨリノ来翰案和訳文

五 同右電報第一九五号

在本邦中国公使ヨリノ来翰案英訳文

六 同右電報第一九六号

本野外務大臣ヨリノ往翰案英訳文

附記一

日中軍事協定ニ関スル在本邦中国公使来翰案

二 日中軍事協定ニ関スル本野外務大臣往翰案ノ漢訳文

三 日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル本野外務大臣往翰案ノ漢訳文

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三〇六

リ三名(人名略ス)

然レトモ坂西少將ヲ經テ非公式ニ小官ニ通告セシモノニハ固有委員ノ外更ニ東三省ヨリ各一名及參戰督弁処ヨリ出ス三名委員ノ名ヲ列ネタリ支那側委員ノ数多キハ交渉ノ為メ有利ナラズ之ヲ減セシムルニ昂ム

三〇五 三月二十四日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

京津タイムスノ軍事協定漏洩ニ関シ中国政府

ニ警告方訓令ノ件

第一八七号 (至急)

貴電第四〇〇号北京天津「タイムス」ヘ軍事協定漏洩ノ件ハ甚不都合ノ次第ニテ支那当局ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルコト緊要ト認ムルニ付貴官ハ青木中將、齋藤、坂西少將トモ打合ノ上至急關係支那当局ニ対シ本件商議ハ日支關係当局ニ於テ嚴秘ニ付シ居レルニ拘ハラズ今回右ノ通り其漏洩ヲ見ルニ至レルハ帝國政府ノ甚ダ意外且遺憾トスル所ナリ速ニ支那当局ニ於テ其如何ナル筋ヨリ漏レタルヤ篤ト取調ノ上内報アリ度旨竝北京天津「タイムス」ニハ本件力恰モ日本ノ強要ニ基クモノナルカノ如クニ記載シアリ右ハ何等

四 日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル在本邦中国公使来翰案

第一八九号(極秘至急)

往電第一七三号ニ関シ

本件協定ハ三月二十日在本邦支那公使ト打合ヲ了シ三月二十二日閣議ニ於テ同公使ヨリ別電第一九〇号ハ訳文ノ通り帝國政府ニ照会シ之ニ対シ帝國政府ヨリ別電第一九一号ノ通り同公使ニ回答スルト同時ニ右ニ附帶シ帝國政府ヨリ別電第一九二号ノ通り同公使ニ照会シ之ニ対シ同公使ヨリ別電第一九三号(訳文)ノ通り帝國政府ニ回答スルコトニ決定シタルニ付三月二十五日本大臣ト章公使トノ間右公文交換ノ筈ナリ尚英國政府ヘハ交換前内告方別電第一九四号ノ通り在英大使ニ電訓シタルカ右内告ハ別電第一九五号英訳中ノ一項及二項ノミニ止マリ且附帶公文ノ件ハ之ヲ内告セズ右御含置アリ度シ又主タル公文ノ確定英訳ハ別電第一九五号及第一九六号ノ通りナリ之亦御参考迄電報ス

註 別電第一九四号ハ三月二十二日本野外務大臣發在英國珍田大使宛電報第一五九号(三〇二文書)ト同文ナルニ付省略ス

(別電一) 三月二十四日本野外務大臣發林公使宛電報第一九〇号

日中軍事協定ニ関スル在本邦中国公使来翰案和

訳文

第一九〇号

以書翰致啓上候陳者支那国政府ニ於テハ現下ノ時局ニ顧ミ左記ノ綱領ニ依リ貴国政府ト協同措置スルヲ貴我兩國ノ為必要ナリト信シ茲ニ本国政府ノ訓令ニ依リ貴国政府ニ提議スルノ光榮ヲ有シ候

一、支那国政府及日本国政府ハ敵国勢力ノ日ニ露国境内ニ蔓延シ其ノ結果將ニ極東全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危険アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適応シ且兩國カ此次ノ戦争参加ノ義務ヲ実行セムカ為行フヘキ処置ヲ速ニ協同考量スルモノトス

二、前項ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決定スルコトアルヘキ事項ヲ実行セムカ為兩國陸海軍此次ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキ方法及其条件ハ兩國当局官憲ニ於テ之ヲ協定スヘク該当局官憲ハ相互ノ利害問題ニ付互ニ慎重誠実ニ隨時協議シ並ニ兩國政府ヨリ確定シテ時期ヲ俟チ実行スルモノトス

右ニ対シ何分ノ義御回答ヲ得度右照会申進旁々本使ハ茲ニ

帝国政府ハ右貴国政府提議ノ趣旨ニ全然同感ヲ有スルモノニシテ前記綱領ニ依リ貴国政府ト協同措置スルハ帝国政府ノ欣快トスル所ニ有之候

右回答申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

(別 電三)

三月二十四日本野外務大臣発林公使宛電報第一九二号

日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル本野外務大臣往翰案

第一九二号

以書翰致啓上候陳者三月二十五日貴我兩國政府間ニ兩國共同防敵ノ為公文ノ交換ヲ了シ候処帝国政府ニ於テハ右公文ノ有効期間ハ兩國ノ軍事当局ニ於テ議定スルコトト致度候將又帝国政府ハ共同防敵ノ為ニ日本軍隊ノ支那国境内ニ在ルモノハ総テ戦事終了後ヲ俟チ支那国境内ヨリ一律撤退スヘキコトヲ特ニ茲ニ声明致候

右照会申進旁々本大臣ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

(別 電四)

三月二十四日本野外務大臣発林公使宛電報第一九三号

重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

敬具

(別 電二)

三月二十四日本野外務大臣発林公使宛電報第一九一号

日中軍事協定ニ関スル本野外務大臣往翰案

第一九一号

以書翰致啓上候陳者貴国政府ニ於テハ現下ノ時局ニ顧ミ左記ノ綱領ニ依リ帝国政府ト協同措置スルヲ貴我兩國ノ為必要ナリト信シ帝国政府ニ提議セラレタル本日附貴翰茲ニ致聞悉候

一、日本国政府及支那国政府ハ敵国勢力ノ日ニ露国境内ニ蔓延シ其結果將ニ極東全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危険アラムトスルニ依リ此ノ情勢ニ適応シ且兩國カ此次ノ戦争参加ノ義務ヲ実行セムカ為行フヘキ処置ヲ速ニ協同考量スルモノトス

二、前項ニ依リ兩國政府ノ合意ヲ經タル後決定スルコトアルヘキ事項ヲ実行セムカ為兩國陸海軍此次ノ共同防敵戰略ノ範圍ニ付協力ヲ行フヘキ方法及其ノ条件ハ兩國当局官憲ニ於テ之ヲ協定スヘク該当局官憲ハ相互ノ利害問題ニ付互ニ慎重誠実ニ隨時協議シ並ニ兩國政府ヨリ確定シテ時機ヲ俟チ実行スルモノトス

日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル在本邦中国公使来翰案和訳文

第一九三号

以書翰致啓上候陳者本日附貴翰ヲ以テ三月二十五日貴我兩國政府間ニ兩國共同防敵ノ為公文ノ交換ヲ了シタルカ貴国政府ハ右公文ノ有効期間ハ兩國ノ軍事当局ニ於テ議定スルコトト致サレ度旨御照会相成候処右ハ支那国政府ニ於テモ同意ニ有之候將又右貴翰ヲ以テ貴国政府ハ共同防敵ノ為ニ日本軍隊ノ支那国境内ニ在ルモノハ総テ戦事終了後ヲ俟チ支那国境内ヨリ一律撤退スヘキ旨特ニ声明相成致領承候右本国政府ノ訓令ニ基キ回答申進旁々本使ハ茲ニ重ネテ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候

(別 電五)

三月二十四日本野外務大臣発林公使宛電報第一九五号

日中軍事協定ニ関スル在本邦中国公使来翰案ノ英訳文

第一九五号

Monsieur le Ministre:

I have the honour to communicate to Your Excellency that the Government of China, believing that in the present situation, its co-operation with the

Government of Japan along the line hereinafter indicated is highly important in the interest of both countries, have authorized me to approach your Government with a view to arrangement for such co-operation.

1. Having regard to the steady penetration of the hostile influence into Russian territory, threatening the general peace and security of the Far East, the Government of China and the Government of Japan will promptly consider in common the measures which may be taken to meet the exigencies of the situation, and to do their share in the allied cause for the prosecution of the present war.

2. The means and conditions for the co-operation between the Chinese and Japanese armed forces in the joint defensive movements against the enemy, to give effect to the decision which may be arrived at by the two Governments in common accord under the preceding clause, will be arranged by the competent authorities of the two Powers, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters to be thus arranged by the

competent authorities will be put into operation at such time as the two Governments may eventually decide.

In requesting that Your Excellency may be so good as to favour me with a reply to the foregoing proposals, I avail myself of this opportunity to renew to you the assurances of my highest consideration.

(別電六) 三月二十四日日本野外務大臣發林公使宛電報第一九六号

日中軍事協定ニ関スル本野外務大臣往翰案ノ英訳文

第一九六号

Monsieur le Ministre:

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note under to-day's date, in which you were so good as to communicate to me that the Government of China, believing that in the present situation, its co-operation with the Government of Japan along the line hereinafter indicated is highly important in the interest of both countries, has authorized you to approach this Government with a view to arrangement for such co-operation.

1. Having regard to the steady penetration of

hostile influence into the Russian territory, threatening the general peace and security in the Far East, the Government of Japan and the Government of

China will promptly consider in common the measures which may be taken meet the exigencies of the situation, and to do their share in the Allied cause for the prosecution of the present war.

2. The means and conditions for the co-operation between the Japanese and Chinese armed forces in the joint defensive movements against the enemy, to give effect to the decision which may be arrived at by the two Governments in common accord under the preceding clause, will be arranged by the competent authorities of the two Powers, who will from time to time consult one another fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters to be thus arranged by the competent authorities will be put into operation at such time as the two Governments may eventually decide.

The Imperial Government, fully sharing the views embodied in the foregoing proposals, will be

happy to co-operate with the Chinese Government along the line above indicated.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

(附記一) 日中軍事協定ニ関スル在本邦中国公使來翰案

敬啓者中国政府鑑於目下時局依左列綱領与貴国政府協同処置信爲貴我兩國之必要茲依本国政府之訓令特向貴国政府提議本使深爲榮幸

一、中国政府及日本国政府因敵国實力之日見蔓延於俄國境內其結果將使遠東全局之和平及安寧受侵迫之危險爲適此項情勢及實行兩國參加此次戰爭之義務不能不及早協同考量施行之處置

二、依前項所述經兩國政府合意後因實行決定之事凡兩國陸海軍對於此次共同防敵戰略之範圍應行協力之方法及其條件由兩國当局官憲協定之該当局官憲對於相互利害問題互相慎重誠實隨時協議竝由兩國政府核定俟時機實行

以上提議相應函達敬請見復爲荷茲本使對於閣下特表敬意

敬具

(附記二) 日中軍事協定ニ関スル本野外務大臣往翰案ノ漢訳文

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三〇七

敬復者本日接准尊國內開貴国政府鑑於目下時局依左列綱領与帝國政府協同処置信為貴我兩國之必要特向帝國政府提議等語業經閱悉

一、日本国政府及中国政府因敵国実力之日見蔓延於俄国境内其結果将使遠東全局之和平及安寧受侵迫之危險為適応此項情勢及実行兩國参加此次戰爭之義務不能不及早協同考量應行之処置

二、依前項所述經兩國政府合意後因実行決定之事凡兩國陸海軍對於此次共同防敵戰略之範圍應行協力之方法及其条件由兩國当局官憲協定之該当局官憲對於相互利害問題互相慎重誠實隨時協議並由兩國政府核定俟時機実行

帝國政府對於貴国政府所提議主旨全然同感依前列綱領与貴国政府協同処置為帝國政府所欣快相應函復茲本大臣對於閣下特表敬意

敬具

(附 記三) 日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル本野外務

大臣往翰案ノ漢訳文

敬啓者 月 日貴我兩國政府因共同防敵業經互換公文帝國政府以為該公文之有効期間應由兩國軍事当局商定再因共同防敵日本軍隊在中国境内者俟戰事終了後應一律由中国境内

三〇〇

撤退帝國政府特此声明相應函達茲本大臣對於閣下特表敬意

敬具

(附 記四) 日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル在本邦中

国公使來翰案

敬復者本日接准尊國內開三月二十五日貴我兩國政府因共同防敵業經互換公文貴国政府以為該公文之有効期間應由兩國軍事当局商定等語中国政府對於此節亦正表同意再尊函所称因共同防敵日本軍隊在中国境内者俟戰事終了後應一律由中国境内撤退貴国政府特此声明等語亦經閱悉以上依本國政府之訓令相應函復茲本使對於閣下特表敬意

敬具

三〇七 三月二十四日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

中国ノ内閣更迭ニ依リ軍事協定ノ細目協議延

期ノ件

協第三号

(三月二十五日接受)

昨二十三日夜靳雲鵬ノ語ル所ニ依レハ支那側ハ軍事協約ニ関シ二十四日午後臨時閣議ヲ開キテ委員長ニ与フル指示ヲ決定シ之ニ基キ協約會議ヲ開ク予定ナリシモ形勢遽ニ變化シ馮ハ段ニ内閣組織ヲ命シ之ニ關聯シ内閣ハ一応総辭職ヲ

第一六三号(極秘)至急

往電第一五九号ニ関シ

本件軍事協定ハ三月二十五日本大臣ト在本邦支那公使トノ間ニ往電第一六〇号ノ趣旨ニテ公文交換ヲ了セリ尚本協定ハ当分發表セザル筈ニ付極秘ニ付セラレ度シ又確定英訳文ハ支那公使ト打合ノ上追テ電報スベシ

右在仏伊米各大使ニ含迄極秘トシテ転電シ置カレ度シ

三〇 三月二十六日

本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協定ニ関スル我方往翰案ノ英訳文ニ

付回電ノ件

第二〇二号

貴電第四一六号ニ関シ左ノ通

(一) Imperial Government fully sharing the views

(二) It is understood 以下ハ左記ノ通改マル積ニテ目下支

那公使ト打合中ナリ

It is understood that the matters thus arranged by the competent authorities shall be confirmed by the two governments and shall be put into operation

ナシタルヲ以テ今ヤ靳ハ委員長トシテ拠ルヘキ所ナク案ノ作為ニモ困難ナルヲ以テ直ニ協約會議ヲ開クニ由ナシ内閣組織モ三、四日中ニハ成立スヘケレハ夫迄會議ヲ延期セラレタシト、仍テ本職ハ此等ノ事情ニ関セス非公式ニテモ協議ヲ開キタシト申込ミタルモ靳ハ到底是ニ応シ得サル事情アルカ如キヲ以テ公式ノ交渉開始ハ暫ク之ヲ待チ坂西少將ヲ通シ協約ノ内容ニ関シ引続キ支那側トノ意思ノ疏通ニ努メ開會後ノ進捗ヲ速カナラシムル為ノ準備ヲナサントス

三〇八 三月二十五日

本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中共同防敵ニ関スル公文交換済通報ノ件

第二〇一号 (極秘) 至急

往電第一八九号ニ関シ

三月二十五日午前十一時三十分公文交換ヲ了セリ

三〇九 三月二十五日

本野外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛(電報)

日中軍事協定ニ関スル公文交換済ノ旨通報ノ件

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三〇八 三〇九 三一〇

三〇一

at such time as may be deemed opportune.

註 林公使発本野外務大臣宛電報第四一六号ハ再電請求ノ電報ナリ

三二一 三月二十六日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協定ノ附帶公文ノ英訳文通報ノ件

別 電 同日本野外務大臣宛林公使宛電報第二一〇五号
右英訳文

第二一〇四号(極秘)

往電第二一〇二号末段ニ関シ附帶公文英訳ハ別電第二一〇五号ノ通リトスルコトトシ之亦目下支那公使ト打合中ナリ

(別 電) 三月二十六日日本野外務大臣宛林公使宛電報第二一〇五号

(甲) 日中軍事協定交換公文ノ有効期間ニ関スル日本外務大臣ノ往翰英訳文案及(乙)右ニ対スル在本邦中国公使ノ復翰英訳文案

第二一〇五号

(甲)

Monsieur le Ministre:

With reference to the notes exchanged on March 25 instant between the Governments of China and of Japan on the subject of their joint defensive move-

ments against the enemy, I have the honour to propose on behalf of my Government that the period within which the said notes are to remain in force will be determined by the competent military and naval authorities of the two Powers. At the same time, the Imperial Government are happy to declare that the Japanese troops staying within the Chinese territory for the purpose of such defensive movements against the enemy will be completely withdrawn from such territory upon the termination of the war.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

(乙)

Monsieur le Ministre:

With reference to the notes exchanged on March 25 instant between the Governments of Japan and of China on the subject of their joint defensive movements against the enemy, I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's communication under to-day's date, proposing on behalf

of your Government that the period within which the said notes are to remain in force will be determined by the competent military and naval authorities of the two Powers. I am happy to state in reply that the foregoing proposal is accepted by my Government. I am further gratified to take note of the declaration embodied in your communication under acknowledgment, that the Japanese troops staying within the Chinese territory for the purpose of the defensive movements against the enemy will be completely withdrawn from such territory upon the termination of the war.

In communicating the above to Your Excellency under instruction of my Government, I avail myself of this opportunity to renew to you the assurances of my highest consideration.

三二二 三月二十八日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

日中陸軍共同防敵協定ノ有効期間等ニ関シ劉

崇傑内話ノ件

協第六号

(三月二十九日接受)

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二二

二十五日貴電第九〇号末文ノ協約有効期限ノ件ニ関シ一昨二十六日坂西少将カ劉崇傑(劉ハ今回特ニ軍事委員トシテ任命セラレタリ)ニ質シタルニ劉ノ言フ所次ノ如シ
最初貴国ヨリ章公使ニ示サレタル文書中ニ独逸勢力ノ同地域ニ浸潤云々トアリテ斯クテハ協約ノ目的ハ単ニ独逸ノミニ対スルニアルカ如ク見エ歐洲戦ニ参加シタルト何等關係ナク日支両国ノミ協商国ト離レテ単独ニ独逸ニ対シ軍事協同動作ヲ画策スル如ク解セラルルヲ以テ茲ニ有効期間ナル問題ヲ生セシナリ然レトモ二十五日交換セラレタル公文書中ニハ之ヲ改メ敵国実力トナシ尚今次戦争参加ノ義務ヲ実行スル為メ、トナシタルニ付有効期限ナル問題ハ最早議論トナラサルナリ云々

又今二十八日同人カ語ル所ニ依レハ曩ニ坂西少将一個ノ私案トシテ靳雲鵬ニ内示シタル協約案ニ対シテハ靳ト政府当局トノ間ニ内密ニ研究審議シアリシカ更ニ今二十八日ノ國務院會議ニ於テ軍事協約ニ対スル方針ヲ決定セラルル筈ナリ、而シテ支那側ノ方針トシテハ日支相互ノ間ニ聊カモ疑惑ヲ蹠カマラシメサル主旨ニ基キ充分ノ加除改正ニ関シ忌憚ナク意見ヲ吐露スル積ナルヘシ、此協約ヲ以テ直ニ永久

的攻守同盟ノ基礎トナスハ過早ニシテ且何トナク不安ナルモノト認メ多クモ之ヲ兩國提携ノ前驅トシ将来ノ形勢ニ依リ漸次其歩ヲ進ムル程度ニ止ムルヲ可トスルノ意見多数ナルカ如シ

三二三 三月二十九日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日本ノシベリア不出兵説ノ伝ヘラレザル様配

慮方訓令ノ件

第二一五号 (極秘)

貴官カ在支露国公使ニ対シ日本ハ西比利亞出兵ハ為サザルヘント内話セリトノ内報哈爾濱ヨリ或ル方面ヘ伝ハリ居ル処右ハ無論無根ノコトトハ存スルモ右ノ如キ誤報ノ伝ヘラレザル様可然御配慮アリタシ又過日帰朝シタル駐露支那公使等ノ言動ニヨリ軍事協約ノ進行ニ障碍アルヤノ報告我陸軍当局ニ達シ居ル由ノ処是亦西比利亞出兵ニ必要論ヨリ起リシコトニハアラザルヤト懸念セラルルニ付支那当局者ニ対シ斯ル疑念ノ生ゼザル様我軍事当局者トモ御打合ノ上適當ノ措置ヲ執ラレタシ

発表セラレ漸ク昨日閣員全部任命セラレタル次第ナリ又本件ハ事ノ性質上責任内閣トシテ一応閣員ニ承了セシメザルベカラズ実ハ一昨二十八日之ニ関シテ閣議ヲ開キ大体ヲ決定シ段総理ヨリ総統ニ申出デタル所総統ハ本件ハ当然責任内閣ノ責任ナリト言ヘリ而シテ段総理ハ全責任ヲ負ヒ之ヲ締結スル堅キ決心ヲナシアレハ多少ノ修正ヲ要スル意見ヲ有スルモ大局ハ既ニ決定シ速ニ靳雲鵬ヲシテ會議セシムル手筈ナリト答ヘ、今朝斬ハ三日間ノ請假ヲ申出タリ併シ病氣ハ差シタルコトナカルヘシト思考スルニヨリ尚督促シテ急速貴意ニ副フヘク時局ノ關係上当方ニ於テモ焦慮シ決シテ等閑ニ附スルコトナシ其辺篤ト諒察アリ度ト言ヘリ要スルニ内閣更迭ノ為多少時日遷延ハ已ムヲ得ザル所ナルモ御主旨ヲ体シ速ニ締結スルコトニ一同努力スヘク林公使モ閣下ト同意見ナリ目下ノ經過ハ数次報告セシ如ク概シテ順境ナリ

三二六 三月三十一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本ハ西比利亞ニ出兵セザルベシト述べタル

コトナキ件

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二六 三二七

三一四 三月三十日 本野外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協定ノ細目ヲ協議スベキ陸軍側委員
一名追加ノ件

第二一七号

往電第一七一号陸軍側委員四名ノ外在貴地斎藤少将モ之ニ加ハリ委員長ニ任命セラレタル旨陸軍省ヨリ通知アリタリ

三一五 三月三十日 斎藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

内閣更迭ニ伴フ協定細目協議停頓ノ打開ニ関
シ段芝貴ニ申入ノ件

協第八号

(三月三十一日接受)

貴電第百号敬承、今朝早速段芝貴ニ面会シ靳雲鵬ヨリ支那政府ノ誠意ハ委細承知シアルモ西方戰場ノ發展急速ナレハ此際大ニ貴我兩國ノ準備ヲ促進スルノ要アリ從テ軍事協約ハ成ルヘク速ニ締結スル様シ度一層ノ尽力アリタキ旨告ケタルニ段ハ当方ニ於テモ大ニ焦慮シアリ曩ニ貴官ニ対シ本月中ニ議了センコトヲ断言シタル所内閣更迭シ二十四日ニ

第四四七号 (三月三十一日接受)

貴電第二一五号前段ニ関シ本使ハ露国公使其他何レノ向ニ対シテモ御来示ノ如キ趣旨ヲ述ヘタルコトナシ

三一七 三月三十一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

日本国内ノシベリア出兵反對論ニ関シ劉崇傑
ノ船津書記官ニ対スル談話報告ノ件

第四五一号 極秘 (四月一日接受)

貴電第二一五号ニ関シ劉崇傑ハ兩三日船津ニ対シ日本新聞ノ報道ニ依レハ内田大使ハ日本ノ西比利亞出兵ニハ余リ賛成シ居ラレサル様見受ケラルルカ今回帰京セル劉公使モ内田大使トノ対談ニテ矢張り同様ノ「インプレッション」ヲ得タル旨申居リタリ又同公使自身モ此際支那ノ出兵ニハ余リ賛成シ居ラズ此外日本各新聞ノ論調其他ニ依リ推断スレハ貴国朝野ノ有力ナル方面ニテモ出兵反對論者尠カラザルヤニ見受ケラルルニ拘ラズ独リ日本陸軍側ニテハ極力出兵ヲ主張シ且ツ熱心ニ出兵ノ必要ヲ生スル如キ形勢ヲ馴致セシムル様運動シ居ラルルヤニ推測セラルル節アリ之等ノ消息ハ自然支那有識者中ニモ知レ渡リ居ルヲ以テ我政界ノ

一部ニテハ右ノ如キ日本ノ状態ニ対シ甚タ奇異ノ感ヲ抱クモノモアリ内ニハ一種疑惧ノ念ヲ起シ居ルモノモ有之ルヤニ見受ケラルト語リタル由ナリ

貴電陸軍側ノ報告ナルモノハ多分前述劉ノ談話等ヨリ胚胎伝播シタルモノニアムズヤト想像セラル、為念申進ズ(奉天經由三月三十一日午後九、五〇)

三一八 四月一日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

セメノフ等穩健分子ニ対シ日本側ヨリ充分ノ

援助供与ヲ上策トスル旨仏国代理公使ノ談話

報告並日中軍事協定ニ関シ主要連合国ニ内告

スル方可然旨稟申ノ件

第四五六号

往電第四四一号ニ関シ仏国代理公使ハ三月三十一日本使ニ対シ在「イルクーツク」仏国領事ハ時局ノ為メ特ニ天津ヨリ派遣シアル人物ナリトノコトニ付キ其報道ハ信憑スルニ足ルモノト認メラル又欧州方面ヨリ西比利亞ヘ派遣シアルタル仏国参謀大尉「ピシヨン」此程当地ニ来リタルガ其ノ言ニ依ルモ同地方ニ於ケル過激派ハ近來益々猖獗ヲ極メツ

ノ事実ヲモ考量ニ入レラレ軍事行動ノ全部ヲ我ニ独占シ彼等ヲ無視スルコトノ如キハ多少考慮スル必要可有之思考セラル

將又我軍事当局ト支那側トノ間ニ軍事協約ニ関スル商議進行中ナリトノ報道当地二三ノ新聞紙ニ現ハレタル為メカ仏国代理公使ハ本件ニ言及シ必要ノ前ニハ軍事協約ノ有無ハ何等価値ナク從テ連合側ニ於テ軍事行動ヲ執ル以上斯ル協約ナケレバトテ毫モ差支ナカルヘシト述ヘタリ右ニ対シ本使ハ態ト其其聞流シ置キタルモ該報告ニシテ斯ク世上ニ拡マリタル以上何時迄モ内密ニ付シ置クモ如何カト思考セララルニ付既ニ英國政府ニ対シ内告ノ次第モアリ他ノ連合国主要国政府ニ対シテモ夫々同様御内告相成方可然哉ニ存ゼラル為念申進ス

註 本件ノ肯定的回訓案(廢案)ノ欄外ニ小幡政務局長ニ依ル左ノ書入アリ

「本件ハ寺内首相不同意、当分此儘トス」

三一九 四月四日

齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中参謀次長宛(電報)

日中陸軍共同防敵協定条件ノ我修正案ヲ新雲

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三一九

ツアル由ニテ又同シク該地方ヨリ來燕シタル仏国技師ノ報告ニ依レハ同地方ニ在ル鐵道材料ニシテ過激派ノ横奪ニ委セラルヘキ虞アルモノ意外ニ多キ趣ナル旨ヲ談リ更ニ語ラ次キ西比利亞ノ現状ニ顧ミ秩序ヲ恢復センカ為メ日本政府ニ於テ断然タル措置ニ出デラレンコトハ外相「ピシヨン」氏ノ夙ニ要望スル所ニ有之而シテ之カ実行方法ニ付キ自分ノ竊カニ考案シタル所ニ依レハ過激派ニ対スル行動ハ「セメノフ」一派ヲ初メ露国人中ノ穩健分子ヲシテ直接之ニ当ラシメ日本側ハ右ニ対シ實力アル十分ノ後援ヲ供与シ彼等ヲシテ後顧ノ憂ナク其勢威ヲ張ルニ便ナラシムルヲ以テ上策ナルヤニ思ハル云々ト述ヘタリ右仏国代理公使ノ私見ハ一応首肯セラルル節アルノミナラズ這ハ或ハ当地ニ於ケル連合側各代表者ノ内々希望セル所ナランカトモ認メラルルニ付御参考迄ニ申進ス

尚「セメノフ」一派ニ対シテハ御承知ノ通り既ニ英仏等ヨリ兵器及軍資ノ供給ヲ初メ夫々援助ヲ与ヘ來リタル行懸リアルノミナラズ連合側將校ニシテ穩健分子援助ノ訓令ノ下ニ北滿並ニ西比利亞方面ニ於テ任務ニ服シツツアルモノモ有之帝國政府ニ於テ出兵ヲ断行セラルル場合ニハ右等既存

鵬ニ提出ノ件

協第十二号

(四月五日接受)

協第十一号報告ノ如ク坂西少將ヲ介シ斬將軍提案起草ノ意思ヲ確メ其説明ヲ求メタル結果案ノ増補修ノ程度ヲ知り得タルヲ以テ青木坂西兩閣下ト協議ノ上略ハ彼我意見ノ合致点タルヘシト思考セラルル修正案ヲ作り本日坂西少將ノ手ヲ經テ之ヲ斬ニ交附スルコトトセリ、該修正案ノ全文左ノ如シ

日支陸軍協同防敵協定条件

第一条 本条文ハ日支兩國政府協商ノ結果ニ基キ兩國政府ニ於テ交換セル文書附録第一、第二、第三号ニ依リ兩國陸軍当局互ニ委員ヲ派シ協定セルモノトス

第二条 日支兩國陸軍ハ極東全局ノ平和ニ対スル危險ヲ予防シ且欧州戰爭参加ノ義務ヲ実行センカ為メ協同防敵ノ行動ヲ採ル

第三条 軍事協同行動ニ関シ兩國ノ地位ト利害トハ平等ノ見地ニ於テ互ニ尊重スルモノトス

第四条 日支兩國当局ハ本条件ニ基キ行動ヲ開始スルニ當リ各々其本国軍隊及其他官民ヲシテ軍事行動区域内ニ在

ルモノニ対シ命令又ハ訓告ヲ以テ相互誠意親善同心協力シテ協約ノ目的ヲ達セシム、凡ソ軍事行動区域内ニ於ケル支那地方官吏ハ該区域内ニ存ル日本軍隊ニ対シ尽力協助スルノ義務ヲ有シ日本軍隊ハ支那ノ主權及地方ノ習慣ヲ尊重シ相互ニ注意ヲ加ヘ軍事ニ不便ヲ致サザラシム

第五条 協同防敵ノ為メニ日本軍隊ノ支那国境内ニ在ルモノハ総テ戦争終了後ヲ待チ支那国境内ヨリ一律撤退ス

第六条 支那国境外ヘ軍隊派遣ノ必要アル時ハ兩國ハ協同シテ之ヲ派遣ス

第七条 作戰区域及作戰上ノ任務ハ協同防敵ノ目的ニ適應スル如ク兩國軍事当局ニ於テ各々自国ノ兵力ヲ計リ別ニ之ヲ協定ス

第八条 日支兩國軍事当局ハ協同作戰期間及其準備期間ニ於テ協同動作ノ利便ヲ計ル為メ左記事項ヲ行フモノトス
一、作戰上ニ関シ各軍事機關ハ相互職員ヲ派遣シ連絡ノ任ニ充ツ

二、軍事行動及運輸補充ノ敏活確實ヲ計ランカ為メ陸海運輸通信諸機關ハ須ク彼此協同使用スヘシ

三、作戰上必要ノ建設例ヘハ軍用鉄道電信電話等ノ如キ

第十一条 本条件及本条件附屬ノ詳細事項ハ日支兩國ニ於テ等シク之ヲ公布スルコトナク軍事秘密トシテ之ヲ取扱フ

第十二条 本条件ハ日支兩國陸軍代表者記名調印シ各自本国政府ノ承認ヲ經タル上効力ヲ生シ直ニ協同防敵ノ準備トナシ其直接作戰ニ関スル事項ハ適當ノ時機ヲ待チ兩國政府知照シ相互承認ノ上之ヲ施行ス

第十三条 本条件ハ歐洲戦争終了シ協同防敵ノ目的消滅セハ則チ効力ヲ失フ

戦後ニ迄モ亘ル意義ヲ有スル甲案第七条ハ交換文書ノ性質上支那側ヲシテ強テ之ヲ容レシメントスル時ハ彼等ノ疑惧心ヲ増加スル虞アルノミナラズ本案ヲ削除スルモ事實ニ於テ左シテ差支無之ト認メテ之ヲ省キ又甲案第八条ヲ雜駁ナル委員ノ議ニ附スヘキ協約中ニ掲クルハ却テ彼等ノ間ニ物議ヲ醸ス原因トナルヘキ虞アルヲ以テ修正案第十二条ニ多少此意味ヲ含マシメ甲案第二条ノ要目及事前ノ準備ニ関スル第八条ノ如キハ之ヲ別途ノ協定ニ附スル考ナリ、要ハ大キク彼ヲ包容スルノ端緒ヲ玆ニ開クノ意義ニ於テ協約有効期間ハ戦争終了迄トシ仕事ヲ軍事行動開始前ニ為シ得ル程

コトニ関シ如何ニ設備スヘキヤハ兩國總司令官ニ於テ臨時之ヲ協定ス

四、軍備ノ充實ヲ計ランカ為メ兩國ノ兵器及軍需品並其製造原料ハ相互供給ノ途ヲ計ル其方法及數量ニ至リテハ各々其自国ノ需用ヲ害セザル範圍ニ於テ他方作戰ニ支障ヲ与ヘザル如ク為シ得ル限りノ努力ヲ以テ互ニ補助ス

五、衛生業務ニ関シ相互幫助シ治療防疫並保健上遺憾ナキヲ努ム

六、軍事協同行動上相互ノ便利ノ為メ軍事技術人員ニ関シテハ彼此互ニ補助シ以テ実戦ニ適應スルヲ努ム

七、作戰区域内ニ諜報機關ヲ設置シ並軍事所用地図及情報ヲ相互交換ス、諜報機關ノ通信連絡ニ関シテハ相互其便利ヲ補助スヘシ

八、協同ノ軍事暗号ヲ協同商定ス

第九条 軍事輸送ニ関スル東清鐵道ノ指揮保護及管理ハ本來ノ条約ヲ尊重シ臨時之ヲ協定ス

第十条 本条件実行ニ要スル詳細事項ハ日支兩國陸軍当局ノ指定セル各当業者ニ於テ協同シテ之ヲ商定ス

度ニ止ムルヲ至当ト認ム

前記修正案ハ之ヲ日本側ノ決定案トセズ尚余裕ヲ存シテ之ヲ斬ニ交附シ斬ハ内々之ヲ本日ノ國務會議ニ提出スル管ナルガ該案ニ対スル日本当局ノ意嚮ニ関シ至急何分ノ指示ヲ仰キタシ、尚修正案作為ニ際シテハ吉田海軍少將トモ協議セリ

支那側対案及我修正案ハ別ニ郵便ニテ本日發送ス

註 後出三二〇文書ノ附記「日支軍事協定細目案比較」ノ上段（協議ノ基礎案）ハ「日支陸軍軍事協約案」トシテ四月九日林大佐外務省ニ持參セルモノニシテ是ガ所謂甲案ニ該當スルモノト認メラル

三二〇 四月四日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛（電報）

日中陸軍共同防敵協定条件ノ我修正案中国國務會議ヲ通過シタル件

附記 日支軍事協定細目案比較

協第十三号 （四月五日接受）

協第十二号報告ノ我修正案ハ本四日朝坂西少將ノ手ヲ經テ靳雲鵬ニ交附セリ而シテ該案ハ本日ノ國務會議ノ討議ニ附

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二〇

セラレ概ネ異議ナク通過セル旨只今坂西少将ニ通告シ来レリ支那側ハ昨今協約ノ件内外ノ新聞ニ散見シ外人就中米人ノ注意ヲ牽クニ至リシヲ以テ外国ノ妨碍及国内ノ反對ヲ招カザル以前ニ兩三回ノ正式會議ニテ速ニ協約ヲ成立セシメタキ希望ヲ有ス依テ此機ヲ利用シ協約ヲ促進シタキニ就キ協第十二号ニ関スル御意圖至急承知シタシ尙支那側ハ甲案第八号ハ本協約ノ実行ヲ可能ナラシムル本文ナルヲ以テ勿論実行スヘキ意圖ナルモ之ヲ条文トシテ掲クルハ曩ニ述ヘタル如ク徒ニ物議ヲ醸スノ憂アルヲ以テ寧ロ速ニ之ヲ事實ニ現シタシトノ意見ナリ依テ我委員トシテハ此項実施ノ確証ヲ得バ強テ之ヲ条文トシテ掲ケシムル迄ノ必要ナシト信ス

(附記)

(政務局第一課)

日支軍事協定細目案比較

(協議ノ基礎案)

第一条 日支兩國陸軍代表者ハ日支兩國政府ノ合意ニ基キ茲ニ左ノ事ヲ協定ス

(我委員ノ修正案ニシテ國務會議ヲ通過セルモノ)

第一条 本条文ハ日支兩國政府協商ノ結果ニ基キ兩國政府ニテ於テ交換セル文書附録第一、

三二〇

第二、第三号ニ依リ兩國陸軍當局互ニ委員ヲ派シ協定セルモノトス

第二条 日支兩國陸軍ハ極東全局ノ平和ニ對シ危險ヲ予防シ且歐洲戰爭参加ノ義務ヲ実行セムカ為メ協同防敵ノ行動ヲ採ル

第三条 軍事協同行動ニ関シ兩國ノ地位ト利害トハ平等ノ見地ニ於テ互ニ尊重スルモノトス

第四条 日支兩國當局ハ本條件ニ基キ行動ヲ開始スルニ當リ各々其本国軍隊及其他官民ヲシテ軍事行動区域内ニ在ルモノニ對シ命令又ハ訓告ヲ以テ相互誠意和心同心協力シテ協約ノ目的ヲ達セシムル凡ソ軍事行動区域内ニ於ケル支那地方官吏ハ該区域内ニ在ル日本軍隊ニ對シ尽力協助スルノ義務ヲ有シ日本軍隊ハ支那ノ主權及地方ノ習慣ヲ尊重シ相互ニ

二、軍ノ行動及補給ノ敏捷且確實ヲ期スル為メ陸海運輸通信ノ諸機關ヲ相互共通シテ使用シ又要スレハ新ナル施設ヲ為ス

三、日本帝國ハ支那共和國ニ對シ要スレハ兵器其他ノ軍需品ヲ供給シ又支那共和國ハ日本帝國ニ對シ兵器其他ノ軍需品ニ要スル原料ヲ提供ス

右物量ノ所要數量、授受ノ期日及其方法ハ兩國各當事者ニ於テ相互適時ニ通告シテ補給ニ支障ナカラシムルコトニ勉ムヘキモノトス

三、作戰上必要ノ建設例ハ軍用鐵道、電信電話等ノ如キコトニ関シ如何ニ設備スヘキヤハ兩國總司令官ニ於テ臨時之ヲ協定ス

四、軍備ノ充實ヲ計ラシムル為メ兩國ノ兵器及軍需品並其製造原料ハ相互供給ノ途ヲ計ル其方法及數量ニ至リテハ各其自國ノ需用ヲ害セサル範圍ニ於テ他方作戰ニ支障ヲ与ヘサル如ク為シ得ル限りノ努力ヲ以テ互ニ補助ス

五、衛生業務ニ関シ相互幫助シ治療、防疫並保健上遺憾ナキヲ努ム

注意ヲ加ヘ軍事ニ不便ヲ致ササラシム

第五条 協同防敵ノ為メ日本軍隊ノ支那境内ニ在ルモノハ總テ戰爭終了後ヲ俟チ支那国境内ヨリ一律撤退ス

第六条 支那国境外ヘ軍隊派遣ノ必要アル時ハ兩國ハ協同シテ之ヲ派遣ス

第七条 作戰区域及作戰上ノ任務ハ協同防敵ノ目的ニ適應スル如ク兩國軍事當局ニ於テ各々自國ノ兵力ヲ計リ別ニ之ヲ協定ス

第八条 日支兩國軍事當局ハ協同作戰期間及其準備期間ニ於テ協同動作ノ利便ヲ計ル為メ左記事項ヲ行フモノトス

一、作戰上ニ関シ各軍事機關ハ相互職員ヲ派遣シ連絡ノ任ニ充ツ

第四条 第二条ニ基キ支那共和國領土内ニ配置シタル日本帝國陸軍ハ軍事行動終了セハ速ニ之ヲ撤去ス

第五条 日支兩國陸軍官憲ハ協同動作ノ円滑ナル遂行ヲ期スル為メ行動開始ニ方リ若ハ其必要ヲ予期シタル場合ニ於テ左記事項ヲ実施スルモノトス

一、軍ノ行動及補給ニ関スル協同ヲ適確ナラシムル為メ所要ノ軍事機關ニ各當事ノ職員ヲ相互派遣シテ連絡交渉ノ任ニ當ラシム

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二〇

四、相互採長補短以テ有利ニ軍事行動ヲ律スル為メ要スレハ一方ハ統帥補給其他ノ軍事技術等ニ関スル専門家ヲ差遣シテ他方ノ軍事ヲ補助ス

六、軍事同協行動上相互ノ便利ノ為メ軍事技術員ニ関シテハ彼此互ニ補助シ以テ実戦ニ適応スルヲ努ム

五、重要ノ地点ニ諜報機關ヲ配置シ且軍事ニ要スル地図並情報ヲ相互交換ス此等諜報機關ノ行動、通信連絡ニ関シテハ相互ニ其便宜ヲ図ル

七、作戰地域内ニ諜報機關ヲ設置シ並軍事所用地図及情報ヲ相互交換ス

諜報機關ノ通信連絡ニ関シテハ相互其便利ヲ補助スベシ

六、相互ニ共通スヘキ軍事暗号ヲ協定ス

八、協同ノ軍事暗号ヲ協同商定ス

第九條 軍事輸送ニ関スル東清鐵道ノ指揮保護及管理ハ本來ノ条約ヲ尊重シ臨時之ヲ協定ス

第十條 本条件実行ニ要スル詳細事項ハ日支両國陸軍當局ノ指定セル各当事者ニ於テ協同シテ之ヲ商定ス

第六條 本協約実施ニ要スル詳細ハ日支両國陸軍官憲ノ指定スル各当事者ヲシテ協定セシム

第七條 第二條ニ基ク軍事行動ノ進捗若クハ將來ニ於ケル宇

チ効力ヲ失フ

三三二 四月七日 齋藤在中國日本公使館附陸軍武官ヨリ
田中參謀次長宛(電報)

軍隊ノ編成訓練ノ問題並共同防敵軍事協定ノ
有効期間ニ関シ斬雲鵬内話ノ件

協第十六号 (四月八日接受)

協第十四号報告ノ如ク甲案第八条実行ニ関シ支那側ノ意思ヲ確メタルニ斬ノ云フ所要旨左ノ如シ

協約ノ実施ニハ勿論軍隊ノ編成訓練ヲ要ス而シテ此事ハ日本ノ援ヲ藉ラザルヘカラザルヲ以テ此主旨ハ協約案ニハ充分伏在シアル積ナリ国防ノ目的ヲ達スル為ニハ多数ノ軍隊ヲ編成スルヲ要ス予一個ノ考トシテハ差シ当リ五師団位ヲ編成シタシ然シ之トモ其經費ハ殆ド其全部ヲ日本ニ求メザルヘカラズ從テ此事ハ予一個ノ考ヲ以テ回答スルコト能ハザルヲ以テ政府ノ意思ヲ確メタル上何分ノ返答ヲ為スヘシ、又協約有効期限ノコトニ関シ小官ハ日本政府及我委員ハ今次協約ノ永久的ニ効力アラシムルノ希望ヲ有スル旨ヲ述ヘタルニ斬ノ云フ所要旨左ノ如シ、

内ノ大勢殊ニ東亜形勢ノ変化ニ伴ヒ取ルヘキ方針措置ハ事件ノ輕重ニ応ジテ日支兩國最高陸軍官憲又ハ其他ノ諸機關ニ於テ隨時之ヲ協定ス

第八條 日支兩國陸軍官憲ハ前記諸案ノ目的ヲ確實ニ達成スル為メ平素ヨリ和衷協同シテ用兵ノ計畫並軍隊ノ練成ニ遺憾ナキヲ期シ相互ニ補助スルモノトス

第九條 本協約及之ニ附帶スル協定ハ日支兩國ニ於テ嚴秘トシテ之ヲ取扱フモノトス

第十條 本協約ハ日支兩國陸軍代表者調印シ各自政府ノ承認ヲ經タル上効力ヲ生スルモノトス而シテ之カ廃棄ハ少クモ六ヶ月前ニ予告スルヲ要ス

日支ノ提携ハ世界ノ大局ヨリ觀テ極メテ緊要ノコトニシテ予自身モ亦速ニ其実現ヲ希望スト雖モ一般支那人ハ此關係ヲ理解セザルモノ多シ故ニ今急ニ之ヲ永久的ニ實現スルコト不可能ナルヲ以テ今次ノ協約ヲ以テ日支永久提携ノ端緒トナシ常ニ機會ヲ捉ヘテ逐次其歩ヲ進メ大亞細亞主義ノ実行ニ努メタシ

第十一條 本条件及本条件附属ノ詳細事項ハ日支兩國ニ於テ之ヲ公布スルコトナク軍事秘密トシテ之ヲ取扱フ

第十二條 本条件ハ日支兩國陸軍代表者記名調印シ各自本國政府ノ承認ヲ經タル上効力ヲ生シ直ニ協同防敵ノ準備トナシ其直接作戰ニ関スル事項ハ適當ノ時機ヲ待チ兩國政府知照シ相互承認ノ上之ヲ施行ス

第十三條 本条件ハ歐洲戰終了シ協同防敵ノ目的消滅セハ則チ協同防敵ノ目的消滅セハ則チ効力ヲ失フ

三三二 四月十一日 在北京吉田海軍少將ヨリ
加藤海軍大臣宛(電報)

日中海軍共同防敵協定ニ関スル中国側對案ニ
付報告ノ件

極秘第七号

十日支那側委員長ヨリ坂西少將ヲ經テ對案ヲ送り來レリ、本對案ハ曩ニ郵送セル陸軍案ニ準ジテ作レルモノニシテ加除訂正ヲ要スル点アリ目下我ニ於テ更ニ對案作成中成案ノ上請訓ス尚特ニ御指令ノ点アレバ至急電訓アリ度支那對案ノ全訳文次ノ如シ

中日海軍共同防敵協定条件

第一条 本条件ハ兩國政府協商ノ結果ニ基ツキ兩國政府ノ

交換セル文書ニ拠リ両国海軍当局ハ互ニ委員ヲ派シ左ノ事ヲ協定ス

第二条 中日両国海軍ハ遠東全局ノ和平ニ対スル危険ヲ予防シ且兩國ハ歐洲戦争ノ義務ヲ実行センガ為共同防敵行動ヲ執ル

第三条 軍事共同行動ニ関シ彼此兩國政府ノ地位ト利害トハ相互平等尊重ス

第四条 中日両国当局ハ本条件ニ基ヅキ行動ヲ開始スルニ方リ各々本国艦隊陸戦隊及官民ノ軍事行動区域内ニ在ル者ニ対シ命令又ハ訓告ヲ以テ彼此誠意親善同心協力シテ以テ共同ノ目的ヲ達セシム凡ソ軍事行動区域内ニ在ル中国地方官吏ハ該区域ノ艦隊陸戦隊ニ対シ尽力協助スベク日本艦隊陸戦隊ハ中国ノ主權及地方ノ習慣ヲ尊重シ人民ヲシテ不便ヲ感ジ軍事上ニ障害ヲ生ゼザラシム

第五条 中日両国海軍艦隊ハ防戦区域内ニ在リテ作戦ヲ実行スル時ハ凡テノ飛行機潜水艇ノ行動ハ如何ニシテ漁業者及住民ノ被害ヲ予防スベキヤ兩國海軍当局ニ於テ臨時之ヲ協定ス

第六条 中国ノ境外ニ軍艦ヲ派遣スル必要アレバ兩國ハ協

海図及情報ヲ相互交換ス、諜報機關、通信連絡ニ関シテハ相互補助シテ便利ヲ図ル

七、共同軍事暗号ヲ協同商定ス

第九条 本条件ヲ実行シ詳細ノ事項ハ中日両国海軍当局ノ指定スル各々当事者之ヲ協同商定ス

第十条 本条件及本条件ニ附属スル詳細ノ事項ハ中日兩國ニ於テ等シク之ヲ公布スルコトナク軍事秘密事項トシテ取扱フ

第十一条 本条件ハ中日両国海軍代表者記名調印シ本国政府ノ承認ヲ經タル時效力ヲ發生シ直ニ共同防敵ノ準備ヲナシ直接作戦事項ニ関シテハ適當ノ時機ヲ待チ兩國政府ノ知照ヲ經テ互ニ承認シテ之ヲ施行ス

第十二条 本条件ハ歐洲戦争終了シ共同防敵ノ目的消滅セバ即チ其ノ效力ヲ失フ

三三三 四月十一日 在北京吉田海軍少將ヨリ加藤海軍大臣宛(電報)

日中海軍共同防敵ニ関スル中国案ニ対スル我

修正案ニ付請訓ノ件

動シテ之ヲ派遣ス

第七条 作戦区域及作戦上ノ任務ハ共同防敵ノ目的ニ適應スル如ク兩國海軍当局ニ於テ各々本国ノ兵力ヲ量リ別ニ之ヲ協定ス

第八条 中日兩國海軍当局ハ共同作戦期間及其準備期間ニ在リテ協同動作ノ便利ヲ図ル為左ノ事項ヲ行フ

一、作戦上ニ関スル各軍事機關ニ彼此相互職員ヲ派遣シ連絡ノ任ニ充ツ

二、軍事行動及運輸補充ノ敏活確實ヲ図ル為海陸運輸通信ノ諸機關ヲ彼此共同使用ス

三、艦艇、兵器及軍事機具等ノ修造ニ関シ兩國工廠及船渠ハ互ニ相補助ス、其ノ要スル材料、数量、授受ノ時日及其ノ方法ヲ兩國当事者ニ予メ通告シテ以テ過誤無カラシム

四、衛生上相互ニ補助シ治療、防疫及保健上遺憾無カラシム

五、軍事協同行動上相互ノ便利ノ為軍事技術人員ヲ彼此互ニ相補助シテ以テ実戦ニ適應セシム

六、軍事行動区域内ニ諜報機關ヲ設置シ並ニ軍事需要ノ

極秘第八号 (四月十二日接受)

一、第七号電報ニテ報告シタル支那案ニ対スル我修正案左ノ如シ

表題ヲ日支海軍共同防敵軍事協定ト改ム

前文トシテ「日支兩國政府ハ協商ノ結果ニ基キ兩國政府ニ於テ交換文書ニ拠リ兩國海軍当局ハ互ニ委員ヲ派シ左ノ事項ヲ協定ス」ヲ加フ

第一条 支那案第二条ニ同シ、但シ「中日」ヲ「日支」トシ「遠東」ヲ「極東」ニ改ム

第二条 支那案第三条ニ同シ、但シ「日中共同軍事行動ニ関シ兩國ノ地位ト利害トハ平等見地ニ於テ相互ニ尊重スルモノトス」ニ改ム

第三条支那案ハ第四条ニ同シ、但シ「陸戦隊」削リ「訓告ヲ以テ」ヲ「訓告ヲ發シタル」ト改メ「凡ソ」以下全部ヲ削ル

第四条 支那案第七条ニ同シ

第五条 第一項第一号、支那案第八条第一項第一号ニ同シ、

第二号 支那案第二号ニ同シ、但シ「彼此」以下ヲ

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二三

「為シ得ル限り相互ニ便利ヲ図リ」ト改ム、
第三号 支那案第三号ニ同シ、但シ「造修」ノ次ニ
「供給」ヲ加ヘ「其ノ要スル材料」ヲ「之ニ要スル物
件」ニ改ム

第四号 支那案第四号ニ同シ

第五号 協同軍事行動上相互ニ便利ヲ図ル為軍事技術
人員ヲ派シ彼此ヲ補助シ以テ実戦ノ適応ニ努ム

第六号 必要ナル地点ニ謀報機関ヲ設置シ又行動ニ要
スル水路図誌及情報ヲ交換ス以下支那案第六号ニ同シ
第七号 支那案第七号ニ同シ

第六条 支那案第九条ニ同シ但シ「中日」ヲ「日支」ト
改メ「之ヲ」以下ヲ「ヲシテ之ヲ隨時協同商定セシム」
ト改ム

第七条 支那案第十条ニ同シ

第八条 支那案第十一条ノ「経タル時」以下ヲ「経テ效
力ヲ生ス而シテ直ニ共同防敵ノ準備ヲナシ其ノ作戦行動
ハ適當ノ時機ヲ待チ兩國政府ニ知照シテ之ヲ開始ス」ト
改ム第二項トシテ支那案第十二条ヲ加ヘ

第九条 本協定ハ日本文及漢文各二通ヲ作り対照シテ記

和衷協同シテ用兵計画及将卒ノ練成ニ遺憾ナキヲ図リ
相互ニ補助ス

第五条 本覚書ハ日支兩國海軍代表者ニ於テ協議決定シ
茲ニ記名調印ス

三、前諸号以外差当リ協定スヘキ事項有ラバ至急御電令ヲ
仰ク

四、今回ノ協定ニ関シテハ支那側モ誠意ヲ以テ事ニ当リ速
ニ協定ヲ成立セシメントスル我希望ニ迎合シツツアルニ
依リ此機ヲ失セズ一氣ニ決定スルヲ得策トス成ルヘク速
ニ訓電ヲ仰ク

三二四 四月十二日

小幡政務局長ヨリ
北海道長官及各府県知事宛（電報）

日中軍事協定其他軍事ニ関スル記事ノ新聞紙

掲載ニ付警告方ノ件

左記事項ニ付新聞紙ニ掲載スルトキハ禁止セラルコトアル
ルヘキニヨリ各社ヘ嚴重警告セラレタシ右依命

一、日支軍事協定ニ関スル事項

二、支那又ハ露西亞ニ対スル帝国ノ軍事的援助ニ関スル事

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二四 三二五

三二六

名調印シ双方各々其ノ一通ヲ収メテ証拠ト為ス
二、尚別ニ覚書トシテ左ノ通り協定ノ予定ナリ

日支海軍共同防敵軍事協定覚書

本覚書ハ日支海軍共同防敵軍事協定ニ基キ其ノ実施ニ関
シ差当リ必要事項ヲ定ムルモノトス

第一条 軍事協定第四条ニ基キ左ノ如ク協定ス

一、日本海軍ハ東海、支那海及之ニ連接セル可航水路
並ニ其ノ他ノ海面ニ行動ス

二、支那海軍ハ主トシテ東海、支那海及之ニ連接セル
可航水路ヲ行動シ必要ニ応シ其ノ他ノ海面ニ日本海
軍ト協同シ行動ス

第二条 軍事協定第五条第一項ニ基ツク職員ハ差当リ公
使館附海軍武官及駐在海軍武官ヲ以テ之ニ充テ其ノ他
ハ必要ニ応シ臨時協定派遣ス

第三条 軍事協定第五条第一項ニ基ツク水路図誌ノ交換
ハ他方ノ要求ヲ待ツテ之ヲ行フ、而シテ行動区域内ニ
於ケル港湾ノ補測ハ必要ニ応シ双方協定ノ上之ヲ行フ
第四条 日支兩國海軍ハ本覚書第一条ノ実行及其ノ他ノ
行動ヲシテ軍事協定第一条ノ趣旨ニ副ハシムル為互ニ

項

三、動員又ハ出兵ニ関スル事項

三二五 四月十七日

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛

日中軍事共同防敵協定交渉ニ関スル中国新聞

ノ論調報告ノ件

機密第一五九号

（四月二十四日接受）

大正七年四月十七日

在支那

特命全權公使男爵 林 樞助（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

共同出兵交渉ニ関スル新聞記事送付ノ件

今回ノ日支共同出兵ニ関スル軍事協議秘密進行ノ説一度伝
ヘラルルヤ上海ニ於ケル民党側新聞ハ取リテ以テ段内閣攻
撃ノ資トナシ有ラユル揣摩臆測危激ノ筆ヲ弄シテ世人ヲ疑
惑セシメツツアル一斑ハ有吉総領事ノ電報乃至報告ニテ御
閱悉ノ通りニ有之当北京ニ於テハ進歩党系ノ国民公報及晨
鐘報ハ最初ヨリ鋭意シテ此機密消息ノ探查報道ニ勉メ四月

十六日紙上ニハ上海新聞ノ転載乃チ有吉電報ノ周自齊親戚ノ者カ梁士詒ヨリ得タル密議協商ノ成行ナリトテ正確ナル事実ノ報道ヲ為シ居リテ一般重大ノ注意ヲ喚起シ居レルカ更ニ十七日紙上ニハ「中日交渉ノ大事件」トテ特別活字ヲ以テ本件ノ成行ヲ略叙シ昨十六日ノ國務會議ノ席上外交総長ハ本件ニ提及スル処アリ支那軍事委員ノ対案ニ付キ討議ノ末重ネテ支那委員ノ再考ヲ求メタレハ今一回ノ國務會議ヲ経ザレバ確定ニ至ラザルヘシ云々トノ消息ヲ伝ヘタル後其社論ニハ「日支新交渉ノ為メ政府ニ警告ス」ト題シ左ノ如ク論ゼリ

日本カ此度ノ西比利亜出兵ハ我ト共同行動スルノ故ニ我ニ向ヒ多端ノ条件ヲ提出シ兩國ノ当局者双方秘密ヲ嚴守シ其内容ハ今尚ホ詳悉スル能ハザルモ惟タ吾人ノ知ル所ニ依レハ軍事計画ノ外借款問題軍器問題ニ涉及セリ聞ク其ノ軍事計画ノ内容ハ大ニ日支ノ攻守同盟ヲ結ハシムルノ概アリ少クトモ国防ハ共同ニスヘシトハ其大略ナリ此種重大ノ國際交渉ハ政府ノ如何ニ注意謹慎シ詳細ニ利害得失ヲ研究スヘキカハ其第一要義ナレハ外交ノ専方ヲシテ交渉ノ局ニ当ラシムヘキニ交渉開始後今日ニ至ル迄全

キナシ外交ノ弁理ハ既ニ外交当局ノ專責ナルニ今ヤ乃チ与リ聞カシメス反ツテ武人ヲシテ専ラ其任ニ当ラシメ外交部ハ已ニ形虚設ニ同シ窃ニ恐ル将来各方面ニ関スル種々ノ對外交渉事件ハ均シク外交部ヲ不問ニ置キ直接專員ヲ派シテ人ト交渉セシムル例ヘハ軍事ニ関シテハ靳將軍交渉ノ局ニ当ルヘクハ財政ニ関シテ實業ニ関シテハ財政部ハ即チ員ヲ派シテ外ニ對シ自由ニ借款スヘク農商部モ外ニ對シ自由抵当トスルヲ得ヘシ此端一度開ケハ禍患窮ナシ今ノ計ヲ為スニ政府ハ応ニ速ニ猛省シ弁法ヲ變更シ速ニ此次ノ日支交渉事件ヲ靳將軍ノ手ヨリ外交部ニ移歸弁理セシムヘシ若シ此次ノ交渉軍事ニ關係シ吾外交当局不明ノモノハ政府ヨリ一二軍事知識ニ富ムノ大員ヲ派シ専ラ外交部ノ諮詢ニ備フルカ或ハ外交部ト会同弁理悉心研究セシムヘク総ジテ万一ノ疏虞ナキヲ期スヘシ此レ則チ吾人カ特ニ政府ノ為メニ警告スル者ナリ

前述記事ト云ヒ此論ト云ヒ正ニ支那政府内部ノ動搖反感ノ一斑ヲ窺知スルニ足ルモノニ有之將又先是当地ノ各紙ハ右晨鐘國民公報等ニ驚起セラレ一般深甚ノ注意ヲ払フニ至リ兎ニ角此種重大ナル交渉協議カ絶対秘密ノ裡ニ單純ナル軍

然靳雲鵬ト日本ノ齋藤少將ノ二人カ秘密ニ談判シ其談判ノ如何今日交渉ノ程度如何ハ拳國人民ノ茫然知ラザルノミナラズ赫然トシテ全外交事件ヲ掌ル外交部モ尚ホ五里霧中ニ在リト且ツ靳將軍ト齋藤少將ハ決シテ公式ノ交渉ニ由ラズ惟タ私人談判ニ依ルハ其ノ日本提出条件ノ如何ニ論ナク國民ハ已ニ疑懼ヲ深クセリ即チ兩國此次ノ談判ノ手続ニ就テ論スルニ正式公式ニ依ラザルハ外間ノ疑懼ヲ滋クセル又何ゾ其然ルヤ怪マンヤ常例ヲ以テ言ヘハ國際交渉事件ハ巨細トナク外交部ニ由ラザルナキハ責任ヲ明ニスル所以ナリ輕微ノ交渉案サヘ尚ホ外交部ヲ離ルルヲ許サザルハ勿論他人ニシテ越俎代庖ストセハ其交渉員ノ派遣ニ外交部ノ承諾指揮ヲ要スルハ又勿論ナリ吾人ハ日本提出ノ条件ニ就テハ後日批評ヲ加フヘク即チ先ツ交渉手続ニ反對セザル能ハズ靳將軍ハ武人ナリ其軍事知識ハ如何ニ優長ナリトスルモ而カモ其知識ハ軍事ニ限ラレ其外交ノ道ト夫ノ交渉文字ノ一句一字ノ間隨時隨處ニ鋒銳ヲ藏セザルナキハ彼軍人ヲ以テ焉ンゾ此等ノ奧突ヲ知ラン稍々一々明カナラザレハ即チ危機ヲ踏ム双方調印ヲ經バ鉄案山ノ如ク大力アリト雖モ術ノ挽回スヘ

事者間ニ進行セラルルノ危險ナリトノ輿論ヲ惹起スルニ至リ現ニ段政府擁護ノ第一人者倪嗣冲、徐樹錚等ノ機關紙タル「國是」ノ如キモ十七日ノ論說欄ニ特ニ「中日ノ交渉ハ宜シク國人ニ宣示スベシ」トノ說ヲ掲出シテ國民ノ疑惑ヲ去ルヘキヲ痛論シ居レリ

右及報告候也

三二六 四月十九日 在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛（電報）

日中軍事協定交渉ニ関スル晨鐘報ノ論說要旨 報告ノ件

別電 四月十九日林公使発本野外務大臣宛電報第五五

六号

右晨鐘報論說要旨

第五五五号 （四月十九日接受）

四月十八日晨鐘報ハ日支交渉問題ト題シ大樣別電第五五六号ノ如キ論說ヲ掲ケ益世報モ亦日支交渉問題ト題シ国会ノ不法ニ解散セラレタル今日國民ハ政府ヲ監督スル責務アレハ省議會、商務總會及國民代表ハ大会ヲ開キ政府ニ對シ質問シ協商國ニ声明スル等ノ積極的運動ヲ開始スヘシトノ煽

動的論説ヲ掲ケタリ委細郵報ス（奉天録由四月十九日前八、一五）
（別電）

四月十九日在中国林公使発本野外務大臣宛電報第五五六号
四月十八日附晨鐘報論說要旨

第五五六号

（晨鐘報要旨）

不幸ニシテ独逸ト露国ノ過激派相結托シテ遠東ヲ騒乱スルニ於テ日支兩國出兵シテ侮リヲ防クヘキハ言ヲ俟タズ既ニ一旦出兵セバ其正ニ共同動作ニ出ズ可キハ言ヲ俟タズ然ルニ（一）兩國ハ歐洲ヘ出兵スルノ必要アリヤ（二）日本ハ畢竟出兵スルヤ否ヤ（三）出兵ストセハ兩國ノ目的ハ相同シキヤ否ヤノ問題ヲ解決シテ後批評ヲ試ミン

第一、独逸ハ今尚世界大帝國ノ建設ヲ夢ミ東亞ニ野心ヲ抱ク可キモ今日乾坤一擲ノ第一戰ヲ試ミ居ルノ際東亞ニ逞シウスルノ余力ナシ露國ノ過激派ニ至テハ独逸ニ屈シタル後國民ノ信仰ヲ失ヒ勢力衰ヘ国内干戈相次キ自ラ顧ミルノ逞アラズ何ノ余力アリテ外國ト競ハン日本新聞ノ伝フル独逸俘虜ノ蠢動過激派ノ陰謀ノ如キハ出兵鼓吹ノ地歩トナサンガ為ノ誇張ナリ吾人ハ将来出兵ノ必要ナシトハ云ハザルモ

化ヲ激成セン今姑ク之ヲ論ゼザルモ日本トノ共同出兵行動ノ範圍ニハ先ツ制限ヲ明カニスルノ要アリ日本ガ出兵ニ依リ種々ノ要求アリトセハ之レ大ニ批評ス可キモノナリ云々

三二七

在中国林公使ヨリ
本野外務大臣宛

日中軍事協定ニ関スル北京リーダー紙ノ社説
報告ノ件

公第一一一号

（四月二十四日接受）

大正七年四月十九日

在支那

特命全權公使男爵 林 權助（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

日支軍事協定ニ関スル「ペキン、リーダー」記事報告
ノ件

日支軍事協定ニ関スル問題カ最近当地英漢各新聞紙上ニ喧伝セラレツツアル次第ハ累次及報告置候通ニシテ殊ニ上海「チャイナ、プレス」カ本件ニ関シ比較的詳細ナル報道ヲ伝フルヤ当地各新聞ノ多クハ何レモ右記事ヲ轉載シ本問題ハ昨今著シク一般内外人ノ注意ヲ喚起シツツアル処本月十

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二七

今日ハ其時機ニアラズ

第二、日本出兵ハ最初国内ニ議論アリ国会元老ニ異議アリ与論ノ反対最モ甚タシ又米國ハ初メヨリ冷静ノ態度ヲ抱キ其理由トシテ日本ノ出兵ハ露人ノ反感ヲ激発シ却テ独逸ト接近セシメント又過激派ハ日本兵カ浦潮ニ上陸セハ敵視セント宣言セリ四月十一日大阪毎日新聞掲載ノ Westminster Gazette 宣言ニ日本ノ出兵ハ其意如何ニ論ナク必ズ露國民全体ノ最モ猛烈ナル憤怒ヲ招カン日本ノ出兵ハ米國ノ反対ニ依リ暫時中止セルモ英國ノ輿論ハ須ラク最終ノ制止ヲ加フヘント是ニ由テ觀レハ内外ノ牽制未タ日本カ能ク西伯利亞ニ出兵スルヤ否ヤヲ知ラズ

第三、日本ノ出兵ハ大義名分上東亞平和維持ト云フモ此目的以外尚他ノ目的アルニアラズヤ形勢ノ變化ハ何人モ逆睹シ難シ我カ國ニシテ出兵ストセハ其赤裸々ナル目的ハ邊境ノ防護ニアリ邊境ノ防護ハ所謂東亞平和維持ノ範圍内ナルモ日本ノ出兵ハ進取的ニシテ我カ出兵ハ保守的ナリ其範圍實ニ大小広狭同シカラズ

要スルニ今日出兵ヲ云フ時機尚早シ時勢迫テ出兵ノ必要アラシムモ須ラク内外ノ同情ヲ得ルニアラザレバ或ハ却テ變六日ノ「ペキン、リーダー」ハ「The Foreign Office」ト題スル別添切抜ノ如キ社説ヲ掲ケ此種國際的事項ノ掌理ハ外交当局当然ノ責務ナルニ拘ラズ彼我軍人ニ依リ商議セラレツツアルノ不都合ヲ極言シ宜シク外交当局ノ手ニ移属セシムベキ旨ヲ声称シタルカ超エテ翌十七日ノ紙上ニ於テ本商議ノ内容ニ関シ別紙ノ如キ記事ヲ掲ケタル上右ニ関連シテ「Wherefore The Demands」ナル題下ニ於テ所謂

軍事共同動作ニ関スル諸般ノ協定ニ先チ須ク先ツ（一）日支兩國ハ西伯利亞ニ出兵スルノ必要アリヤ否ヤヲ攻究セザルヘカラザルノミナラス（二）果シテ日本カ西伯利亞出兵断行ノ決意アリヤ否ヤヲ明カニシ更ニ進ンテ（三）日本出兵ノ真目的カ果シテ支那出兵ノ動機ト同一ナリヤ否ヤヲ查覈スルノ必要アル旨ヲ提倡シタル上西伯利亞ノ狀態ハ日本新聞紙上ニ於テ熾ニ喧伝セラレタルカ如ク危殆ニ瀕セルモノトハ信シ難ク從テ未ダ軍事の行動ニ出ヅルノ時機ニ達セザルノミナラズ日本ノ西伯利亞遠征モ尚未決ノ問題ナリト云フベク而シテ兩國出兵ノ目的ニ至テハ支那ハ何等露國ニ干涉セムトスルモノニ非ズシテ一ニ其邊境防禦ノ必要上自衛ノ策ヲ執ラムトスルニ過ギズシテ日本亦一ニ極東ニ於ケル平和維持

ノ為ナルヲ宣明スト雖果シテ日本カ他ニ何等ノ動機ヲ懷抱スルモノニ非ザルヲ断定シ得ル者無カルヘク現ニ青島占領前同港還附ヲ予約シタルニ拘ラズ尚ホ依然之ニ占拠スルノ事實ニ顧ミルトキハ前記日本ノ宣明セル出兵ノ理由モ畢竟將來ノ為ニスル処アラムトスルノ動機ニ出デタル所謂愛他主義ノ標榜ニ非ザル無キ哉ヲ諷シタル後要スルニ前掲三問題ニ対スル満足ナル了解ヲ得ズシテ軍事共同動作ヲ云々スルカ如キハ早計ヲ免レザルト同時ニ右共同動作ノ問題ノ決定セラレザルニ先チ或ハ要求ヲ提起シ若クハ右ニ関スル商議ヲ開始スルカ如キハ更ニ大早計ト謂ハザルヘカラザル旨論結致居候委細ハ各別紙ニ就キ御了悉相成度此段及報告候也

註 別添切抜省略

三二八 四月二十日 在上海松井陸軍中佐ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

岑春煊張紹曾等ノ南北和平要望並南方派ノ日

中軍事協定反対ノ動向ニ関シ報告ノ件

上海電第五三〇号

(四月二十一日接受)

昨十九日岑春煊張紹曾ハ上海護軍使盧永祥ノ同意ヲ得連署

榮廷一派トノ間ニモ未タ何等ノ脈絡ナキモノノ如シ又在上海孫洪伊一派ヲ主トスル過激派国會議員四十五名ハ連署ヲ以テ過般來伝ヘラレタル日支密約ハ国会ノ承認ナキ間無効ナル旨ヲ宣言シ更ニ日本当局ノ態度ヲ誹議シテ日本朝野ニ訴ヘテ其ノ政府ノ失策ヲ警醒シテ兩國根本的親善ヲ図ランコトヲ請ヒ協商諸国ニ檄シテ支那ノ参戦力国内ノ和平ヲ素リ又日本カ機ニ乗シテ支那ニ於ケル列国ノ均勢ヲ破ラントスルノ危険アルコトヲ警告スルノ宣言ヲ發表セリ、福建ニ派遣セラルヘキ浙江第一師歩兵三營、砲兵一隊ハ昨十九日寧波ヨリ海路廈門ニ輸送セラレシ如ク更ニ略同数ノ一支隊ハ福建ニ急派セラルル模様ニテ外ニ在上海第一及練習艦隊ノ主力ハ近々広東方面ニ至リ龍濟光軍援助ノ計画ナル旨伝ヘラルルモ未タ実行ニ至ラズ

三二九 四月二十三日 在上海松井陸軍中佐ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

日中軍事共同防敵協定及国内時局ニ関スル李

純ノ内話報告ノ件

上海電第五十四号

(四月二十四日接受)

二十二日南京李督軍ノ磯谷ニ語レル要旨

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三二九

シテ各省軍民長官宛目下對外關係危急ニ際シ徒ラニ国内私怨ヲサシハサミテ争鬭ヲ事トスルノ危キヲ述ヘ南北共速ニ停戦シ先ツ旧国会ヲ回復シテ国本ノ動揺ヲ防キ更ニ新国会ノ召集ノ法ヲ定メ争端ヲ解決スヘキ件ヲ電報セリ右ニ付張ノ言ニ依レハ盧永祥ハ久シク既ニ心中和平意見ヲ有スルモ主戦派ニ制セラレテ之ヲロニスル能ハザリシカ今ヤ曹錕、張懷芝等ノ反対ニ依リ著シク主戦派ノ氣勢ヲ挫クニ至リシノミナラス南北官民共ニ和平ヲ希望セル今日段政府カ断乎主戦ヲ排シ調停的態度ニ出ヅルニ依リテ以テ段派ノ地位ヲ保ツ所以ナルコトヲ自覺セシニ依ルモノニシテ段祺瑞カ翻然覚醒シ得ルヤ否ヤハ疑問ナレトモ各省軍民長官ノ多数カ和平解決ヲ主張スルニ至レハ段ト雖モ遂ニ之ニ随從スルカ又ハ自ラ隱退スルノ外アラザルヘク予(張)ハ勿論岑春煊モ段ニシテ能ク覚醒セハ徒ラニ旧來ノ感情ニ捕ハルルコトナク東亞ノ危局ニ鑑ミ段ヲ援ケテ支那ノ統一ニ努力スルヲ厭ハズト語レリ尚本件盧永祥ノ態度ニ付キテハ著シク世人ノ注意ヲ惹キシカ如キモ亦以テ由來国民党ノ軟派タル政学会派ヲ通シテ段岑兩派接近ノ端緒ヲ實現セルモノトモ觀察セラルル節ナキニアラス但シ岑ノ此態度ハ唐繼堯ハ勿論陸

日本政府カ北洋派又ハ段祺瑞ヲ特ニ援助シ南方ニ冷淡ナル如ク世間ニ伝ヘラルルモ予(李)ハ之ヲ信ゼズ支那人ニ於テコソ目下或ハ南北ノ區別アランモ日本トシテ斯ノ如キコトアルヘキ筈ナシ必ズ支那人全体ニ対シ好意ヲ有セラルルモノト信シアリ尚又近來軍事協約ニ就キ種々ノ謠言起リツツアルモ是レ多クハ其ノ源ヲ外國人ニ発スルモノナルヘク過般段總理ヨリ特使ヲ以テ協約案ヲ示シ來レルカ全然兩國国防ノコトノミニシテ予ハ衷心是ニ同意セシ次第ナリ世間伝フル所ハ八九分通り誤伝ナリ然レトモ事機密ニ属シ外聞ヲ恐ルルヲ以テ部務ニ対シテモ其箇条ハ決シテ我國威ヲ損スル如キモノニアラサル旨ノミ示スニ止メ置ケリ国内時局ニ関シテハ一日モ支那統一ノ速ナランコトヲ希望シ居リ而シテ今ヤ和平ノ気分ハ充分熟シアルハ疑ナキ所ナルモ尚一戦試ムルニアラザレバ機會ヲ得ザルヘシ北軍トシテ現在湖南ニ於ケル南軍ノ陣地ヲ攻撃占領セハ南軍ハ湖南々境ノ地ノ利ニ拠リ北軍ノ兩江侵入ヲ防止スルニ至ルヘク果シテ然ラハ北軍ハ更ニ浙江福建方面ヨリ其背後ヲ衝クノ計画ナルカ如キモ現在ノ南軍ノ陣地ヲ占領セハ南方ハ恐ラク屈伏スルニ至ルヘク此ノ時ニ於テ初メテ支那ノ統一ヲ見ルニ至

ルヘシ云々

右ハ李從來ノ主張ニ照シ支那ノ和平統一ヲ希望シアル点ニ於テハ異ナル所ナキモ南軍ヲ屈伏セシメ以テ統一ヲ得ントスルカ如キハ北方主戦派ノ意嚮ト相離ルル遠カラズ李力從來ノ沈黙ハ其ノ裏面ニ於テ段ニ迎合シツツ大勢ニ順応スルノ準備ト見ユレト果シテ其真意ヲ吐露セルモノナルヤ疑ハシク却テ何トナク当テ摺リノ意ヲ含メルヤニモ感セラル

三三〇 四月二十五日 在上海松井陸軍中佐ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

在上海広東人会員ノ一部日中軍事協定反對運

動ノ件

上海電第五五号

(四月二十六日接受)

在上海広東人会員ノ一部ハ予テ日支軍事協商ニ関シ反對運動ヲ計画シアリシカ二十三日在上海商民各種ノ団体三十七個ノ連名ヲ以テ北京政府ニ対シ該協商反對電ヲ発シ又各省督軍省長及全国商会連合会ニ宛テ同様ノ檄文ヲ送付セリ右ハ主トシテ前報南方民党政客ノ運動ノ結果ニシテ上海商務總會首有力ナル商民団体ノ多クハ之ニ加ハラズ特ニ昨日北京政府ノ一般ニ布告シテ該協商ノ訛伝ヲ弁解セルアリ

第五八一号

(四月二十六日接受)

日支軍事協同動作ニ関シ在上海旧国會議員ノ発表シタル宣言ナルモノ各新聞紙上ニ掲載セラレタルカ之ト同時ニ右議員百二十名ノ名ニ於テ大要別電第五八二号ノ如キ書面ヲ本使ニ送致シ来レリ本問題ガ昨今益々論議ヲ惹起シツツアル次第ハ累次報告ノ通りニシテ要スルニ本件商議ノ内容力敵秘ニ附セラルルコト並協定力国権ヲ危クスルニ至ルヘキヲ難詰スルニ外ナラザルモ本来軍事行動ニ関スル国際商議ノ如キハ何レノ国ニ於テモ商議中公表シタル例ナク且国権擁護ノ如キハ政府ノ存在セル以上政府ニ信頼シテ可ナルヘキ筈ニテ從テ当国一部人士ノ熱狂的言論ニ対シテハ政府ヨリ十分取締ヲ加フル様然ルヘク交渉スヘキ筋合ナルモ御承知ノ通り前記国會議員所屬ノ国民党ハ公然武器ヲ執リテ中央ニ反抗シツツアル際ニモ有之中央政府ヲシテ彼等ノ蒙ラ啓カシムルコト不可能ノ次第ナル処唯此機ヲ以テ申上タキハ我国一部ノ人心尚ホ依然国民党一派ニ同情ヲ有スルモノアルヤニ認メラルルモ同党员等ノ我方ニ対スル態度言説カ概ネ以上ノ如キモノナル旨此際充分了解セシメ置クコト或ハ得策ニ有之ヘキカト思考セララルニ付御同感ナルニ於テハ

目下ノ形勢ニテハ左程憂慮スヘキ影響ヲ惹起スルコトナカルヘシト観測ス

護軍使参謀長ハ前電護軍使ノ調停意見発表ノ件ニ関シ護軍使ハ其意見ニ賛成ノ旨ヲ述ヘタルモ自ラ此通電ニ署名セルコトナク護軍使自ラ既ニ此旨ヲ北京政府ニ弁疏セル旨語リ尚目下此種ノ運動ハ到底何等成功ノ見込ナシトシ彼自ラ依然広東平定後ノ妥協ヲ主張シアリ但シ参謀長ノ意見ハ必スシモ護軍使ノ意見ト認メ難キ理由ナキニアラス

福建派遣浙江軍ノ主力ハ混成一旅団ニシテ第一師長童保暄之ヲ率ヒ其兵員約五千ハ既ニ海路寧波ヨリ厦門ニ向ケ出發セリト

三三一 四月二十六日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協定ニ関スル論議ノ取締問題ニ関連

シ国民党員ノ対日態度ニ付稟申ノ件

別電

四月二十六日林公使發後藤外務大臣宛電

報第五八二号

日中軍事協定ノ無効及日本ノ段派援助ノ不都合ニ関スル国民党員ヨリ林公使宛書面要領

然ルヘク御取計相成度シ(奉天發由四月二十六日前三三〇)

(別電)

四月二十六日林公使發後藤外務大臣宛電報第五八二号

日中軍事協定ノ無効及日本ノ段派援助ノ不都合ニ関スル在
上海国民党員ヨリ林公使宛書面要領

第五八二号 別電

中外各新聞紙ノ伝フル所ニ拠レハ日支両国政府ハ共同防敵ノ名ニ於テ密約ヲ訂立シテ我軍事、財政、外交、交通等ニ関スル最高主権ヲ侵迫セントス其ノ具体的条件ノ何タルヤハ暫ク置テ問ハザルモ惟フニ両国締結ノ各条約ニシテ完全ナル効力ヲ有セシメントセハ先ツ締結者ト締約手續ノ適法如何ヲ檢セサルヘカラス然ルニ民国約法ニ依レハ内閣ノ組織及条約ノ締結ハ齊シク国会ノ同意ヲ經サルヘカラサルニ拘ラス段内閣ノ成立既ニ不法ニシテ条約又国会ヲ通過セサルヲ以テ締結者及其ノ手續トモニ適法ニアラズ從テ其ノ締結スル一切ノ对外条約ハ單ニ個人的行為ニ過ギズ即チ国会復活ニ先タチ中央政府力貴国当局ト締結スル一切ノ条約ハ断シテ国民ノ承認セザル所ナリ我国内争未タ息マズ露独ノ紛擾亦頗ル憂フヘキモノアルニ際シ貴国政府果シテ東亜ノ平和ヲ念トスルニ於テハ我国ニ対シ正義的援助ヲ与ヘ以テ

南北ノ戦禍ヲ減少シ対等の地位ヲ以テ兩國ノ国防ヲ図ラザルヘカラス然ルニ前キニハ軍器借款ニ依テ段派ヲ援助シ為ニ内争ヲ助長セシメ今又苛酷ナル条件ヲ強要シテ我主權ヲ脅カシ以テ東亞ニ於ケル禍乱ノ根源ヲ醸成セントス此ノ如キハ豈ニ数千年來同種同文ノ親善ナル友邦ノ措置ナランヤ加之貴國政府カ曩ニ我國ノ対独宣戰ヲ慫慂シタルハ畢竟独逸ノ侵略主義ニ對抗シテ之ヲ膺懲セント欲シタルニ外ナラザルニ拘ラズ今ヤ忽チニシテ自ラ其ノ驕ニ傲ハントス果シテ此ノ如クンバ大戰終熄後或ハ連合側対日本ノ問題ヲ誘起スルコトナキヲ保シ難シ是レ豈ニ東亞ノ幸福ナランヤ幸ニ閣下右ノ次第ヲ貴國政府ニ轉達セラレ速ニ其ノ非ヲ匡サルコトヲ得バ是レ兩國ノ根本的親善ヲ計ル所以ニシテ独リ兩國ノ為ノミナラス洵ニ東亞ノ幸福ナリ

三三二 四月二十六日 後藤外務大臣ヨリ
在米田中臨時代理大使宛(電報)

米國ニ対シ必要アル場合ニ於ケル日中軍事協
定ノ内告振ニ関シ訓令ノ件

第一〇〇号
石井大使着任ノ上左ノ通り伝ヘラレタシ

米國ヘ船舶提供ノ件ハ四月二十日当地ニ於テ通信省ヨリ委細發表セルニ付御來示ノ通り取計ハレ差支ナシ日支軍事協定ノ件ハ英國以外ノ諸國ニハ未ダ内告シアラザルニ付貴官ヨリ進テ米國ニ内告スルニハ及バザルモ先方ヨリ質問アルカ若クハ甚シキ誤解ヲ抱キ居ルカ如キ模様アリ是非米國政府當局ニ内告シ置クヲ必要ト認メラルル場合ニハ本件協商ハ西比利亞方面ニ於ケル敵國万一ノ活動ノ場合ヲ慮リ予メ支那トノ間ニ互ニ執ルコトアルヘキ軍事行動ニ関シ協定ヲ遂ケタル次第ニシテ其ノ外ニ何等ノ趣旨ナキコトヲ指摘セラレ本省発在英大使宛往電第一五九号ノ要旨ニヨリ本件ノ大要ヲ内話シ置カレタシ

三三三 四月二十七日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事共同防敵協定締結促進方ニ関シ曹汝霖ニ申入ノ件

第五九一号 (四月二十八日接受)
本使ハ四月二十七日曹汝霖往訪ノ際軍事共同動作ニ関スル協定ハ遷延スルニ從ヒ種々ノ謠言發生シ兩國ニ取り極メテ面白カラザルニ付至急決定スル方得策ナリト思考スルヲ以

テ段総理帰京ノ上早速其旨伝ヘラレタシト述ベタル処曹ハ本件ハ國務會議ニ於テ既ニ大体承認決定シ居ルヲ以テ此上遅延ノ必要ナカルヘシト考ヘラルルニ付段総理モ今二十七日南京著聞モナク同地出發途中蚌埠及濟南ニ於テ二三時間ヲ費スニ過ギザレバ遅クモ二十九日迄ニハ帰京ノ予定ナルニ付本件ハ不日決定ノ運ニ至ルナラント思料スル旨答ヘタリ就テハ右ノ趣念ノ為參謀本部ヘ御伝ヘ置キヲ請フ

(奉天中樞四月二十八日午前九時)

三三四 四月三十日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中陸軍軍事協定中ノ軍用鉄道電信電話建設
ノ規定ニ関スル中国側申出ニ付稟申ノ件

第五九六号 (四月三十日接受)
往電第五九一号ニ関シ日支軍事協定ニ関スル商議ノ内情ニ付坂西ノ語ル所ニヨレハ地方督軍等ヨリハ夫々既ニ同意ノ旨通報シ來リ從テ商議大体纏リタル訳ナルモ唯第八条第三号ニ作戰上必要ナル軍用鉄道電信及電話等ノ建設ニ関シテハ兩國總司令官ニ於テ臨時之ヲ議定ストノ趣旨ノ規定アルニ對シ支那側ヨリ一切ノ臨時建設工事ハ戰爭終了後之ヲ撤

退スヘキ旨ノ規定ヲ附記シ度キ旨申出デタル為議未タ纏マラサル次第ナリトノ趣ナル処果シテ然ラハ該建設工事ニシテ戰後利用スヘキモノハ支那側管理ノ下ニ存置スルコトトセハ必スシモ協議成立ノ望ナキニアラスト思料ス右ハ支那ヲシテ安心セシムル方法ト信ズ御同感ナルニ於テハ篤ト陸軍側トモ御協議ノ上右ノ趣旨ニテ本件ヲ解決シ協定ノ成立ヲ計ラルル方得策ナリト思考ス何分ノ義御電訓ヲ請フ

(奉天中樞四月三十日前一〇〇〇)

三三五 四月三十日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事共同防敵協定調印促進方ニ関シ段總
理ニ申入ノ件

第六一一号 (五月一日接受)
四月三十日本使段総理ニ会見ノ序ヲ以テ軍事協同動作ノ協定ハ成ルヘク決定スル方双方ニ取り得策ナル旨往電第五九一号ト同様ノ意味ヲ申述ヘタル処段ハ本件既ニ國務會議ノ決定ヲ経居ルヲ以テ直ニ決定差支ナカリシ処外交部當局ヨリ二三疑義ノ点ニ関シ質問アリシ為メ遷延今日ニ至リシ次第ナルカ是又既ニ説明ヲ与ヘ置キタレハ此上遅延スルコト

ナカルヘシト思考スル旨答ヘタリ(奉天經由五月一日前、五〇)

三三六 五月三日 在濟南吉田領事ヨリ
後藤外務大臣宛

日中軍事協約案ノ内容ニ関スル新聞記事及濟南地方輿論ニ付報告ノ件

政公第一一六号 (五月十一日接受)

大正七年五月三日

在濟南

領事 吉田 茂(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支交渉案ノ内容ト当地輿論ニ関スル件

此程当地各支那新聞ノ記事ニ依レハ過般來北京ニ於テ日支兩國当局者間ニ新交渉開始サレ日本ハ支那ニ對シ過酷ナル要求條件ヲ提出シ愈支那侵略ノ野心ヲ遂行セントスルモノノ如シトテ各新聞拳ツテ連日排日の感情ヲ煽リ居り候処本月三日發行各新聞ニ「中日新交渉案ノ内容」ナル記事掲載サレ其大要ハ日本ノ要求條件ハ絶対ニ秘密ニ付セラレ居ルヲ以テ容易ニ窺知シ難キモ信スヘキ情報ニ依レハ陸軍ニ関スルモノハ九箇条ヨリ成リ内探知シ得タルモノハ(一)支那ノ

軍隊ハ日本軍官ノ訓練及指揮ニ委スルコト(二)兩國ノ軍用地図ヲ互ニ交換スルコト(三)支那各軍事区域ノ警察ハ日支兩國共同ニテ之ヲ管理スルコト(四)支那ノ兵器廠ハ日本軍官之ヲ監督シ軍器ノ統一ヲ計ルコト(五)支那ニ於テ軍需原料品ヲ產出スル鉅山ハ日支合弁ニテ經營スルコトノ五箇条ニシテ右九箇条ハ兩國委員間ニ於テ已ニ議シシ公文ノ交換済ナリ又海軍ニ関スルモノハ八箇条ヨリ成リ内探知シ得タルモノハ(一)支那ノ軍艦ハ日本ノ管理及指揮ニ歸スルコト(二)支那海軍所用ノ各種通信設備ハ日本軍官ノ管理ニ歸スルコト(三)支那ノ軍港ハ日本ノ軍艦ニ對シ必要ノ場合公開スルコトノ三箇条ニシテ右各条ハ未タ議セラレス日本ハ支那当局ノ信任ヲ得居ルヲ以テ國民ノ反對ハ顧慮スル処ニ非ズ云々ト謂フニ有之候当地一般人士ハ曩ニ日本ノ民政署設置ニ對シ抱ケル惡感未タ氷解スルニ至ラザリシ折柄今回更ニ叙上ノ如キ日本ノ要求條件提出サレタリトノ報道ニ接シ益憤慨ノ度ヲ加ヘ從テ對日感情益惡變ノ傾向アルヤニ見受ケラレ候又本月三日發刊当地支那新聞記事ニ依レハ上海商學各界有志ヨリ当地督軍代理ニ對シ中日條約將ニ事實トナラントス事國本ノ安危商民ノ利害ニ関スルニ付已ニ客月廿四日中央ニ對

シ日本ノ要求拒絕方電請シ置ケリ就テハ此際貴督軍ヨリモ民意ヲ代表シ中央ニ打電シ危局ヲ挽回セラレンコトヲ乞フ云々ト申越セル書面ニ接シタルヲ以テ張督軍代理ヨリモ早速中央ニ對シ日支交渉案ノ内容通報並ニ日本ノ要求條件拒絕方電請シタル趣ニ有之候此段及報告候

敬具

(本信写送付先 在支公使)

三三七 五月四日 警視庁ヨリ
外務省宛

日中交渉ニ関スル中国留学生ノ檄文配布及集會ニ関シ報告ノ件

附屬書 右檄文

外秘乙第三五九号

五月四日

支那人ノ檄文配布并集會ニ関スル件

目下日支兩國間ニ於テ協議中ナル日支交渉案件ハ中華民國ヲ滅ホスモノナルヲ以テ一同帰國シ鋒ヲ執テ起タザルベカラズト称シ左ノ排日の檄文ヲ所々ニ配布シ又ハ貼付シ各省同郷會其他ノ集會ヲ開催シテ排日の氣勢ヲ昂メ以テ一同聯袂帰國セント称シ居レリ本日集會シタルハ奉天、吉林、陝

西、各同郷會并ニ早稲田大學留日學生同窓會ニシテ明五日開催セントスル集會ニシテ判明セルハ湖南、四川、湖北、雲南、貴州各同郷會、神州學會、明治大學留日學生同窓會等ナリ

追テ檄文執筆者並配布者等ハ嚴重内偵中ナリ

(附屬書)

日中交渉ニ関スル中国留日學生ノ檄文(一)(二)

(一)

中国留日學生ニ警告スルノ書

警告大中華民國留日學生全体文

倭奴ノ野心!!! 亡國ノ慘禍!!!

諸君!!! 其速帰祖国!!! 速救祖国!!!

嗚呼、外患國ヲ亡ボスニ足ンヤ孟子曰ク出テテ則チ敵國外患ナキハ國亡國亡フト吾人外患ノ必スシモ國ヲ亡ホスニ足ラサルヲ知ル外患ハ又亡國ノ事タリ而シテ歴史ヲ見ルニ一國ノ興ル常ニ外患アルニヨル一國ノ亡ブ未ダ外患ニ由ルニアラス故ニ一國必ス亡ブ可キノ事實アリテ而シテ外患之レニ乗セバ國即チ滅ブ一國亡ブルノ原因無ク外患到ルト雖トモ國必ス亡ヒズ彼ノ印度ノ亡ブ英ノ亡ボスニ非ラズ印度自

カラ之レヲ亡ボスノミ朝鮮ノ滅亡日本之レヲ滅亡スルニアラス又朝鮮自ラ滅フルノミ何ヲ以テカ其ノ然ルヲ知ル印度人民朝鮮人民果シテ皆印度朝鮮ノ滅亡ヲ欲セス英日侵略之時尚早ク自カラ計ヲ為シ富国強兵ノ道ヲ謀リ英日併合ノ時応サニ血ヲ濺キテ最後ノ抵抗ヲ作スヘシ果シテ彼ノ印鮮人民如何ニセシヤ売国ノ賊庭ニ盈チ所謂志士ナル者蓋寥ナク晨ノ星ノ如シ嗚呼此レ真ニ到底亡ヒサルヲ得ンヤ夫レ一国ノ亡ブ豈ニ偶然ナランヤ国民誰レカ国ノ亡フルヲ欲セン満清ノ末葉吾国衰弱ノ極、老大睡レル獅子ノ如ク地球上ノ笑ヲ胎サレ列強虎視ノ群鬼指ヲ支那ニ染ム危機一髮誠ニ岌ヲ負ヒ勉強不可ナルノ時余喘ヲ残シ今日ニ至ルヲ得之レ列強均勢ノ故ナリ而シテ吾国民氣未ダ喪ハス人心未ダ死セス国家ヲ思フ者到ル処ニ瀾ネク列強畏敬ノ念アリ因テ以テ之レヲ致スノミ列強又我国人ノ吾国ノ亡フルヲ欲セス而シテ我國果シテ亡ンヤ故ニ我国亡ヒサルナリ支那革命以來政変即チ起コリ内訌劇烈ニテ外侮垂レ至ルト雖モ偶々幸ニ英独仏露ノ歐洲戦争アリ東洋ヲ顧ミルニ暇ナシ而シテ小サキ日本ガ野心勃発シ島国ナルニ拘ラズ中華民國ヲ併吞セント欲シ民国四年即チ五項条件提出アリ当時輿論鼎沸、民情憤慨大

権以テ失ハス危局以テ亡ビス彼ノ日本故ニ中止スル所ト為ル之レ吾ガ国民ノ氣力アル為メナリ今ヤ南北対峙国内愈々乱レ兄弟牆ニ関ク同胞互ニ争ヒ当局者亦私利ヲ図リ大局存亡ニ関スル無ク而シテ政教暗黒風教頹敗言ヲ容ル可キ無シ蓋シ吾国ノ精華タル吾人ノ氣ガ殆ント消耗シテ余ス所ナク日本ノ狡猾此ノ間隙ニ乘シ遠ク米国ト通シ近ク日支親善ノ辞アルヲ以テスロヲ聯合シテ防禦スルニ藉リ座シテ漁利ヲ収メントス而シテ軍人ニ贈賂シ秘密ニ相談ヲ為シ共同出兵細則ノ美名ニ仮リ而シテ其ノ合併侵略ノ策ヲ実行ス大局果卵ノ危キヲ致ス国人等竟ニ之レヲ知ラス嗚呼吾国ノ危キ果シテ今日ヨリ甚タシキモノナシ外敵ノ狡黠未ダ曾テ日本ノ如キモノアラスト断言シ得ヘシ吾国ヲ亡ホサント欲スル者未ダ曾テ今日ノ軍事委員会ヨリ甚ダシキハナシト断言スヘシ而シテ国ノ氣慨耗ヘタルコト曾テ未ダ今日ノ吾国民ノ如キモノアラスト断言スヘシ吾国ノ危機誠ニ今日ノ状態ヨリ危キハ無シ然シテ外敵狡猾当局智昏ク是ノ二者患フルニ足ラス最モ患フ可キモノハ国民ノ氣風耗ヘタルナリ而シテ吾ハ謂フ今日国民ノ精神ノ衰耗セル者吾ガ国民ノ侮ヲ受クル者蓋亦抛ル所アリ何ソ則チ彼ノ所謂軍事委員会ナル者売国

機関ニアラスシテ何ソヤ其成立組織ニ対シ未ダ吾国民ノ之レニ抗セルヲ聞カス外交部ト軍人派トノ争ハ売国ヲ以テ謀ヲ為スニ非スヤ外交部ノ責大ニシテ重キ国人ニ対シ外交総長ノ挙動察スヘシ軍事委員会ノ内容ハ未ダ吾国民ノ之レニ抗セルヲ聞カザルナリ彼ノ劉崇傑ハ外交部ヲ代表シ軍事委員ニ列シ第四會議ニ至ルヤ靳雲鵬ト意見衝突斬ハ売国ヲ欲スルモ劉ハ之レニ賛成セス互ニ相反目ス、尚亡国ノ大禍ハ眼前ニ迫レリ未ダ吾ガ国民ノ之レニ抗スルヲ聞カサルナリ現ニ近ク上海時報ノ掲載スル日支密約ノ全文(二十条)ハ劉崇傑ニ依テ宣布シ以テ国民ニ警告セリ而シテ未ダ吾国民ノ抗スルヲ聞カサルナリ是ニ由テ之レヲ見レハ吾国民ノ氣未ダ喪失セス人氣未ダ死セサルナリ然リト雖トモ之レ無識ナル細民ノ罪ト為スニ足ラス吾留日学生大ニ天下ニ自カラ任シ而シテ国事危キニ遇フ此ノ時ニ際シテ独リ案ヲ伏セテ業ヲ習フ致々終日社稷興亡ヲ見ル秦人ノ越人ノ肥瘠ヲ視ルカ如ク毫モ相干セス嗚呼是レ何ノ現象ソヤ諸君學ヲ求ムル果シテ何ノ為メソ富国強兵ヲ計ルニアラスヤ諸君果シテ祖国ノ富強ヲ欲セハ祖国ノ命脈ヲ保ツコトヲ先キニセサル可カラス而シテ祖国ノ命脈ヲ保タント欲セハ則チ国民ノ氣力

ヲ鼓吹シ協力シテ倭奴(日本)ヲ排斥スヘシ嗚呼諸君果シ何スレソ恋々トシテ日本ニ止マリ西ニ帰ルヲ思ハサランヤ心ヲ尽シ力ヲ竭シ以テ蒼生ト共ニ祖国ヲ衛ラン諸君留東學生ハ数千人ニ過キス學ハ不足力及ハズト雖トモ国ニ尽スナケレハ誠ニ謬レルモノナリ吾留學生ノ一挙一動ハ国人ノ模範先導者タリ数年来排日ノ風潮大抵吾人ニ胚胎ス此ノ時吾人果シテ能ク聯合シテ国ニ返ラハ則チ政府ノ胆必ス寒カラシ倭奴ノ氣亦必餒ナルヘシ而シテ国民ノ義憤吾ガ数千人ノ鼓吹奨励ヲ以テセハ日ニ激シク日ニ烈シカラシ故ニ吾人果シテ能ク国内ニ在リ団体ヲ組織シ力ヲ竭シテ奔走セハ僅カニ二十条件ニ過キス必スヤ拒絕スルコトヲ得ン尚ホ南北調和ノ局ハ外患ノ急ニ鑑ミ調和緒ニ就クヘシ万一政府昏昧社稷ノ重器ヲ惜マス祖宗ノ邱墓拳ケテ倭奴ニ委ス是ノ時吾人惟滿腔ノ熱血ヲ以テ売国ノ賊ト争ヒ日本倭奴ト戦ヒ吾国ノ土地広遠ニ物産饒多四億ノ黃帝ノ子孫ヲ率ヘ名ヲ正フシ言ヲ順ニシ忠義ノ為メニ奮発セハ臺爾タル小醜(日本)相見テ衆ヲ以テ寡ニ敵ス順ヲ以テ逆ヲ攻ム勝敗ノ数固ヨリ亡国ト興国トハ一ニ吾人ニ歸ス即チ吾人ノ帰国ト帰国セサルコトニアルノミ彼ノ国ヲ亡ホシ家ヲ破リ甘ンシテ奴隸ト為ル

曾テ人間ノ所謂羞恥ヲ知ラサル者ノ事ナリ諸君熱血ノ志士
祖国ノ危殆安ソ坐視スルニ忍ヒンヤ諸君夫レ速カニ帰国
セヨ而シテ国家ノ前途ハ吾敢テ断言セン曰ク国民ノ真ニ吾
カ祖国ノ亡ヲ欲セサレハ祖国必ス亡ビズ諸君勉メヨ

同窓会全体謹啓

(全体帰国ヲ表決ス現在帰国一切ノ事務ヲ準備シ順ニ告
ケテ之レヲ及ボセ)

(二)

日中交渉ノ亡国条件ヲ国人ニ告グルノ書

請フ亡国条件ノ全文ノ發佈ヲ看ヨ

諸君精神アルモノハ甘ンジテ涼血動物タランヤ
諸君良心アルモノハ甘ンジテ小兒子孫タランヤ
孔子曰ク国亡ンテ救ハサルハ人ニ非ザルナリ諸君ニシテ果
シテ人タル者此ノ亡国ノ末日ヲ觀バ願クハ速ニ天心ヲ激發
シ一致帰国シ国人ヲ率ヒ共ニ起テ賊ヲ殺サン若尚之レヲ捨
テ置カンカ是レ諸君ノ天心已ニ喪失シ自戴髮含齒之人類タ
ルヲ認メス我ヲ思フ即チ之ノ自ラ血ヲ濺リヲ以テ誓ヲ聴ク
ヲ忍ビス諸君長ク亡国ノ大夫ト為リ以テ其生ヲ終ランヤ故
ニ唯諸君慎思熟考セラレンコトヲ

スルコト

- 四、兩國ノ軍用品及軍機等互ニ補充ヲ為スコト
- 五、兩國ハ須ク軍用地圖ヲ交換スルコト
- 六、凡ソ兩國間ノ軍事設計及軍隊配置訓練指揮等互ニ之レ
ヲ行フ
- 七、日本ハ中国境内相当地点ニ駐屯兵隊ヲ置クコトヲ得
- 八、日本ハ中国境内相当地点ニ要塞ヲ建築スルコトヲ得
- 九、日本軍隊ハ到ル処中国々境ニ於テ軍用手票ヲ発行スル
コトヲ得
- 十、中国政府ハ人民ニ於テ日本軍隊ノ行動ヲ妨害スルモノ
ニ對シ禁止ノ命令ヲ出タスコト
- 十一、中国ノ出征軍費及財政整理ノ必要ニ際シ日本ハ貸款
ヲ以テ其整理ヲ助ケン其条件ハ別ニ之ヲ定ム
- 十二、中国ガ未ダ他国ニ許サス又已ニ日本ノ勢力範圍ニ在
ル各鉅山ハ日本ハ自由ニ開採スルコトヲ得
- 十三、中国各兵器廠ノ製造ハ須ラク日本ニ由テ管理ス
- 十四、日本ノ軍事輸送ノ便利ヲ得ンカ為メ臨時中国鐵道ヲ
管理ス
- 十五、中国各軍ノ教育ニ際シ須ラク日本語学科ヲ添用シ日

四月二十四日上海時報掲載セルニ此頃北京ニ於テ發布ノ中
日新密約ノ全文ヲ以テシ特ニ發表スルコト左ノ如シ

日本ハ露獨ノ媾和ノ機ニ乗シロフ我國ノ聯防ニ借リ二十条
ノ要求ヲ提出シ日本外交部ヨリ我政府ト秘密ニ交渉セシ該
条件ノ範圍ノ拡大ナル及内容ノ苛酷ナル民国四年ニ於ケル
者ニ比スレバ所謂第五項ナル者最モ甚ダシ各新聞掲載スル
ヤ未タ其全文ヲ頌ニセス余ハ此事ニ関与スル一人トシテ此
要求ハ我國存亡ニ関スル事ナルヲ以テ曾テ当局ニ向テ再度
力爭セルモ当局ニ人無キカ日人ノ利誘ヲ被リ二千万元ノ酬
金ヲ無視シ売国ヲ惜マスシテ己ヲ肥ヤシ国人ノ血ヲ恤テ人
ヲ罔リ更ニ新聞紙ヲ購買シテ之レカ弁護ヲ為シ世人ノ耳目
ヲ聾欺セリ誠ニ目前ノ危急及将来ノ慘状ヲ思ヘハ即チ言フ
ニ忍ヒス茲ニ特ニ世間ニ發表シ国人ニ警告シ聊カ匹夫ノ責
ヲ尽サン

一、中日兩國ノ地位及勢力ヲ保全センガ為メ独人ノ侵入ヲ
阻止シ共同之ヲ防禦セン

二、第一項ノ目的ヲ達セン為メ兩國間ノ行動ハ須ク兩國軍
事委員會ヲシテ隨時ニ協議スルコト

三、支那ノ出征及聯防ノ各軍隊ハ日本編制ニ由リ之ヲ統率

本人ヲ聘用シ教師トス

- 十六、中国ノ警察制度日本ニ依テ之ヲ組織ス
- 十七、内外蒙古滿洲及山東等ノ日本ノ設置セル官衙ハ中国
ノ官吏ト互ニ民政事務ノ權ヲ管轄ス
- 十八、以上ノ各条項ハ平時ニ於テモ又効力ヲ有ス
- 十九、以上ノ各条項ハ兩國外交当局ノ議定スル所ナルヲ以
テ須ク兩國政府ノ批准ヲ經テ効力ヲ生ス兩國政府ハ須ク
秘密ノ責任ヲ負フモノトス
- 二十、兩國間ニ或ル条項ノ増加改正或ハ廃止以上ノ各條款
ニ就キテハ須ク六ヶ月以前互ニ通知シ一方不同意アル時
ハ仍チ繼續シテ有効ナルモノトス

右按ノ全文ハ上海時報ニ由テ北京ヨリ看來リタル者四月以
来中外各新聞ハ先ニ条文ノ内容ヲ記載シ一部分ヲ登載セル
モ全文ヲ掲出スルモノナシ此回全文ノ發表ヲ得タルハ劉崇
傑(現外交部參事)ノ洩ス所ナリ蓋シ日本政府ノ我國ニ向
テ交渉ヲ提出セル時(即チ我政府ニ強制シ兩國軍事委員會
ヲ組織シ數回交渉セリ外交部ハ之ヲ与リ知ラサル内秘密神
速ナル手段ヲ用ヒ開キタリ此一場ノ公案ハ外交総長陸徵祥
憤テ暇ヲ告ケ北京各新聞モ又政府ノ罪ヲ痛論セリ政府ハ已

ムヲ得ズ外交部ノ参与ヲ許シタリ是ニ於テ陸氏ハ劉崇傑ヲ派遣シ會議ニ加入シ第四會議ニ至リ劉崇傑ハ委員長靳雲鵬ト意見衝突シ遂ニ該条件ノ全文漏洩スルニ至リタリ察スルニ劉ノ陸宗輿ニ対スル臭味相投テ此亡國ノ末日ニ至リ為メニ精神ヲ動カシ全文ヲ宣布シ以テ國人ニ告グ

中華民國七年四月三十日殉國団同人

謹白

(欄外註記)

「上海新聞ニ出デタル誇大ノ記事ニ基ク」

三三八 五月五日 警視庁ヨリ
外務省宛

湖南貴州雲南各省出身中国留日学生ノ集会情

況ニ関シ報告ノ件

附記 留日中国人ノ各省同郷会及各校同窓会ノ
聯合大会ニ於ケル決議大綱

外秘乙第三六一号

五月五日

支那人ノ集合ニ関スル件

一、既報ノ如ク湖南省留日学生約百三十四名ハ本日午前七

時ヨリ神田区三崎町三丁目一番地貸席吉田屋ニ於テ同郷会ヲ開催シ日支交渉案件ニ対スル反對論議ヲ為サントシタルニヨリ發起人ニ対シ政治ニ干スル論議ヲ為ス可カラサルヲ警告シタルニ鄧華、楊峻峯、林孝ノ三名ハ之レヲ肯セス論議ヲ進行セント他ヲ煽動シタルニヨリ所轄署ヘ檢束シ他散会セシメタリ

一、貴州省留日学生約五十名ハ本日午前八時ヨリ牛込区西五軒町三十四番地貸席清風亭ニ於テ同郷会ヲ開催シ日支交渉案件ニ関スル討論ヲ為サントシタルニヨリ司会者胡天鵬、閔肇魯ニ対シ政治ニ関スル集会ヲ為ス可カラサルコトヲ警告セントシタルモ之レヲ聞キ入レス討論ヲ継続セントシタルニヨリ右四名ヲ引致シ他ヲ散会セシメタリ

一、雲南省留日学生約四十名ハ本日午前八時ヨリ神田区仲猿樂町東亜予備学校内ニ於テ同郷会ヲ開催シタルニヨリ校長ヲ通シ政治ニ関スル討論ヲ為ス可カラサルヲ警告シ一面私服巡查ヲ派シ討論ノ状況ヲ監視セシメ継続セシメ中ナリ

一、支那留日学生有志者ノ組織スル神州学会ニ於テハ本日午後一時ヨリ東亜予備学校内ニ於テ大会ヲ開催セントシタ

ルニヨリ司会者馬鳴鸞ヲ所轄署ヘ呼ヒ出シ政治ニ渉ル論議ヲ為ス可カラサルヲ警告シタルニ之レニ応セズ却ツテ他ヲ煽動シテ日支交渉案ニ対スル反對論議ヲ為サントスルノ虞アリタルニヨリ檢束セリ

(附記)

留日中国人ノ各省同郷会代表及各校同窓会代表ノ聯合大会
ニ於ケル決議大綱

五月五日晚各省同郷会々長及其代表并各校同窓会々長及其代表開聯合大会於大高俱樂部議決大綱如左

一、本団定名為「大中華民國救国団」

二 本団々員皆一致對外決不干渉内政

三、本団由各省同郷会长或其代表及各校同窓会々長或其代表組織之

四、本団拳幹事長副幹事長各一人

五、本団分下記之五部

(1)文事部 (2)庶務部 (3)會計部 (4)招待部 (5)糾察部

六、本団遇有重要事件時得由幹事長召集全体討論之

七、本団組織大綱有欠陥時得召集全体公決之

八、帰国弁法由各省同郷会々長及其代表統率之一致帰国

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三三九

九、各省各校先派四人以上半往北京半往上海命名同先発隊
十、先発隊出發期日定為五月七八兩日
十一、先発隊旅費由本人或各省各校自籌
十二、本団經費分下列三種弁法
(1)總會經費撥出(2)向留日華僑募捐(3)各同郷同窓会自由捐助

十三、举代表往留日各華僑勸捐

十四、募捐代表由広東浙江福建山東四省選出每省二人

十五、本団職員由各同郷同窓会各举代表一人互選

十六、各同郷同窓会代表限六日挙育即於是晚六時齊集源順

商議一切

三三九 五月六日 警視庁ヨリ
外務省宛

陝西四川湖北各省出身中国留日学生ノ集会情

況ニ関スル件

外秘乙第三六七号

五月六日

支那人ノ集会ニ関スル件

一、昨五日下午五時ヨリ牛込区東五軒町貸席清風亭ニ於テ

陝西省留日学生同郷会ヲ開催シ目下日支交渉中ノ案件ニ
対スル反対ノ討論ヲ為サントスルノ聞キ込ミアリタルニ
ヨリ司会者早稲田大学生尚武ヲ所轄署ニ呼ヒ出シ届出ヲ
為サシテ政談ヲ為スコカラサル旨ヲ警告シタルモ同人
ハ之レヲ肯ゼザルニヨリ同人ヲ檢束シ一面会場ニハ私服
巡查ヲ派シ注意セシメタルニ論議中時事ニ干スル言質ア
リタルニヨリ午後七時三十分散会セシメタリ集会者約六
十名ナリ

一、昨五日下午六時ヨリ神田区三崎町三丁目一番地貸席吉
田屋ニ於テ四川省湖北省ノ留学生同郷会ヲ開催スル筈ナ
リシモ貸席主ニ於テ会場ヲ貸与セサル為メ流会トナレリ
一、昨日檢束シタルモノハ午後十時マデニ全部釈放セリ

三四〇 五月八日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国留日学生監督事務所論告ノ件

外秘乙第三八一号

五月八日

支那留学生監督事務所論告文配布ノ件

支那留学生監督事務所ハ別紙ノ印刷物ヲ配布シ一般学生ニ

対シ輕拳盲動スヘカラザルヲ論告セリ

(別紙)

啓者頃奉

教育部魚電開五日電悉報紙所載中日議約條款全屬謠傳仰即
稟承公使訓諭各生勿信浮言致荒學業等因奉此合亟轉知順詢
学社

留日学生監督事務所啓

五月七日

三四一 五月八日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国人留學生間ニ配布ノ秘密出版物ニ關スル

件

附屬書 右配布文書

外秘乙第三八四号

五月八日

支那人ノ秘密出版物ニ關スル件

支那人震止ガ上海ニ於テ「一髮危機半条血路生死存亡問
題」ト題シ(日支兵器問題ニ関シ)百十六頁ニ渉ル論文ヲ
執筆シ上海法租界呂班文德里二二胡公館尖鳳方孫鏡ニ印刷

故ニ默スル能ハズ一言弁ズル所以ナリ

以下同盟ノ字義ヲ解釈シ兵器ノ之ガ目的物タリ得ベカラ

ザルヲ力説シ

例ヘハ独塊、日英ノ同盟ノ如キ互ニ相倚リ相助クルモ其兵
器ヤ其行政ノ如キ互ニ其計ヲ為シ個々ニ獨立シテ其体面ヲ
維持ス然ルニ何ゾ況ヤ其財政ヲ監督シ其警察ヲ合弁組織タ
ラシメント謂フカ如キニ至ツテハ何ノ同盟カアラン何ノ獨
立カアラン殷鑑遠カラス之ヲ朝鮮ノ歴史ニ徴セヨ日本人ノ
我ニ対スル野心ヤ以テ洞見シ得ベキナリ

日支両国固ヨリ主従關係ナシ其ノ口ヲ親善ニ藉リ辞ヲ同盟
ニ託シ或ハ事業ノ合弁タラシムヘキヲ力説スル所以ノモノ
他ナシ我國ノ兵器、行政ノ事ニ干与セントスルノ野心アレ
ハナリ日人ノ中国ヲ併吞セントスルヤ一日ノ故ニアラス今
ヤ兵器同盟ナル美名ニ託シ我國併吞ノ実ヲ拳ケントス国人
大ニ警戒セサルヘカラス

大冶鉄山、漢冶萍公司、鞍山站、本溪湖等幾多ノ日本合弁
事業ノ歴史ヲ列挙シ日本ノ学者、政治家、代議士、論客ノ
対支觀ヲ引用シ結局日本ニハ兵器製造ノ原料ナシ米國ノ鉄
禁輸令ニ日本ハ如何ニ恐慌ヲ來セシカ今ヤ官民一致自給自

ヲ託シタリ因リテ同人ハ之レヲ謄写版ニ印刷シ其ノ一部ヲ
饒藻昉ニ依頼シ府下高田村大字高田三崎館止宿畜学生李太
年ニ送付シタリ故ニ李太年ハ之レヲ學術研究会員ニ回読セ
シメタル為メ府下戸塚町大字諏訪九十六番地帝大生李待際
ガ所持シ居タルモノナリ

(附屬書)

一髮危機
半条血路 生死存亡問題

兵器同盟議 上下

右一篇ノ要領

異ナル哉所謂兵器同盟ヤ夫レ兵器ト同盟ト此二字絶エテ相
關聯セス之ヲ史例ニ求メ之ヲ事理ニ按ズルモ固ヨリ未ダ曾
テ斯ル奇怪事アリシヲ見聞セザルナリ此空前絶後ノ「兵器
同盟」四字今日突如日本ノ言論界ニ出現ス杜撰、滑稽、荒
謬、根毒、言フニ勝ヘザルナリ夫レ兵器トハ何ゾ同盟トハ
何ゾ若シ此兩者ニシテ併行兩立スルヲ得ベクンバ軍隊モ合
弁シ得ベク政治モ共攬シ得ベク国家モ亦共有タリ得ベキナ
リ豈此理アラシヤ固ヨリ弁論駁撃ノ価値ダモナキ妄説タル
ノミ然レトモ我当路者並ニ國民ニシテ此妄説ニ惑ハサレン
カ其禍測レバカラズ結局亡國ノ慘状ヲ呈スルニ至ラン予此

足ノ計ヲ樹ツルニ汲々タリ何ノ暇アツテカ兵器ヲ支那ニ供給シ得ルノ理由ト能力トアランヤ然カモ其原料ヲ支那ニ仰キ其製品ヲ支那ニ供給セントスルモノナリト謂フモノハ日人ノ口実仮託ノミ仮令事実ニ於テ之ヲ供給シ得ルトスルモ其兵器タルヤ旧式廢物ヲ我ニ供給スルニ過キス之ヲ支那自國ノ為ニ謀ルニ米國大統領ノ我ニ對スル勸告ノ如ク支那ハ此際一意自國ノ内政ヲ整理スヘキノミ何ソ日本ノ願使ニ從ヒ歐洲出兵ノ要アラン由來支那ハ無限ノ富源ヲ藏ス独力之ヲ開發シ永遠ニ自給自足ノ計ヲ樹テ以テ日本ヲ窮地ニ陥ルルニ在リ然ラスンハ結局日本ノ為ニ併合サレン語ニ曰ク兄弟牆ニ関ケトモ外其侮リヲ禦クト國人注意セサルヘカラス云々ト結フ

三四二 五月八日 後藤外務大臣ヨリ
在中国方沢臨時代理公使宛(電報)

在日中國人間ニ流布セラルル秘密出版物「一

發危機半条血路生死存亡問題」ヲ差押フル様

中国当局ニ要請方訓令ノ件

第三一三号

上海仏租界呂班文德里二二号胡公館尖鳳方孫鏡ノ印刷ニシ

テ霞沚ナルモノノ著述ニ係リ「一發危機、半条血路、生死存亡問題」ト題スル百頁位ノ秘密出版物客月二十三日頃饒漢訪ナルモノニ依リテ多数本邦ニ持來タサレ支那人間ニ配布セラレタル事実アル処右冊子ノ内容ハ日支軍事協定ニ關シ攻撃的文字ヲ列ネタルモノニシテ今次在本邦支那留學生ノ軍事協定反對運動モ或ハ之ニ起因スル所多キヤニ思料セラルルニ付テハ貴官若ハ齋藤少將ヨリ至急支那当局ニ御交渉ノ上右出版物ヲ上海ニ於テ差押ヘシムル様御取計相成タシ

右為参考上海ヘ転電アリタシ

三四三 五月九日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

軍事協定反對ノ國論喚起ノ為在日留學生統計表

附記一 大正三年五月調査在本邦支那留學生統計表

二 大正六年五月末日現在官立学校在學支那留學生員數調

第三一六号

日支軍事協定ニ関スル上海等ヨリノ煽動の報道ニ刺激サレ在本邦支那留學生ハ過日來寄々集會ヲ催シ右反對鼓吹ニ力

合計 二千四百九十二人

〔内訳〕

一、文部省直轄学校之部(総數六百六十六人)

(学校別)

東京帝国大学(四五)

法科 八 医科 七 工科 一四

文科 五 理科 四 農科 七

京都帝国大学(二〇)

法科 九 文科 一 理工科 一〇

東北帝国大学(三三)

農科 六 医学專門部 一三 工学專門部 一四

九州帝国大学(二三)

医科 二 工科 一

東京高等師範学校

七二

東京女子高等師範学校

六

東京高等商業学校

二七

長崎高等商業学校

七

第一高等学校

六二

第三高等学校

一三

(附記一)

大正三年
五月調査 在本邦支那留學生統計表

(文部省及内務省ノ調査ニ拠リ政務局作成)

一、文部省直轄学校 六百六十六人

二、在東京官公私立学校 千七百七十二人

三、地方官公私立学校 百十四人

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三四三

第五高等学校	一一	第六高等学校	一一
第七高等学校	一〇	第八高等学校	八
千葉医学専門学校	三八	岡山医学専門学校	一二
金沢医学専門学校	一	長崎医学専門学校	二八
東京高等工業学校	一四〇	大阪高等工業学校	三〇
京都高等工芸学校	九	名古屋高等工業学校	一四
熊本高等工業学校	一	秋田鉱山専門学校	四
東京美術学校	一二	東京音楽学校	七
東京聾哑学校	一		
(官私費別)			
官費	六二二	私費	三四
未詳	一一		
(男女別)			
男	六六〇	女	六
(省別)			
広東省	一一五	浙江省	八五
湖北省	五七	直隸省	五四
江蘇省	五三	四川省	五二
湖南省	五〇	江西省	四六

福建省	二七	山東省	一九
貴州省	一八	雲南省	一五
安徽省	一五	広西省	九
山西省	八	奉天省	五
河南省	四	吉林省	三
陝西省	二		
二、在東京官公私立学校ノ部(総数千七百十二人)			
明治大学六六六(直接同大学ニ問合せタルニ約八四〇人ナリト云フ)		日本大学	二二二
成城学校	一五三	日華学院	一三九
志成学校	九七	東亜同文書院	八七
正則英語学校六七	早稲田大学三三(直接同大学ニ問合せタルニ約二〇〇人ナリト云フ)		
中央大学	二二	日語学校	二〇
私立農業大学	一九	正則予備学校	一九
慶応義塾	一六	東京女子医学校	一六
独乙語専修学校	一六	法政大学	一二
東亜日語学校	一〇	同文学院	九
陸軍士官学校	八	日華学校	八
薬学校	五	物理学校	五
女医学校	五	中華基督教青年会	五

東京慈恵医学専門学校三	岩倉鉄道学校	四
農商務省水産講習所	東京府立第一中学校	二
国民英学会	日本美術学校	一
高等日語学校	早稲田工手学校	一
青山学院	女子医学専門学校	一
東京主計学校	東亜日本学会	一
(洋画研究)	立教大学	二
女子美術学校	数学院	一
東亜文学会	研数学館	二
中央気象台見習生	東亜学会	一
神田青年会	女子美術速成学校	一
医学専門学校	青年会学校	一
府立第二高等学校	女子大学	二
東洋大学	愛日小学校	一
高等女学校	共立女子職業学校	一
和洋女子裁縫学校	東亜学校	二
東京薬学校	女子大学附属高等女学校	一
日比谷小学校	日本体育会体操学校	三
府立織染学校	本郷洋画研究所	一

暁星中学校	二	東洋商業学校	一
基督教青年会	一	東京学院	二
女子音楽学校	一	東京齒科専門学校	一
東洋音楽学校	一		
(官私費別)			
官費	三七八	私費	一、三三四
(男女別)			
男	一、六七九	女	三三三
(省別)			
広東省	二七八	湖南省	二二二
江西省	一八六	江蘇省	一七七
浙江省	一二九	湖北省	一二一
四川省	九七	陝西省	九一
福建省	七九	雲南省	五六
直隸省	四八	山東省	四五
山西省	四〇	安徽省	三三
奉天省	三一	広西省	一八
貴州省	一五	吉林省	一一
河南省	二	黒龍江省	二

三、地方官公私立学校之部（総数百十四人）

（学校別）

京都府（一四）

私立立命館中学校	一	府立医学専門学校	七
私立京都中学校	一	市立絵画専門学校	三
府立第一中学校	一		

大阪府（二七）

大阪府立高等医学校	一八	同天王寺中学校	一
同高等商業学校	一	同工業学校	三
同清水谷女学校	一	私立関西大学	一
大阪府立市岡中学校	一	私立桃山中学校	一

神奈川県（二二）

海軍砲術学校	一二	セントジョセフ中学	二
--------	----	-----------	---

愛知県（二四）

愛知医学専門学校	二四		
----------	----	--	--

長崎県（一一）

私立鎮西学院	三	私立東山学院	一
同海星中学校	二	同梅ヶ崎女学校	一
同活水女学校	三	同錢座尋常小学校	一

兵庫県（一）

姫路中学校	一
-------	---

奈良県（一）

奈良郡立農学校	一
---------	---

富山県（一）

富山県立薬学専門学校	一
------------	---

宮城県（五）

宮城県立第一中学校	三	同農学校	二
-----------	---	------	---

岩手県（一）

岩手県立農学校	一
---------	---

岡山県（七）

岡山県立師範学校	一	岡山県工業学校	六
----------	---	---------	---

（官私費別）

官費	七〇	私費	四四
----	----	----	----

（男女別）

男	一〇九	女	五
---	-----	---	---

（省別）

広東省	一八	江蘇省	一八
浙江省	一五	四川省	一五

湖北省	一〇	直隸省	九
奉天省	九	湖南省	八
福建省	四	山東省	二
安徽省	二	河南省	二
江西省	一	山西省	一

（附記二）

（文部省調査）

大正六年五月末日現在官立学校在学支那留学生員数調

学 校 名	員 数
東京帝国大学	八六
京都帝国大学	二一
東北帝国大学	一二
九州帝国大学	一〇
東京高等師範学校	八三
広島高等師範学校	一一
東京女子高等師範学校	八
奈良女子高等師範学校	一
盛岡高等農林学校	一
鹿児島高等農林学校	六
上田蚕絲専門学校	一
桐生高等染織学校	一

東京高等蚕糸学校	四
京都高等蚕糸学校	二七
東京高等商業学校	一五
神戸高等商業学校	一
長崎高等商業学校	一
山口高等商業学校	一
小樽高等商業学校	一
第一高等学校	七三
第二高等学校	一八
第三高等学校	一九
第四高等学校	一三
第五高等学校	一九
第六高等学校	一五
第七高等学校造士館	一三
第八高等学校	一八
千葉医学専門学校	三六
岡山医学専門学校	一〇
金沢医学専門学校	一
長崎医学専門学校	二一
新潟医学専門学校	一
東京高等工業学校	二七
大阪高等工業学校	二七
京都高等工芸学校	五

名古屋高等工業学校	一〇
熊本高等工業学校	一
米沢高等工業学校	一
秋田鉱山専門学校	一
東京外国語学校	三
東京美術学校	一〇
東京音楽学校	四
東京盲学校	一
東京聾啞学校	一
合 計	八一六
四四	

参照

本表ノ外台湾留学生京都帝国大学ニ二名、東京高等師範学校ニ五名、東京高等商業学校ニ一名、千葉医学専門学校ニ一名、岡山医学専門学校ニ六名アリ

三四四 五月十日 永田警保局長ヨリ
小幡政務局長宛

日中軍事協約ニ対スル中国留日学生ノ行動ニ

付通報ノ件

附 記 一 五月十一日附松室法政大学長並各大学長及校長等ヨリ中国留日学生宛訓告書

布シ又ハ貼付シ或ハ別紙ノ如キ決議ヲ為シ尚帰国ノ上当路者ノ暗殺ヲ敢行シ飽迄所期ノ実現ヲ企図シ居ルヤノ聞込アリ右ニ依リ一兩日来追次帰国スル者六十名ニ上リ尚増加ノ状況ニ有之為御参考及通牒候

註 1 前掲三三七文書附屬書参看

2 前掲三三八文書附記参看

(附 記 一)

五月十一日附松室法政大学長並各大学長及校長等ヨリ中国留日学生宛訓告書

中華民國留學生諸君ニ告グ

今次時局ニ対スル諸君ノ行動ハ固ヨリ愛国ノ至情ニ出デタルニ外ナラサルハ我等ノ諒トスル所ナリ。然ルニ其ノ基ク所ハ事実ノ真相ヲ逸スルナキカ。我等ハ諸君力之カ為ニ修學上故障ヲ来タシ留学ノ目的ヲ中途ニ挫折センコトヲ憂ヒ袖手傍觀スルニ忍ヒス。依テ速ニ政府当局者ト交渉シ諸君ノ憂慮ヲ解カンコトヲ期ス。冀クハ意ヲ安シテ學業ニ精勵セラレンコトヲ。

大正七年五月十一日

法政大学長 (イロハ順)

松室 致

東亜高等予備学校長

松本亀次郎

二 五月十三日広田秘書官ヨリ寺尾博士等宛通達

日中軍事交渉ノ目的ニ関スル外務大臣ノ言
明通達ノ件

内務省警保局警外発第四五号 (五月十一日接受)

大正七年五月十日

永田内務省警保局長 (印)

小幡外務省政務局長殿

支那留學生ノ行動ニ関スル件

支那留學生等頃日来支那新聞紙ニ顯ハレタル所謂日支交渉案件ニ対シ其ノ是非ヲ論議シ濫リニ反対ノ氣勢ヲ昂メ此際日本ト提携スルハ自国滅亡ノ因ヲ為スモノナリト極力之ニ反対シ都合ニ依リテハ之カ実行ヲ期スル為連袂帰国スヘシト称シ中国基督教青年会館大高俱樂部 (帝大生、一高生タル支那人ヲ以テ組織セルモノ) 及各所ノ貸席其他隨所ニ集合シ或ハ同郷出身者以外ノ者ヲ絶対ニ混入セシメス秘密裡ニ会合スル等漸次不穩ノ行動アリ之ニ対シ屢次政談集會ヲ開催スヘカラサル旨ヲ以テ警告ヲ与ヘ時々解散ヲ命シ尚行動不穩ノ者ハ之ヲ檢束スル等注意ヲ加ヘツツアル所ナルモ其ノ間別紙ノ如キ檄文等ヲ同国人居住ノ下宿屋飲食店ニ配

東京同文書院副長

柏原文太郎

東京女医専門学校長

吉岡 弥生

中央大学長

岡野敬次郎

女子美術学校長

佐藤 志津

早稻田大学代表理事

平沼 淑郎

慶応大学長

鎌田 栄吉

明治大学長

木下友三郎

法政学校長

寺尾 亨

成城学校長

沢柳政太郎

(附 記 二)

五月十三日広田秘書官ヨリ寺尾博士等宛通達

日中軍事交渉ノ目的ニ関スル外務大臣ノ言明通達ノ件

後藤外務大臣ノ言明

日支兩國ハ現ニ連合国側ノ与国トシテ参戰セリ、日ヲ追フテ独逸勢力ノ加ハリツツアル露国、殊ニ露領亜細亞ノ形勢ニ鑑ミ此際万一二処スル為日支協同シテ対敵防衛ノ計画ヲ樹ツルハ蓋シ緊要事ニ属ス、而シテ是亦実ニ日支共存、東亞全局保持ノ根本義ニ副フ所以ノ途ナリ、目下進行中ノ日支軍事協商ハ専ラ此趣旨ニ基ケルモノニシテ断シテ此目的

ノ範圍外ニ渉ル何等ノ事項ヲモ含ムモノニ非ス、事既ニ戰時中ニ於ケル對敵軍事行動ニ関スルモノナルヲ以テ乍遺憾其ノ内容ハ之ヲ公表スルヲ得スト雖或支那新聞紙乃至支那ニ於ケル外字新聞紙等ノ記事ニシテ前述ノ趣旨目的以外ノ事項ヲ列挙セルモノハ何レモ皆虛構捏造ニ係ル無根ノ報ナリ

外務大臣秘書官 広田守信（署名）

（欄外註記）

「大正七年五月十三日寺尾博士、木下明大校長、柏原氏及松本東亜高等予備学校長ニ本書写手交セリ」

三四五 五月十日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

日中軍事協約交渉渋滞ニ関連シ彼我意見ノ相

異点ニ付芳沢参事官ト曹交通及陸外交各総長

トノ会谈要領報告並速ニ交渉終了方上申ノ件

第六五三三

（五月十二日接受）

往電第五九一号及第六一一号ニ関シ最近軍事協定商議ニ於ケル支那側委員ノ態度兎角煮切ラズシテ其ノ後一向進捗セサルニ付支那政府ニ対シ然ルヘク口添方五月十日斎藤宇垣

両少将ヨリ芳沢へ申出アリタルニ付芳沢ハ早速曹汝霖ヲ訪問シ前記商議渋滞ノ事実ヲ指摘シ且貴電第三一三及三一六号ノ内容ヲ語リタル上事態斯ノ如クナルヲ以テ徒ラニ本件商議ヲ遷延セシムルトキハ各方面ニ意外ノ疑惑ヲ誘致シ兩國国交上或ハ面白カラザル結果ヲ惹起センコトヲ虞ルルニ付当該委員ヲ督励シテ商議ノ進捗ヲ促スノ必要アル次第ヲ切言シタル後目下支那側委員トノ間ニ話合ノ纏ラザルモノ四点アリ就中支那側申出ノ第七号第三号戰後臨時建設物ヲ撤去スヘキ旨ノ文字ハ既ニ第四条ニ於テ戰爭終了ト共ニ軍隊ヲ撤退スル旨ノ条項モ有之以上敢テ右ノ如キ文字ヲ存置スルノ必要ナキ様思考セラレ又第十一条有効期間ノ件ハ支那側ニ於テハ戰爭終了迄トシタシトノコトナルモ戰爭終了スルモ例ヘハ独逸ガ西比利亜ニ於ケル過激派ヲ使喚シテ公安ヲ乱スカ如キコトアル場合ハ依然共同防敵ノ目的存在スルモノナルカ故日本委員希望ノ通有効期間ヲ防敵ノ目的ノ消滅スル迄トスルハ最事宜ニ適セルモノト思料セラルル旨ヲ述ヘタル上詳細説明ヲ加ヘタル処曹ハ実ハ本件商議開始ノ当初ヨリ今日ニ至リテハ大分事態モ變遷シ来リ今ヤ本件協定ヲ必要トスル事情モ大ニ減少セル有様ニ付自分ヲシテ

忌憚ナク云ハシムレハ多少ノ讓歩ヲナスモ速ニ商議ヲ終了シ協定ヲ成立セシムルコト日本側ニ取リテモ得策ナリト思考スル旨ヲ答ヘ尚第七条第三号ニ於ケル支那側主張ノ文字ニシテ削除スルコトハ到底承諾スルコト能ハザルモ第十一条有効期間ノ件枉ケテ承諾方支那側委員ニ説得ヲ試ムヘシト述ヘタルニ付芳沢ハ然ラハ支那側委員ヨリ第八号第三号ノ文字ヲ必要トスル理由ヲ書面ニテ日本側委員ニ知照セララルコトニ取計ハルルト同時ニ第十一条ニ於ケル日本側ノ申出ヲ容レラルルニ於テハ第一条及第三条に關シ讓歩方自分ヨリ日本側委員ニ慫慂スルコト致スヘシト告ケタルニ曹ハ書面ヲ送ルコトハ何等其ノ必要ヲ認メズトテ頑強ニ固執シタルニ付芳沢ハ書面ノ送付ナキニ於テハ其ノ他ノ条項ニ於テ讓歩スル様自分ヨリ日本側委員ヲ説得スルコト能ハズ書面ノ送附ハ絶対ニ必要ナル旨ヲ述ヘ曹ハ結局書面ヲ送付スル様支那側委員ニ勸告方承諾シタル趣ナリ

芳沢ハ尚正式ノ徑路ニ依リ外交総長ヘモ同様申入レ置クコト適當ナリト認メ続イテ同総長ヲ訪問シ曹汝霖ニ面会シタルコトハ之ヲ語ラズシテ是亦本件商議促進ノ必要ヲ詳細説明シタル処同総長ハ第七条第三号ハ国民ノ反対ニ関スル思

惑ノ上ヨリ之ヲ必要トスル次第ナルヘシト述ヘ第十一条有効期間ノ件ニ付テハ明瞭ナル回答ヲナサザリシガ結局前後一時間半ニ亘リ種々論議ノ末同総長ハ明日ノ國務會議ニ於テ段総理、陸海軍総長等ヘ芳沢説明ノ次第委細報告ノ上其ノ考慮ヲ請フコト致スヘキ旨答ヘタル趣ナリ十日芳沢對曹汝霖及外交総長会谈ノ要点ハ右ノ通ナル処本件商議遷延スルニ於テハ種々ノ故障相踵テ發生シ如何ナル事態ヲ現出スルニ至ルヤモ計リ難キ虞有之ト認メララルルニ付速ニ談判ヲ終了スル方得策ニ有之此ノ点ハ我委員ニ於テモ同感ニテ本日ノ会谈ニ対シテモ異存ナキモノノ如クニ付帝國政府ニ於テモ之ヲ是認セラレ尚明日ノ國務會議ノ討議如何ニ依リ交渉或ハ多少遷延スルコトアルヘキモ大体右ノ方針ニ依リ成ルヘク速ニ結了セシムル様然ルヘク御詮議アラシコトヲ希望ス（十日）（奉天発五月十一日午後一、四〇）

三四六 五月十日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛（電報）

日中軍事協約反対ノ帰国留学生取締方ニ付陸

外交総長ニ申入ノ件

第六五四号

（五月十二日接受）

貴電第三一六号ニ関シ五月十日芳沢外交総長ヲ往訪シ御訓示ニ従ヒ詳細事由ヲ述ヘテ取締ヲ要求シタル処同総長モ大ニ同感ノ意ヲ表シ早速明十一日ノ國務會議ニ附議シ内務総長トモ篤ト打合ヲ遂ケタル上同総長ヨリ重ナル地点ニ於ケル關係官憲ニ電訓ヲ発セシムルコトニ取計フ可キ旨答ヘタリ尚又暗殺隱謀ノ件ニ付テモ恐ラク事實ニアラザル可キ旨ヲ前提シ且ツ故意ト人名ヲ避ケタル上然ル可ク注意ヲ与ヘ置キタリ

天津以下貴電御指示ノ各地ニ転電セリ(十日)(奉天經由五月十一日前九、三〇)

三四七 五月十日 関東都督府ヨリ
幣原外務次官宛

日中交渉ニ関スル広東国会ノ檄電ニ付通報ノ件

関東都督府民政長官 同警務総長
陸部 参謀第三五六号 (五月十六日接受)
大正七年五月十日 関東都督府陸軍参謀部

新聞報(支那) 第一一五号

時事

日支交渉ニ関シ広東国会ノ檄電

(五月三日北京日報)
香港電報ニ依レハ広東ノ非常国会ハ中央政府少数ノ高官ガ過大ノ要求ヲ提出シ国家ノ存在ヲ危殆ナラシムル日本ノ為ニ秘密ヲ嚴守スルノ非ヲ責ムル左ノ電報ヲ各省及在外公使ニ打電セリ

中央政府ノ意志ハ西南部ヲ屈服スル為ニ日本ノ勢力ヲ藉ラントスルナリ今回ノ要求ハ民国四年日本ノ提出シタル第五項ノ内容ヨリ過大ナルモノニシテ若シ支那ニシテ之ニ応ゼンカ支那ハ間モナク滅亡セン故ニ吾人ハ同交渉ヲ適法ト認ムルコト能ハズ同交渉ハ表面ハ日支陸海軍ノ協同動作ニ関スル如クナレドモ実ハ日本ガ支那ヲ併吞セントスル第一歩ナリ若シ日支両國ガ武裝同盟ヲ為ス必要アラバ支那ノ国会ハ第一ニ協議ニ与ラザルヘカラズ斯カル国家ノ重大問題ガ二、三ノ官吏ニヨリ勝手ニ決定セラルルヲ坐視スルコト能ハズ西南部ヲ圧抑センカ為ニ外国ノ力ヲ藉ラントスル中央政府ノ行動ハ国民ノ等シク排斥スル所ナリ

本書發送先

関東都督府民政長官 同警務総長

関東憲兵隊長 参謀次長 陸軍次官

外務次官 朝鮮総督附武官

朝鮮駐劄軍参謀長 同憲兵隊司令官

支那公使館附武官 坂西少将

支那駐屯軍司令官 青島守備軍参謀長

中支那派遣隊司令官 上海駐在武官

台湾総督府陸軍参謀長 独立守備隊司令官

第七師団参謀長 南滿洲鉄道株式会社理事長

三四八 五月十二日 石光天津軍司令官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

日中軍事協約反対ノ留日学生帰国シテ排日ヲ

鼓吹スベシトノ情報ニ関スル件

天電第一八四号 (五月十三日接受)

日本留学生中過激ナル者一〇〇余名ハ日支協約ニ憤慨シ既ニ帰国ノ途ニ就キ天津上海ニ来リ排日ヲ鼓吹スベシトノ報アリ当地及ヒ上海ニハ國際問題発スル毎ニ排外運動ヲ開始スル事ヲ専売トセル一種類ノ団体アリ若シ帰国留学生ト彼等トノ連合ナランカ從來ノ如ク或ル程度迄排日ヲ(六字不

明)我對支商業ヲ害スルヤモ知レズ特ニ目下当地ニ開催中

ナル全國商會聯合會ハ日支協約ニ反對ナレハ留学生ノ帰國ハ時節柄注目ヲ要ス又在米支那留学生約二百名ハ去ル八日天津青年會ニ宛日支交渉問題ハ全然反對ナル旨電報セリト各地スミ

三四九 五月十四日 在奉天田村總領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協定反対ノ帰国留学生取締方ニ関シ

張作霖ニ申入ノ件

第一五八号 (五月十四日接受)

閣下苑林公使宛電報第三一六号並貴電第七三三号ノ件張作霖ニ内話シタル処奉天省留学生ニシテ既ニ帰國セルモノ五十五名ニ達シ自分ニモ面會ヲ求メタルニ付之ヲ拒絕シ其復歸ヲ促カスト同時ニ若シ煽動的行爲アラバ直ニ処罰スル考ニテ手配済尚ホ奉天省議會ヨリ各省々議會及中央政府ニ對シテ軍事協定反対ノ電報ヲ發セントセルヲ五月九日取押ヘ議員連ヲ説得済ナル旨語リタリ

在支公使ヘ電報セリ

三五〇 五月十四日 在北京坂西陸軍少将ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

日中軍事協定反対ノ帰国留学生京津間ニ来集

セル模様ナルニ付劉崇傑ニ注意方申入ノ件

附記 政務局長ヨリ地方長官宛電報案

新聞雜誌記事取締ノ件

坂極秘電二〇〇

(五月十六日外務省接受)

日支軍事協定問題ニ憤慨シ休業帰国中ナリシ支那留学生ハ
昨今三々五々京津間ニ到着セシ模様ナルヲ以テ本日劉崇傑
ニ対シ十二日発天津電報ノ如ク此等ノ都会ヨリシテ無頼ノ
徒ノ横行ヲ誘致シ殊ニ目下天津ニ開催中ナル商務会ト聯合
シ日貨排斥等排日の行為ヲ現出スルニ於テハ兩國々交上忌
ムヘキ結果ヲ招致スルノ虞アル旨注意シタルニ駐日留学生
ノ帰国セルモノアルハ事実ニテ目下吾人外交当局ヲ訪問シ
来ルモノ少カラス是党人カ其背後ニ在リテ彼ヲ煽動セル結
果ナルヘント信スルモ学生其モノトシテ寧ロ心事ヲ慫マザ
ルヲ得ズ政府トシテモ彼等ノ行動ヨリシテ國際間ニ意外ノ
故障ヲ生スヘキヲ慮リ目下夫々検圧策講究中ナルカ故ニ多
分大事ニハ至ラザルヘシ但彼等ノ疑惑ヲ解ク手段トシテ一

往電第六五三三号ニ関シ五月十一日段陸軍総長ハ齋藤少将ニ
対シ同日ノ國務會議ニ於テ曹汝霖ヨリ軍事協定ヲ速ニ妥結
スル必要ヲ縷述シ結局十二日段曹両総長目下病氣引籠中ノ
支那側委員長靳雲鵬ヲ訪問ノ上何分ノ儀決定スルコトナ
レル旨語リタル趣ナリ(奉天発十四日前一、五〇)

三五一

五月十四日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協約ニ関シ段、曹、靳ノ協議纏リタル要点報告ノ件

第六六六号

(五月十四日接受)

往電第六六〇号ニ関シ五月十二日段、曹両総長靳雲鵬ヲ訪
問協議ノ上議纏マリタル後三人ヨリ坂西ヲ招キ第一条ノ独
塊兩國ヲ敵国トスルコト、第七条第三号ノ件ニ付テハ支那
側ヨリ書面ヲ送越スコト、又第十一条ノ件ニ付テハ戦争状
態終了ノ上効力ヲ失フト改ムルコトニ決定セル旨ヲ告ケタ
ル趣齋藤少将ヨリ申出タルカ我委員側ニテモ右ニテ折合フ
ベキ意向ナルニ付支那政府内部ニテ右三人ノ協議通り話合
纏マル節ハ愈々本件モ二三日中ニ確定ヲ見ルニ至ルベキカ
ト存ズ(奉天發由五月十四日前五、四〇)

般ニ協定一部ノ内容ヲ抽象的ニ説明スルノ已ムナキニ立チ
至ルヤモ知ルヘカラズ云々ト答ヘタリ

(附記)

政務局長ヨリ地方長官宛電報案

日中軍事協定ニ関スル新聞雜誌記事ノ取締ニ関スル件

客月十二日電報セル取締事項中一、日支軍事協定ニ関スル

(註1)

事項ニ付テハ外相ノ声明アリタル此際右声明以外ニ涉リ其

(註2)

内容トシテ肯定的ニ報道スルモノ又ハ交渉ノ經過ヲ詳述シ
排日思想ヲ煽動スル虞アルモノヲ取締ル義ト解セラレタシ
右依命

註1 三二四文書

2 三四四文書附記二

(欄外註記)

「五月十六日二宮陸軍大臣秘書官ト松岡ト協議ノ上陸軍大
臣ノ意見トシテ本件ハ軍事協約調印上奏済マテ差控ユル事
ニ務議済、即日内務省赤木事務官ニ以電話通知セリ(松岡
洋)」

三五一 五月十四日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協約ノ早急妥結方ニ関スル件

第六六〇号(訂正電報)

(五月十四日接受)

三三三 五月十四日

後藤外務大臣ヨリ
在仏国松井大使宛(電報)

日中軍事協定交換公文ノ要旨仏国外相ニ内告

方訓令ノ件

第四五号

本大臣発在英大使宛往電第一五九号ニ関シ貴官ハ任国外務
大臣ヘ面会セラレ右往電第一五九号前段ノ要旨ヲ叙シ且左
ノ通申入レラレタル上同大臣限リノ含迄極秘トシテ在英大
使宛往電第一六〇号本件交換公文ノ要旨ヲ内告セラレ模様
電報アリ度シ尤本交換公文ハ共同作戦ノ必要ニ基ク一ノ軍
事協定ニ過キザル次第第二付右任国外務大臣ヘノ通告ハ其辺
御含ノ上成ルヘク輕ク行ハレ度シ

『右往電第一五九号前段ノ趣旨ヨリシテ三月二五日日支
兩國間ニ公文ノ交換ヲ見ルニ至リタルガ爾来引続キ右公
文ニ基キ北京ニ於テ日支軍事当局者間ニ細目商議中ニテ
已ニ兩者ノ意見大体ニ於テ一致シ近日調印ノ運トナルヘ
シト思考セラルル処昨今上海天津辺ノ外字新聞及支那新
聞ハ之ヲ誤解誇張シタル記事ヲ掲ゲ甚シキハ日本ハ大正
四年对支要求第五号即チ所謂希望条項類似ノ要求ヲ支那

ニ強要シ居レリト云フカ如キ報道ヲ流布シ居レリ然ルニ本件交換公文ハ前記ノ通日支両国共同防敵ノ必要ニ基ク一ノ軍事協定ニ外ナラズシテ右細目モ亦此ノ範圍ヲ超エザル兩國間ノ軍事上ノ打合ニ過キザル次第ニ付旁々事態ヲ明瞭ナラシメム為メ帝国政府ハ茲ニ特ニ任国外務大臣ニ對シ為念右交換公文ノ要旨ヲ内告スル次第ナリ』右訓令トシテ米伊ニ又參考ノ為メ英ニ転電アリ度シ

三五四 五月十五日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事交渉ノ目的ニ関スル言明通報ノ件

第三二九号

日支軍事協定ノ内容ニ関スル虚構ノ報道ニ誤解ヲ抱ケル支那留学生ニ對シ關係学校理事者ニ於テ極力之ガ慰撫ニ努メ居ルニ際シ本大臣ハ別電ノ通右理事者ニ言明ヲ為シ置キタリ御參考迄

註 別電第三三〇号ハ前掲三四四文書附記ニ同文ナルニ付省略ス

三五五 五月十五日 在天津沼野総領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

大正七年五月十五日

京都府知事 馬淵銳太郎(印)

内務大臣法学博士 水野鍊太郎殿

外務大臣男爵 後藤新平殿

文部大臣 岡田良平殿

各府府県長官殿

通報先警視庁、神奈川、大阪、兵庫、岡山、熊本、長崎

鹿児島、千葉、宮城、石川、新潟、群馬、愛知、

岩手、山形、広島、山口、福岡、北海道

支那留学生動静ニ関スル件

支那留学生ノ動静ニ関シテハ本月十二日高秘第七七一号ヲ以テ日支新密約ノ真偽ヲ確メタル上態度ヲ決定スルコトニ決シタル旨申報(内外相)致置キタルニ其真偽調査ノ為メ東上シタル当府下留学生代表者京都留学生会長胡嘉詔等ハ本月十二日帰洛シテ日支新密約ノ真相ハ之ヲ知ル能ハザリシモ東京方面ノ留学生ノ態度ハ頗ル過激ニシテ到底沈静ノ見込ナシト其詳細ヲ報告シタルニ(集会ニ抛ラズ)意見区々ニシテ容易ニ決セザリシモ元来会長ハ頗ル温健ナル人物ナリガ故ニ処決ヲ逡巡シ居タルモ帰国派ノ主張益々強硬トナ

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三五六

帰国ノ中国留學生日中軍事協約ノ内容発表ヲ

政府ニ要求ノ件

第四六号

(五月十六日接受)

支那留學生十一名五月十三日東京ヨリ帰來シタルガ彼等ハ援国団支部ヲ天津ニ置キ(本部ハ上海ニ)紳商學界並各機關ト連絡シテ政府ニ對シ今回日支協約ノ内容ヲ発表シテ疑惑ヲ解カンコトヲ要求シ若シ該協約ノ性質カ主權ニ妨ケアルトキハ死ヲ誓ツテ承認セズ尚万一政府カ日本側ニ脅迫セラレ調印ヲ拒絶スルコト能ハザル場合ニハ更ニ一切ヲ犠牲トシテ政府ノ後盾トナル旨益世報記者ニ語リタル由ニテ五月十五日発行該報ハ記者ト學生トノ談話ヲ論說代リトシテ発表セリ尚彼等ハ一般政況視察ノ為メナリト称シ五月十五日朝北京ニ赴キタリ在支公使ヘ転電セリ

三五六 五月十五日

馬淵京都知事ヨリ
水野内務後藤外務両大臣他宛

京都ニ於ケル中国人留學生ノ情况特ニ帰国間

題ニ関スル実情報告ノ件

高秘第七九二号

(五月十八日接受)

リ而カモ全国各地ノ留學生団ヨリ態度ノ決定ヲ促シ來ルコト頻々ニシテ而モ最初ヨリ頗ル自重ノ態度ナリシ東京帝大早稲田大學等ノ二三モ既ニ十三日迄ニ帰國ニ決シタリト聞キ最早大勢上已ムヲ得ズトナシ帰國ニ決セサレバ非國民的ノ批難ヲ受クルヲ虞レ同一態度ヲ執ルノ已ムヲ得サルヲ決心シテ昨十四日午後二時ヨリ京都帝大學生集會所ニテ留學生例會ヲ開キタルニ首鼠兩端大勢ノ赴ク処ニ從フハ彼等ノ性ナルヲ以テ昨日迄留學ヲ主張シタル者モ忽チ帰國論ヲ主張スルニ至リ結局出席者五十(欠席九)中四十一對九ヲ以テ帰國ニ決シ欠席者ニモ其旨ヲ伝ヘ同意セシメタリ然シテ表面ハ各自ノ自由意志ニ任スト吹聴シ其實旅費及家計ノ都合モアルヲ以テ一ヶ月以内ニ日本ヲ離ルル条件ヲ附シ帰國派ノ主張ト其行動ヲ共ニスルコトニ決議シ今十五日ヨリ全部休學シ居ル狀態ニ有之然ルニ全国各地ノ留學生ノ狀態ヲ内査聞知スルニ其ノ帰國ノ根本理由ハ支那紙ノ掲載シタリト云フ日支新密約十七ヶ条ハ亡國の條約ナリト憤懣スルニ依ルモ近來ハ過般各新聞紙ニ東京留學生集會ノ際警視庁ノ執リタル処置ヲ針小棒大の喧伝掲載セラルルニ激昂シ之ヲ帰國ノ理由トナスモノノ如クナレド其真意ハ新密約ヲ事

三五三

実ナリト信スル者多キニ因ルモノノ如ク過般新聞紙ニ発表セラレタル外務(貴)大臣ノ覚書ハ一種ノ政策ニシテ外交ノ秘密ヲ蔽フ一時的ノ宣言ナラント仮信シ居ル有様ニシテ只管疑惑ノ念ニ驅ラレ居ル際東京方面ヨリ来レル反日的流言蜚語ニ煽動セラレツツアリ而シテ全国各地ノ留学生団ハ沈黙ヲ守ルヲ主義トシ表面平穩ニ見エタルモ其実十四日ノ京都ノ帰国決定ハ殆ト最終ノモノ(神戸留学生ハ京都ノ処決ヲ俟チテ決定スルヲ別トシテ)ナリト聞ケリ尚本件ニ関シ其ノ主導者ハ何処ニアルヤ其脈絡如何ヲ嚴重探索スルモ判明セズ然レドモ東京留学生団中ニハ暗殺組ト称スルモノヲ組織シ隱ニ態度不鮮明ナル者若シクハ帰国反對論者ニ對シ暴行脅迫ヲ為シツツアルモノノ如ク真偽不明ナルモ現ニ過般青山練兵場附近ニ於テ殺害セラレタル者アリ其他二三名ハ重傷ヲ負ヒタル者アルモ極メテ秘密ニナシツツアリト聞キ且ツ全国各地ノ留学生ハ来月二十日頃迄ニ全部上海ニ集合スルコトニ決定シ上海集合後ハ各自重要ナル使命ヲ帶ブルコトニナリ居レリトノ聞アリ故ニ其策源地ハ上海方面ニアリテ日本ニ於テハ東京ヲ中心トシテ何者カガ裏面ニ活躍シ居ルニアラズヤト思料セラレ尚各地方ヘモ其暗殺組員

兵器統一協定ハ日中軍事協約承認後ニ於テ
提議アリタキ件

第五百五十二号

支極秘二六四ノ貴官意見ニ同意ス若シ貴官ノ意見ノ如ク兵器統一協定ヲ条件トスルニ於テハ本電二六四前電二三三、二四一ノ兵器ハ凡テ交附シ得ル見込ナリ貴官ハ此意ヲ含ミ軍事協約承認済ノ後ニ於テ此交渉ヲ開始セラレタシ強イテ当方ノ希望ヲ述フレハ本交渉ノ条件トシテ支那所要兵器ヲ日本ヨリ供給シ日本ハ兵器原料中所要ノモノヲ支那ニ採ルノ約定ヲ為シ得ハ一層可ナリ然レトモ此後段ノ条件ハ本協定ヲ不成立ニ終ラシムル迄ニ主張スルモノニアラズ

三五九

五月十八日 田中參謀次長ヨリ
齋藤在中國日本公使館附陸軍武官宛(電報)

軍事協約ノ附屬書ニ関スル協議ノ繼續可否ニ

付中国側ノ意向問質ノ件

電報案

軍事協約ハ支那側ニテ政争ノ具ニ供セラレタル為メ該国當事者ハ之カ取纏ニ甚タ困難ヲ来セシカ如シ此上附屬書迄モ協議ヲ繼續スルトキハ一層ノ疑惑ヲ世上ニ惹起シ延イテ支

ヲ勧誘シ来タリタリトノ風聞アルヲ以テ支那留学生ノ在住スル各府県ニ於テモ此点ニ関シ相当注意ヲ要スルモノト認メラル殊ニ駐日章公使ノ態度ヲ壳国奴ナリト批難攻撃シ居ル者多ク此際頗ル注意ヲ要ス

右及申(通)報候也

追テ本件ニ関シ各団体トノ往復書類ハ殆ト血判ヲ用ヒ居ルト称セラレツツアリ捜査スルモノ一書ダニ手ニ入ルヲ得ズ

三五七

五月十八日 大島陸軍大臣ヨリ
後藤外務大臣宛

日中陸軍共同防敵軍事協定調印済通報ノ件

陸軍省 達陸密第一四三号 (五月十八日接受)

日支陸軍共同防敵軍事協定調印ノ件通牒

大正七年五月十八日 陸軍大臣 大島健一(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支陸軍共同防敵軍事協定ハ五月十六日午後調印ヲ終リ候条及通報候也

三五八

五月十八日 田中參謀次長ヨリ
齋藤在中國日本公使館附陸軍武官宛(電報)

那ノ政局ニ累ヲ及ホスニ至ラザルカヲ恐ル依テ一ト先ヅ此會議ヲ打切り世情ノ静マルヲ待テ更ニ附屬書ニ関スル協議ヲ開始スル方却テ好都合ナランカト考フ此意味ニテ先方ニ交渉シ其意嚮ヲ問ヒ何分ノ返電アリタシ但シ支那側ニ於テ繼續協議ヲ希望スル次第ナレバ我國ニ於テ之ヲ避ケントスル意味ニアラズ要スルニ先方ノ希望ニ任スト云フニ過ギズ(欄外註記)

「本電外務大臣同意(小幡政務局長)」

註 右電報案ハ五月十八日參謀本部ヨリ齋藤少將宛第一五三号ヲ以テ發電セラレタリ

三六〇

五月十八日 在漢口瀨川總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

軍事協約ニ反對ノ帰国留学生嚴重取締方ニ関

シ王湖北督軍ヨリ各軍警ニ命令ノ件

第二一〇号

(五月十九日接受)

王督軍ハ五月十六日湖北管内各軍警ニ命令シテ曰ク時局未タ定マラズ乱兆益々多シ近時留学生ノ日本ヨリ帰来スルモノ日支協約反對ニ辞ヲ藉リ乱党ト結託シテ事ヲ生スルヤ測ルベカラザルヲ以テ是等ノ者ニ對シ取締ヲ嚴重ニシ若シ治安ヲ案スガ如キ言動ヲ為スモノアラバ逮捕ノ上武昌ニ遷送

シ法ニ照ラシテ嚴重ニ処分スベシト
在支公使へ転電セリ

三六一 五月十九日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原参謀総長宛(電報)

軍事協約附属事項ノ協議ハ一先打切トシ度キ
先方意向報告並該協約ノ有効期間ノ問題ニ付
請訓ノ件

協第六十一号 (五月二十日接受)

貴電第一五三号ニ基キ附属事項ノ協定ヲ継続スヘキヤ否ヤ
ニ関シ本日斬委員長ノ意嚮ヲ聴キシニ彼ハ現下ノ内情ト今
回ノ如キ支那委員ニテハ此種ノ交渉殆ンド不可能ナルカ故
ニ一先打切ルコトトセラレ度段総理ニ於テモ全然同意見ナ
リト語レリ就テハ貴電ノ通り今次本協定ノ成立ヲ以テ一段
落トシ字垣一行ハ二十二日当地出發帰朝ノ事ニ取計フヘシ
尚斬ハ本協定第十一條第三項ヲ削リシ結果トシテ別ニ書面
ニテ政府間ノ声明書中ニアル公文ノ効力期間ノコトヲ取極
メ置カンコトヲ主張シツツアリ我委員ニ於テハ右ハ已ニ軍
事協定ニ於テ其有効期限ヲ規定セル故必要ナシトノ意見ナ
ルモ先方ハ公文ノ有効期間ト軍事協定ノ有効期間トヲ別個

協約反対ノ論說ヲ掲ケタリ
在支公使へ電報セリ

三六三 五月十九日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協約ニ関シ詳細承知シ度旨露国公使
館ノ申出アリタルニ付其応答振請訓ノ件

別電一 同日林公使發後藤外務大臣宛電報第七〇三
号

五月十八日附京津タイムス記事要領
二 同右電報第七〇四号

露国公使館ニ送付スベキステートメント案

第七〇二号 (五月十九日接受)

五月十八日露国公使館一等書記官芳沢ヲ来訪シ日支軍事協
定調印セラレタル趣ノ処在哈爾濱同國副領事其他該方面露
国官憲等ニ於テ何等誤解ヲ抱クニ於テハ面白カラズト思考
セラルルニ付右様ノ誤解ヲ予防スル丈ケノ事ハ何トカ彼等
ニ申送り置キタキニ付テハ該協定ニ関シ差支ナキ限り内話
ヲ煩ハシタキ旨申出デタルニ付芳沢ハ該協定ガ一昨日調印
セラレタルハ事実ナルガ右協定ハ直接露国人又ハ露国ノ領
土ニ影響ヲ及ホス如キ何等ノ条項ヲ含ムモノニアラズ只露

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三六三

ニ考ヘ声明書通り軍事当局ニ於テ協定スヘキモノナリト称
シ居レリ兎ニ角支那側ノ希望ヲ容ルルトスルモ日支双方ト
モニ陸海軍事当局一致ノ意見ニ基カザル可カラザル問題ナ
ルヲ以テ当方ニ於テモ海軍委員ニ打合ハスヘク東京ニ於テ
モ海軍側ト打合ハセノ上何分ノ意見指示アリ度

三六二 五月十九日 在天津沼野総領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協約ニ反対ノ全国商界聯合会ノ決議

二付報告ノ件

第五〇号

日支協同防禦問題ニ関シ全国商界聯合会ハ五月十八日秘密
會議ヲ開キタル上該協約ハ既ニ兩國委員ノ調印ヲ經タルモ
未タ大總統ノ許可ヲ得ルニ至ラザルヲ以テ至急挽回ノ策ヲ
講スルコトヲ決議シ直ニ代表者ヲ北京ニ派遣シタル外(一)大
總統ニ対シ該協約ヲ批准セザル様電請スルコト(二)各友邦ニ
通電シテ全國商民不承認ノ理由ヲ声明スルコト(三)日本商界
商民ニ宛テ該協約ヲ否認スル理由ヲ電報スルコト(四)各機關
ニ対シ一致シテ本協約ニ反対スル様勸告スルコト等ヲ議決
シタル由ナルカ益世報京津「タイムス」(漢字新聞)モ該

国及亞細亞ニ於テ敵国勢力ノ瀰漫ニ対シ日支協同ノ利益防
衛ノ為メニスル軍事行動ヲ定メタルニ過キザルニ付必要ノ
場合ニハ其意味ニテ露国官憲ニ通報セラレテハ如何夫レ以
上ハ帝國政府ヘ請訓ノ上ナラデハ何分御内話致シ兼ヌル旨
答ヘ置キタル趣ナリ然ルニ同書記官ハ以上ノ説明ニテハ充
分満足セザルモノノ如ク今少シ詳細ニ承知シタキ旨芳沢
ニ依頼シタル趣ナルガ他面別電第七〇三号ノ如キ新聞記事
モ之レアリ旁々露国公使館ヘハ大要別電第七〇四号ノ如キ
英文「ステートメント」ニテモ送りテハ如何カト思考ス右
ニ対シ何分ノ義御返電アリタシ(奉天經由五月十九日前九、一〇)

(別電一)

五月十九日在中国林公使發後藤外務大臣宛電報第七〇三号
五月十八日附京津タイムス記事要領

第七〇三号別電

五月十八日京津「タイムス」ノ記事

協約カ斯克至急調印セラレタルハ日本委員カ南方ノ激論及
其他ノ地方ニ於ケル反対ガ終ニ本協約ノ確立ニ果ヲ及ボシ
勢ノ赴クトコロ或ハ段内閣覆滅ノ因ヲナスナキヤヲ恐レタ
ルガ故ニ外ナラズ確報ニ依レバ支那側ヨリ提出セル三条件

即

第一、協約ハ東部西比利亞及北滿洲ニ於ケル一般狀態ガ日支協同動作ヲ必要トスルニ非ザレバ實施セラレサルコト

第二、協約ガ戰爭終了ト共ニ無効ニ帰スベキコト

第三、協同動作ノ範圍ハ支那ノ東北國境即東部西比利亞及北滿洲ニ於ケル日支陸軍協同動作ニ限定セラルベキコト

ノ三条項ハ日本ノ同意ヲ得タリト言フ

協約ハ支那ノ宗主權ヲ危クスルモノニ非ザルモ而モ敵國側ニ情報ヲ与フルヲ防止スル為其全文ヲ發表スルコト困難ナリトノコトナルガ吾人ノ得タル報道ニ依レハ協約全文ハ元二十個条ヨリ成レルモ其後十二ヶ条ニ減セラレタリ而シテ其主ナル条項ハ前掲三項ノ外東北國境ニ於ケル支那軍隊ヲ日本將校ノ指揮ノ下ニ置キ軍器及軍用地図等ノ画一共通ヲ計ルト同時ニ軍隊ノ輸送教練指揮ヲ統一セル命令權ニ屬セシムルノミナラズ軍事行動地域ニ於ケル支那鐵道ハ日本軍司令官ノ支配ニ移スヘク且日本ハ必要ノ場合ニハ軍事行動地域内ニ城塞及軍事警察ヲ創設シ得ヘク而シテ又日本ハ軍事行動遂行上必要ノ場合ニハ財政上ノ援助ヲ与フヘキコト等ノ九項ナルモ吾人ハ右以外ニ尚嚴秘ニ附セラルルモノア

シト述べ甚ダシキニ至リテハ兵器廠鉱山鐵道警察ニ関スル秘密協約ノ存在ヲ説クモノ等之レアリ右ハ何レモ虚構捏造ニ係ル無根ノ報道ナリ

三六四 五月二十日 警視庁ヨリ
外務省宛

中国人留学生ノ帰國勸告文配布ニ関シ報告ノ件

附記一 中国人留学生ノ登校狀況表(五月十五日調)

二 中国人留学生ノ帰國情況調査表(五月二十七日現在)

三 各港別中国人留学生帰國者表(六月十二日調)

外秘乙第四三九号

五月二十日

支那留学生ノ動靜

五月十九日

一、集会 ナシ

一、檄文配布

一、急告 帰國団調査急告(五月十七日)(大意)昨日

ノ大阪朝日新聞及東京国民新聞ノ電報ヲ見ルニ北京政府

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三六四

ルヲ確信スルモノニシテ本協約ニ責任アル支那当局ハ極力何等支那ノ利益ヲ侵犯スルモノニ非ザル旨ヲ強弁スト雖兵器廠鉄鉱鐵道及一九一五年ノ所謂第五項ニ等シキ警察權ノ支配等ニ関スル秘密協約ノ存スルハ吾人ノ想察ニ難カラザルトコロナリ

(別電二)

五月十九日在中国林公使發後藤外務大臣宛電報第七〇四号
露國公使館ニ送付スベキステートメント案

第七〇四号 別電

露國並露領亞細亞ニ於テ敵國勢力ノ日ヲ逐テ増大シツツアル形勢ニ鑑ミ日支兩國ハ此際万ニ一処スル為メ共同シテ對敵防衛ノ計畫ヲ立ツルノ必要ヲ認メ最近兩國ノ間ニ一軍事協商ヲ締結セルハ事實ナリ然レドモ該協商ハ以上ノ趣旨ニ基キ專ラ現戰爭中ノ對敵軍事行動ニ関シ取極タルモノニシテ右目的ノ範圍外ニ渡ル何等ノ条項ヲ含ムモノニアラズ新聞等ノ記事ニシテ或ハ支那東北境ノ兵力ハ日本軍人ノ指揮下ニ置カルルニ至ルヘント云ヒ或ハ兩國軍器ハ統一セラハント為シ或ハ兩國ノ軍事地圖ヲ共通ニシ作戰地帯ニ於ケル要塞ノ建設鐵道ノ管理等モ日本軍憲ノ手ニ委ネラルヘ

ハ一週間以内ニ該亡國条約ヲ調印セントスト何ソ驚懼ニ堪ヘザランヤ此間ニ一致帰國シ協力シテ此危局ヲ挽回セザル可カラズ亡國ノ日ハ僅ニ一週間ニ迫マレリ速ニ帰國シ中華民國ヲ救ハザル可カラス之レ吾人ノ義務ナリ此ノ危急ノ場合ニ帰國ヲ遷引シ愛國心ノ熱烈ナル各団体ノ弁事人員ニ督促ヲ受クルガ如キコトナカランコトヲ期ス可シ幸ニ本月十九日ニ上海ニ向フ船アリ諸君乞フ行李ヲ纏メ同船ニ便乗シ本部ヘ赴カンコトヲ吾人モ亦殘留者ノ監査ニ報告ノ為メ二名ヲ停メ其他ハ該船ニテ出發スベシ若シ諸君ニシテ速カニ帰國セス売國条件ノ締結ヲ對岸視スルガ如キコトアランカ其姓名ヲ本國各新聞ニ掲載シ売國奴タルコトヲ宣布ス可シ因テ名譽ヲ重ズルノ士ハ至急帰國セラルベシ

一、警告徘徊視望者

亡國之期已至矣諸君服從良心第一命令

中華民國救國團東京支部

(大意)嗚呼國家危ク事急ナリ吾人ノ愛國ノ行動ヲ倭奴独探ナリト誣ユ國未ダ亡ビサルニ已ニ亡國奴ノ待遇ヲ受ク是レヲ忍フベクンハ孰レ忍ハザラン諸君此ニ至リテ尚

形勢觀望ノ余地アラシヤ夫レ穩健ノ名誰レカ好學ノ心ヲ欲セザル然レトモ斯ノ如ク侮蔑サレ且ツ祖国危亡ノ秋ニ當リテ甘ジテ敵地ニ居リテ形勢ヲ傍觀ス豈愛國ノ士ノ忍ブ所ナランヤ是レ代表聯合会全体ガ一致帰國ヲ快議シタル所以ナリ爾來帰國スルモノ已ニ千人ニ達ス而シテ其中ニ穩健ノ派積學ノ士決シテ諸君ニ譲ラズ然レトモ時勢迫ル所已ヲ得ザルナリ敵人我士氣ノ盛ナルニ驚キ之レニ對シ初メ高圧的手段ヲ執リシガ今ヤ柔和手段トナレリ諸君ハ先發諸士ト一致ノ行動ヲ採ラス卒業等ノ区々タル事件ニ眷戀シテ帰國セザルハ良心ニ愧ヂザルカ諸君ニシテ果シテ愛國ノ自信アラバ請フ良心ノ第一命令ニ服從セヨ良心ノ第一命令トハ即チ亡國滅種ノ中日交渉條件ニ反對スルニアリ諸君ニシテ良心アリ苟クモ中華民國々民タル自覺アラバ起テ之レニ抵抗スル之レ良心ノ第一命令ナリ一個ノ利害問題ノ私欲ノ為メ穩健好學ヲ口実トシテ帰國ヲ遷引スル勿レ古今ノ忠臣烈士慷慨義ニ赴ク一身ノ禍福ヲ顧ミス公等ノ聰明之レヲ知ラザルノ理ナシ何ゾ發憤シテ國民ノ義務ヲ尽サザル吾人ハ諸君ガ敵人ノ甘言ニ迷ハサレ百年ノ人格ヲ失墜スルヲ坐視スルニ忍ビス再三勸告

スル次第ナリ唯望ムラクハ直チニ帰國シテ國民ノ輿論ヲ喚起シ大廈ノ將ニ傾カントスルヲ支フベシ倭奴ノ僭侈ヲ許シ我ガ四百兆同胞中ニ一個ノ真男児ナキヲ笑ハルルナクンバ幸ヒナリ

二伸、諸君ニシテ尚ホ求學ヲロニシ暗中反對ヲ唱ヘ帰國セズンバ熱誠愛國ノ士ノ為メニ激烈手段ニ出テラルルモ本団ハ其責ヲ負ハス因テ茲ニ声明ス

一、帰國者数

東京駅發五名（累計七百八名）

一、乗船券購買者数

三十五名（累計八百二十三名）

一、登校狀況

日曜日ニ付別表省略

（附記一）

五月十五日登校狀況表

学 校 名	総員数	欠席者数	備 考
帝国大学	五二	四九	
第一高等学校	八五	七八	
高等工業学校	二五二	二五二	

電氣学校	三	三	
同文書院	三九	三九	
私立女子美術学校	二〇	一六	
私立農業大学	八	一〇	
上智大学	一一	一〇	
女子医科大学	一九	一	
女子大学	三	一	

（附記二）

（警視庁調）

支那留学生帰國者調（大正七年五月二十七日）
（午後三時現在）

関釜連絡船ニ依ルモノ			
五月	七日	奉天行	二
	"	吉林行	七
	八日	奉天行	二四
	"	直隸省行	四
	"	北京行	二
	"	貴州行	一
	"	湖南行	一
	九日	奉天行	一九
	十日	奉天行	九
	"	北京行	四
十一日	奉天行	五	
</			

高等師範学校	一一七	一一七
音楽学校	二	二
美術学校	九	九
水産講習所	二	二
高等蚕糸学校	五	五
明治大学	二七〇	二七〇
日本大学	五三	五三
中央大学	六〇	五七
高等商業学校	二八	二二
法政大学	一三〇	一三〇
早稻田大学	一二三	一一二
慶応大学	四九	四七
外国語学校	一	九〇〇
東亜予備学校	九〇〇	九〇〇
日華学校	一七〇	一七〇
正則英語学校	八〇	七〇
政法学校	二一	二一
岩倉鉄道学校	七	四
成城学校	六四	六四
東京薬学校	七	四
日本医学専門学校	一四	一四
日本体操学校	七	六
農科大学	三三	二五
正則予備学校	七〇	六〇
東京物理学校	九	七
国民英学会	六〇	五七

十八日	山西行	四	十五日	上海行	五
十八日	奉天行	三	十六日	上海行	八六
十九日	北京行	一	十八日	天津行	一
十九日	奉天行	五	十八日	青島行	三
二十日	直隸行	二	十九日	上海行	五六
二十日	奉天行	七	二十日	上海行	一〇
二十日	吉林行	一	二十日	天津行	一
二十日	直隸行	一	二十四日	天津行	二二
二十二日	奉天行	二	二十五日	上海行	一五
二十三日	龍口行	一	二十六日	天津行	二
二十四日	長春行	一	計	四百六十三名	
二十五日	天津行	一	橫浜出港ノモノ		
二七日	山東行	五	五月十一日	上海行	一〇九
計	吉林行	七	五月十二日	上海行	七四
計	百六十四名		計	二百三十三名	
神戸出港ノモノ			大阪出港ノモノ		
五月九日	上海行	六〇	五月十二日	青島行	二
十日	大連行	三			
十二日	上海行	一〇二			
十三日	天津行	二一			
十四日	青島行	一			
	上海行	一二			

十八日	上海行	四	長崎出港ノモノ	
二十四日	天津行	二	五月二十六日	上海行
二五日	上海行	三	合計	八百七十八名
計	十一名			

(附記三)

支那留學生帰国者表

(六月十二日調)

関釜連絡船ニ依ルモノ	百八十二名
神戸出港ノモノ	五百七十四名
横浜出港ノモノ	四百三十名
大阪出港ノモノ	十一名
長崎出港ノモノ	十名
合計	千二百〇七名
	(警視庁調)

三六五 五月二十日

加藤海軍大臣ヨリ
後藤外務大臣宛

日中海軍共同防敵軍事協定及同附属書調印済

ノ件

官房機密第七七二号

大正七年五月二十日

海軍大臣 加藤 友三郎

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支海軍軍事協約調印ノ件

日支海軍共同防敵軍事協定並ニ同附属書ハ五月十九日午

後調印ヲ了シ候

右通知ス

終

註 右協定ノ正文写後出三八四文書參看

三六六 五月二十日 齋藤在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

大中華日報等二日中陸軍軍事協定条項掲載ニ

付其措置方ニ関シ稟申ノ件

支極秘第二七二二号 (五月二十一日接受)

昨十九日大中華日報ニ今回ノ陸軍軍事協定ノ冒頭ノ文章ト
各条中若干ノ字句ヲ削リ或ハ之ヲ変更シ十二ヶ条ノ殆ド全
部ヲ登載シ、本日北京中華新報、国是報、国民公報、大中
報、コウイン日刊等ノ各新聞等之ヲ転載セリ、仍テ本職ハ
本日靳雲鵬ニ斯ル奇怪ナル記事掲載ニ就テハ之ヲ我本國政

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三六六

府ニ報告セザル可ラズ從ツテ支那側カ如何ニシテ斯ク重大
ノ事件ヲ漏洩セシヤ至急調査ノ上回答アリタキ旨ヲ告ケタ
ルニ靳及其座ニ在リシ海軍總長ハ昨日章公使ヨリ後藤外相
ハ本協約カ深ク世上ノ誤解ヲ招キシ為メ其善後策トシテ追
テ発表スルヲ可トスルノ意ヲ明言セラレタリト電報シ来レ
リ然レトモ昨今新聞ニ掲載セラレタルハ右電報ニ依リ政府
カ発表シタルニアラズ依テ篤ト調査ノ上何分ノ回答ヲナス
ヘシト云ヘリ

尚靳ハ掲載シタル諸新聞ハ總統府側ニ關係アル点ヨリ見レ
ハ總統府ヨリ出デタルモノナルヘク然ルトキハ政府ニ於テ
殆ント何等ノ処置ヲ執リ難シト附言セリ
卑見ニ依レハ本件ハ段政府反對者ノ所為ニシテ殊更日本政
府ヲ激昂セシメ以テ段政府ヲ苦シメントスルニアルカ或ハ
章公使ノ電報ニ依リ兩國政府間ニ何等打合セヲナスコトナ
ク若干原文ノ体裁ヲ変シテ發表シ世上ノ疑惑ヲ解カントセ
シモノナルカ又ハ日本ヲ激昂セシメテ結局本協約ヲ不成立
ニ導カントノ手段カ何レカノ一ヲ出デザルヘシト觀察セラ
ル右取敢ヘス報告ス
但本件ニ関シ我政府ヨリ強硬ナル抗議ヲ為スハ当然ノ処置

ト思考スルモ醜テ深ク考察スレハ現在ノ支那官民ニ対シテハ結局抗議ハ不成功ニ終リ唯世論ヲ喧噪ナラシメ何等ノ效果ヲ収メ難シト思考スルノミナラズ之カ為メ却テ該記事ノ事実ナルヲ声明スルコトトナルヘキヲ以テ寧ロ先方ニ注意ヲ与フルニ留メ此俟ニ放任スルヲ可ナリト思考ス

三六七 五月二十一日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

露国公使館ニステートメント送付差支ナキ旨
回訓ノ件

第三四一号

貴電第七〇二号末段ニ関シ
貴見ノ通り取計ハレ差支ナシ

三六八 五月二十一日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協約ニ基ク兵器ノ对中国供給ニハ兵器統一協定ヲ条件トシ度キ我陸軍当局ノ意向
ニ付通報ノ件

第三四二号 (極秘)

我陸軍当局ニ於テハ今般日支軍事協定ノ成立ヲ機トシ将来

支那ニ対スル兵器ノ供給ハ日支間ニ兵器統一協定ヲ遂クルコトヲ条件トシテ之ニ応諾ヲ与ヘタキ意向ヲ以テ右支那当局ト交渉開始方ニ付キ本月十八日參謀次長ヨリ貴地齋藤少將ヘ電訓シタル趣ナルニ付テハ委曲同少將ヨリ御聴取相成度シ尚右電訓中ニハ支那所要ノ兵器ヲ日本ヨリ供給スルト同時ニ支那ハ必要ナル兵器原料ヲ日本ニ提供スルノ約定ヲ為シ得バ一層好都合ナル旨ヲ申添アリ為念

三六九 五月二十一日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

大中華報等二日中軍事協定条項掲載ニ関シ是
等報道取締ノ為ノ措置ニ付意見具申ノ件

第七一一号

(五月二十二日接受)

五月十九日発行ノ大中華報ハ軍事協約ノ条項ヲ掲載シ右ハ翌二十日ノ他漢字新聞ニモ転載セラレタルガ其内容ハ大体原文ト合致シ居リ其政府筋ヨリ漏洩セラレタルモノナルハ殆ド疑ヲ容レザル所、探聞スル所ニ依レバ前記大中華報ハ内実総統府側ト脈絡ヲ有スルモノノ如ク而シテ軍事委員中ニハ総統府側ヨリ選出セラレタル者アルノ事実ニ鑑ミ或ハ其辺ノ径路ヨリ漏レタルモノナルヤモ計リ難ク果シテ然リ

第七一三号

(五月二十二日接受)

今回ノ日支軍事協約ニ対シテハ各地商務總會其他ノ団体ヨリモ反对ヲ表シ来ル向少カラザリシ処数日前日本ヨリ当地ニ著シタル学生等運動ノ結果北京大学ニテハ五月二十日夜同校内ニ救亡会ナルモノヲ組織シ大總統ニ向テ(一)協約ニ捺印セザルコト(二)協約全文ヲ發表スルコトヲ請願スルノ決議ヲ為シ五月二十一日午前十時ヨリ北京大学、高等師範、高等工業、法政大学等ノ学生約二千名総統府前ニ參集シ代表者數人大總統ニ謁見シ決議ノ趣旨ヲ陳述スルコトトナリ午後一時半退散シタル由ナルガ学生等ノ態度ハ終始極メテ靜肅ナリシト云フ(奉天中継 五月二十一日後十時)

三七一 五月二十一日 大島陸軍大臣ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中陸軍共同防敵軍事協定ニ関スル陸軍側交
渉委員帰朝ノ件

陸軍省送達陸密第一四五号 (五月二十二日接受)

宇垣少將以下帰朝ニ関スル件通牒

大正七年五月二十一日 陸軍大臣 大島健一(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三七〇 三七一

三七〇 五月二十一日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

帰国留学生ノ軍事協約反対運動ニ付報告ノ件

トセバ右漏洩ヲ敢テスルニ至リタル動機ニ関シ之ヲ善意ニ解スレバ内容ノ發表ニ依テ世人ノ不安ヲ除去セント欲シタルモノナルヤモ計リ難ク將又之ヲ惡意ニ解スレバ是ガ漏洩ハ必然日本側ノ抗議ヲ招キ政府ガ頗ル窮地ニ陥ル可キヲ見越シ國務院当局ニ一泡吹カセントノ魂胆ニ出デタル所謂府院反目ノ一徵象トモ察セラレザルニ非ズ尤モ其動機ノ如何ヲ問ハズ帝國政府ニ対スル支那政府トシテノ責任ハ固ヨリ默過シ難キモ本使ノ仄聞スル所ニ依レバ最近章公使ヨリ日本当局ニ於テ本件協約ノ内容ハ寧ロ發表スル方然ル可シトノ意向ヲ漏サレタルヤノ電報支那政府ニ達シタル趣ニ有之或ハ右ノ結果当局ノ手心モ多少緩和セラレタルニ非ザルカトモ察セラル兎ニ角既ニ一旦公ニセラレタル以上此際該報道ノ取消ヲナサシムルモ其実効収メ難キハ申迄モ之無キニ就テハ此際当局ニ対シ其不取締ヲ詰問スルト同時ニ將來此種ノ不取締ナキ様嚴重警告スル事ニ止ムルノ外無カル可クト存ズ(奉天總領事館經由 五月二十一日後二、〇〇)

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三七二 三七三 三七四

日支陸軍共同防敵軍事協定ハ過般通報致置候通調印ヲ終リ候処本協定附屬書ニ関スル協定ハ後日ニ譲リ兼テ内地ヨリ差遣致候委員ハ帰朝ヲ命シ候条及通報候也

三七二 五月二十一日 加藤海軍大臣ヨリ
後藤外務大臣宛 (電報)

日中海軍共同防敵軍事協定ニ関スル海軍側交

渉委員帰朝ノ件

官房機密第七八二号

(五月二十二日接受)

大正七年五月二十一日

海軍大臣 加藤 友三郎 (印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

吉田海軍少將以下帰朝ニ関スル件

日支海軍共同防敵軍事協定竝ニ同附屬書調印済ニ付之カ為メ北京へ出張セシメ候海軍少將吉田増次郎海軍大佐樺山可也ニ対シ便宜帰朝方電訓致置候
右通牒ス

三七三 五月二十三日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛 (電報)

軍事協約ニ関シ聯合國ニ対シ為サレタル通告

第七二四号

五月二十二日日本使陸外交総長ヲ訪問シタル際同総長ハ今回調印ノ軍事協約ニ関シ過般來聯合側公使ヨリ本件通告方希望シ來リタルモ未タ日本政府ト何等打合無キ為メ之ニ応ズル能ハズト断リ置キタルガ日本政府ニ於テハ本件ニ関シ聯合側政府ニ対シ何等通告セラルル所無カリシヤト問ヒタルニ付本使ハ之ニ対シ日本政府ハ英仏等ノ与国政府へ本協約ノ精神ダケヲ簡單ニ通告シタルコトアルヤニ記憶スルニ付聯合側公使ヨリ再応申出アリタル場合ハ日本政府ト同様ノ措置ニ出デラレ差支ナカル可シト思料スル旨答へ置ケリ念ノ為 (奉天經由 五月二十三日午前九、四五)

三七六 五月二十三日 大島陸軍大臣ヨリ
後藤外務大臣宛

日中陸軍共同防敵軍事協定正文写送付ノ件

附屬書 五月十六日附調印ノ日支陸軍共同防敵軍事務定正文写

陸軍省 送達 陸機密第六五号

日支陸軍共同防敵軍事協定送付ノ件

大正七年五月二十三日 陸軍大臣 大島健一 (印)

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三七六

三七五

ノ内容電示方稟請ノ件

第七二〇号

軍事協約成立ニ関シ帝國政府ヨリ聯合側各国政府ニ対シ説明ノ為メ通告ヲ遂ゲラレタル所右ハ当地ニ於テ各国公使ト本件ニ関シ談話ノ際ニ於ケル参考上頗ル必要ニ付通告ノ内容至急御電報ヲ請フ (奉天総領事館經由 五月二十三日午前八、五〇)

三七四 五月二十三日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛 (電報)

軍事協定ノ確認形式ニ付陸外交総長問合ノ件

第七二三号

外交総長ニ面会ノ節軍事協定ハ日支兩國政府ノ確認ヲ要スルコトナリ居ル所右形式ハ如何スヘキヤト尋ネタルニ付本使ハ右ハ其実既ニ兩國政府ノ承認ノ上ニテ調印セラレタル次第ニ付或ハ更ニ正式ニ確認ノ方法ヲ取ルニモ及バザルベシト思考セラルル旨申述置タル所何分ノ義電訓ヲ請フ (奉天經由 五月二十三日午前八、二〇)

三七五 五月二十三日 在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛 (電報)

聯合側公使ヨリ陸外交総長ニ対シ日中軍事協約通告方希望申出ノ件

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支陸軍共同防敵軍事協定正本写日本文及漢文各巻通及送付候也

(附屬書)

日支陸軍共同防敵軍事協定

日支兩國政府協商ノ結果ニ基キ兩國政府交換ノ文書 (附録第一、第二、第三、第四号参照) ニ拠リ兩國軍事当局互ニ委員ヲ派遣シ左ノコトヲ協定ス

第一条 日支兩國陸軍ハ敵国勢力ノ日ニ露国境内ニ蔓延シ其結果將ニ極東全局ノ平和及安寧ヲ侵迫スルノ危険アラントスルニ因リ此情勢ニ適応シ且兩國力此ノ戦争参加ノ義務ヲ実行センカ為共同防敵ノ行動ヲ執ル

第二条 協同軍事行動ニ関シ兩國ノ地位ト利害トハ平等ノ見地ニ於テ相互ニ尊重スルモノトス

第三条 日支兩國当局ハ本協定ニ基キ行動ヲ開始スルニ方リ各自本国軍隊及官民ノ軍事行動区域内ニ在ルモノニ対シ相互誠意親善同心協力シテ共同防敵ノ目的ノ達成ヲ期スヘキコトヲ命令又ハ訓告ス

凡ソ軍事行動区域内ニ於ケル支那地方官吏ハ該区域内ニ

三六七

三六六

在ル日本軍隊ニ対シ尽力協助シ軍事上ニ故障ヲ生セサラシメ又日本軍隊ハ支那ノ主權及地方ノ習慣ヲ尊重シ人民ヲシテ不便ヲ感セサラシム

第四条 共同防敵ノ為ニ日本軍隊ノ支那国境内ニ在ルモノハ凡テ戰事終了後ヲ俟チ支那国境内ヨリ一律撤退ス

第五条 支那国境外ニ軍隊ヲ派遣スルトキハ若シ必要アラハ兩國ハ協同シテ之ヲ派遣ス

第六条 作戰区域及作戰上ノ任務ハ共同防敵ノ目的ニ適應スル如ク兩國軍事当局ニ於テ各自本国ノ兵力ヲ量リ別ニ之ヲ協定ス

第七条 日支兩國軍事当局ハ協同作戰期間ニ於ケル協同動作ノ便利ヲ図ル為左記事項ヲ行フモノトス

一、直接作戰上ニ関シ各軍事機關ハ彼此相互職員ヲ派遣シ往来連絡ノ任ニ充ツ

二、軍事行動及運輸補充ノ敏捷且確實ヲ図ル為陸海運輸通信諸業務ハ彼此共ニ便利ヲ謀ル

三、作戰上必要ノ建設例ヘハ軍用鉄道電信電話等ノ如キコトニ関シ如何ニ設備スヘキヤハ兩國總司令官ニ於テ臨時之ヲ協定シ戰事終了ヲ俟チ凡テ臨時建設工事ハ之

第九条 本協定実行ニ要スル詳細事項ハ日支兩國軍事当局ノ指定スル各当事者ニ於テ之ヲ協定ス

第十条 本協定及本協定附屬ノ詳細事項ハ日支兩國ニ於テ均シク之ヲ公布スルコトナク軍事ノ秘密トシテ取扱フ

第十一条 本協定ハ日支兩國陸軍代表者記名調印シ各自本国政府ノ承認ヲ經タル上效力ヲ生ス其作戰行動ハ適當ノ時機ヲ俟チ兩國最高統帥部商定シテ之ヲ開始ス

本協定及本協定ニ基キ發生スル所ノ各種細則ハ日支兩國独塊敵國ニ對スル戰爭狀態終了ノ時ヲ俟チ即チ其效力ヲ失フ

第十二条 本協定ハ日本文及漢文各々二通ヲ作り対照シテ記名調印シ双方各一通ヲ保有シ証拠ト為ス

大正 七年五月十六日

於北京

中華民國七年五月十六日

日本帝國陸軍軍事協約委員

委員長	陸軍少將	齋藤季治郎
委員	陸軍少將	宇垣 一成
委員	陸軍歩兵中佐	本庄 繁
委員	陸軍砲兵少佐	川崎吉五郎
委員	陸軍歩兵大尉	山田 健三

ヲ撤廃ス

四、共同防敵ニ関シ要スル所ノ兵器及軍需品竝其原料ハ兩國相互ニ供給ス其數量ハ各自本国ノ需用ヲ害セサル範圍ヲ以テ限リトス

五、作戰区域内ニ於ケル軍事衛生事項ニ関シテハ相互ニ輔助シテ遺憾ナカラシム

六、直接作戰上ニ関スル軍事技術人員ノ輔助ノ必要アルトキハ一方ノ請求ニ依リ他方ハ之ヲ輔助シ以テ任使ニ供ス

七、軍事行動区域内ニ諜報機關ヲ設置シ竝軍事所要ノ地図及情報ヲ相互交換ス

諜報機關ノ通信連絡ニ関シテハ彼此輔助シテ其便利ヲ図ル

八、共用ノ軍事暗号ヲ協定ス

本条列スル所ノ各項ニシテ予メ計畫ヲ要スルモノ及予メ施行スヘキモノハ作戰未実行前ニ別ニ之ヲ協定ス

第八条 軍事輸送ノ為東清鐵道ヲ使用スルトキハ該鐵道ノ指揮保護管理等ハ本来ノ條約ヲ尊重シ其輸送方法ハ臨時之ヲ協定ス

中華民國陸軍軍事協商委員

委員長	果威將軍	靳 雲 鵬
委員	陸軍中將	童 煥 文
委員	陸軍中將	曲 同 豐
委員	陸軍少將	田 書 年
委員	陸軍少將	劉 嗣 榮
委員	陸軍少將	江 壽 祺
委員	陸軍少將	丁 錦
委員	督弁參戰処參議	劉 崇 傑
委員	陸軍少將	張 濟 元
委員	陸軍歩兵上校	陳 鴻 達
委員	陸軍歩兵上校	秦 華

註 附錄第一、第二、第三及第四ノ各号ハ夫々前掲三〇六文書ノ附記一、別電二、別電三及附記四ト同文ナルニ付省略ス

(右漢文)

中日陸軍共同防敵軍事協定

基於中日兩國政府協商之結果依拠兩國政府交換之文件(參照附錄第一第二第三第四号)經兩國軍事当局互派委員協定事項如左

第一条 中日兩國陸軍因敵國實力之日見蔓延於俄國境內其結果將使遠東全局之和平及安寧受侵迫之危險為適應此項情勢及實行兩國參加此次戰爭之義務起見取共同防敵之行動

第二条 關於協同軍事行動彼此兩國所處之地位与利害互相尊重其平等

第三条 中日兩國當局基於本協定開始行動之時對於各自本國軍隊及官民在軍事行動區域之內當命令或訓告使彼此推誠親善同心協力以期達成共同防敵之目的

凡在軍事行動區域之內中國地方官吏對於該區域內之日本軍隊須尽力協助使不生軍事上之窒碍日本軍隊須尊重中國主權及地方習慣使人民不感受不便

第四条 為共同防敵在中國境內之日本軍隊俟戰事終了時即由中國境內一律撤退

第五条 中國境外派遣軍隊時若有必要兩國協同派遣之

第六条 作戰區域及作戰上之任務適應於共同防敵之目的由兩國軍事當局各自本國之兵力另協定之

第七条 中日兩國軍事當局在協同作戰期間為圖協同動作之便利起見應行左記事項

護管理等應尊重原來之條約其輸送方法臨時協定之

第九条 本協定實行上所要詳細事項由中日兩國軍事當局指定各當事者協定之

第十条 本協定及附屬本協定之詳細事項中日兩國均不公布按照軍事之秘密事項弁理

第十一条 本協定由中日兩國陸軍代表者簽名蓋印經各自本國政府之承認時發生效力其作戰行動候適當之時機經兩國最高統率部商定開始之

本協定及基於本協定所發生之各種細則俟中日兩國對於德奧敵國戰爭狀態終了時即失其效力

第十二条 本協定以漢文及日本文各繕二分彼此對照簽名蓋印各保有一分為証

中華民國七年五月十六日 於北京
大正 七年五月拾六日

中華民國陸軍軍事協商委員

委員長	果威將軍	靳雲鵬
委員	陸軍中將	童煥文
委員	陸軍中將	曲同豐
委員	陸軍少將	田書年

一關於直接作戰上軍事機關彼此互相派遣職員充當往來連絡之任

二為圖謀軍事運動及輸運補充敏活確實起見陸海運輸通信諸事宜須彼此共謀利便

三關於作戰上必要之建設例如行軍鐵路電信電話等項應如何設備由兩國總司令官臨時協定之俟戰事終了凡臨時之建設工程均撤廢之

四關於共同防敵所需之兵器及軍需品並其原料兩國應互相供給其數量以不害各自本國所需要之範圍為限

五在作戰區域之內關於軍事衛生事項應互相輔助使無遺憾六關於直接作戰上之軍事技術人員如有互相輔助之必要時經一方之請求應由他方輔助之以供任使

七軍事行動區域之內設置謀報機關並互相交換軍事所要之地圖及情報關於謀報機關之通信連絡彼此互相輔助圖其便利

八協定共用之軍事暗号

本條所列各項其須預先計畫及應預先施行者在作戰未實行之前另協定之

第八条 為軍事輸送使用東清鐵路之時關於該鐵路之指揮保

日本帝國陸軍軍事協約委員

委員長	陸軍少將	齋藤季治郎
委員	陸軍少將	宇垣一成
委員	陸軍步兵中佐	本庄繁
委員	陸軍砲兵少佐	川崎吉五郎
委員	陸軍步兵大尉	山田健三

註 附錄第一、第二、第三及第四ノ各号ハ夫々前掲三〇六文書ノ附記一、附記二、附記三及附記四ト同文ナルニ付省略ス

三三七 五月二十五日 在中國林公使ヨリ 後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協定ニ関シ英文声明書ヲ露國公使ニ手交済並東支鐵道ニ関シ露國側懸念ノ件

第七三三三号

五月二十三日露国公使来訪ノ節貴電第三四一号ヲ以テ御承認ヲ得タル英文「ステートメント」ヲ手交シタル処同公使ハ過日一等書記官ヲ以テ軍事協定ノ内容ニ付質問セシメタル真ノ理由ハ右協定ニ基キ日支軍隊共同動作ヲ為スニ当リ東支鉄道ヲ兩國ノ自由使用ニ供セラルルカ如キコトナキヤヲ懸念シタルカ為ニ外ナラスト述ヘタルニ付右ハ該共同動作ヲ為スニ当リ東支鉄道ヲ使用スルカ如キ場合ニハ同鉄道側ト必要ノ協議ヲ遂クベキ筋合ト思考スルニ付右様懸念ノ要ナカルヘキ旨答ヘ置キタリ

三七八

五月二十七日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

陸海軍各軍事協定ノ確認手續ニ付訓令ノ件

第三六三三号

貴電第七二三号ニ関シ

陸海軍各軍事協定ハ五月二十五日上奏ヲ經タリ將又右軍事協定確認ノ件ハ御来示ノ次第アルモ矢張り此際承認ノ手續ヲ為シ置クコト然ルヘシト思考セラルルニ付右手續トシテハ貴官ニ於テ予メ支那当局ト御打合ノ上成ルヘク最近ノ期

日ニ於テ一面貴官ヨリ外交総長ニ對シ帝國政府ニ於テハ陸軍軍事協定第十一条及海軍軍事協定第八條ニ基キ兩軍事協定ヲ承認シタルニ付右支那政府ニ通告スヘキ旨帝國政府ノ訓令ニ接シタル趣公文ヲ以テ申入レラレ他ノ一面同日附ヲ以テ支那政府ヨリモ同様ノ趣旨ノ公文ヲ貴官宛送付セシムルコトト致度ニ付右様御取計アリ度シ

三七九

五月二十八日 寺内内閣總理大臣ヨリ
後藤外務大臣宛

日中軍事協定承認済ノ件

附記 五月二十一日閣議決定

日中軍事協定締結ニ関シ樞密院ニ賜ハルベキ勅

語案

大正七年五月二十八日

内閣總理大臣伯爵 寺内 正毅(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

通牒

日支軍事協定ノ件上裁ヲ經テ本月二十五日承認相成候
(附記)

五月二十一日閣議決定

樞密院ヘ賜ハルヘキ勅語案

朕時局ノ緩急ニ応ジ日支協同シテ防敵ノ措置ヲ執ルノ必要

ヲ生スヘキヲ念ヒ之カ為予メ兩國間ニ其ノ措置ノ協調ヲ図ルノ緊切ナルヲ認メ曩ニ政府ニ命シテ支那政府ト交渉ヲ開始セシメタリ爾來諸般ノ關係ニ顧ミ政府ヲシテ商議ノ迅速妥結ニ努メシメ茲ニ協定漸ク成ル其ノ詳細ニ至リテハ國務大臣ヲシテ之ヲ説明セシム

註 右勅語ハ五月二十八日開催ノ樞密院會議ニ於テ賜ハリタモ
ノト認メラル

三八〇

五月二十八日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

三月二十五日ノ日中軍事協定ニ関スル交換公文

文四通五月三十日午後發表ニ付中國政府ト打

合セ方訓令ノ件

第三六七号 (至急)

今回ノ軍事協定ハ御承知ノ通世上種々ノ誤解疑惑ヲ招キタルニ顧ミ帝國政府ニ於テハ往電第二〇一号三月二十五日ノ交換公文四通(即チ右交換公文附屬文書タル交換公文期限協定ノ件及軍隊撤退ニ関スル交換文書共)ヲ五月三十日午後發表スルコトニ内定シタルカ支那政府ニ於テ右ニ對シ異存ナキコトト思考スルモ為念打合セ置カレ度又支那政府ニ

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三八〇 三八一

於テモ發表ノ範圍ハ我方ト同一ノ程度ニ止メ且ツ五月三十日午後以前ニ之ヲ發表スルコトナキ様致度ニ付之亦可然御措置アリ度シ

註 三月二十五日ノ交換公文四通トハ前掲三七六文書附屬書「日支陸軍共同防敵軍事協定」(日本文)ノ前文ニ所謂附錄第一、第二、第三、第四号ト夫々同文ナリ尚右協定日本文末尾ノ註參照

三八一

五月二十九日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協定ニ関スル交換公文ノ公表説明書

ニ付通報ノ件

第三七二号 至急

往電第三六七号ニ関シ帝國政府ニ於テハ五月三十日午後交換公文發表ノ際左ノ通り Statement ヲ發表スル筈ナリ御含迄

日支兩國政府ノ敵國勢力カ極東全局ノ平和及安寧ヲ危殆ナラシムルノ情勢ヲ生スルニ至ラントスルニ鑒ミ日支兩國協同シテ之ニ対応スルノ方途ヲ講スルコト極メテ緊要ナルヲ認メ兩國間ニ隔意ナク所見ノ交換ヲ行ヒタル末本年三月二十五日ヲ以テ帝國外務大臣ト在本邦支那公使ト

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三八二 三八三

ノ間ニ別紙^(註)ノ通り公文ノ交換ヲ了スルニ至レリ

仍テ帝國政府ハ右交換公文ノ趣旨ニ基キ帝國陸海軍ヨリ委員ヲ北京ニ派シ支那陸海軍当局ト会商セシメタルガ交渉円満ニ進捗シ陸軍側協定ハ五月十六日海軍側協定ハ五月十九日夫々調印ヲ了シタリ

斯ク今次ノ協定ハ前記三月二十五日ノ交換公文ニ基キ共同防敵ニ付兩國陸海軍ノ協力スヘキ方法及条件ヲ具体的ニ取極メタルモノニ外ナラズ從テ事軍機ニ属スルカ故ニ其ノ内容ハ之ヲ公表スルコトヲ得ザルモ前來所述ノ目的以外ニ渉ル何等ノ条項ヲ含ムモノニアラズ又斯ル目的以外ノ条項ヲ含ムヘキ性質ノモノニモアラザルナリサレバ例ヘバ世上伝フルカ如ク本協定中ニハ出征支那軍隊ヲ日本軍隊ノ指揮ノ下ニ置クコト、日本ハ支那領土内ニ於テ其ノ欲スル地点ニ要塞ヲ建設スルヲ得ルコト、日本ハ支那鐵道、造船所、兵器廠ヲ管理スルコト等ノ規定アリト云ヒ甚タシキニ至リテハ日本ハ支那ノ財政ヲ管理スルコト、日本ハ支那警察機關ヲ組織スルコト、日本ハ兵器所用ノ原料ノ產出スル支那鉱山ヲ自由ニ採掘スルヲ得ルコトヲ規定セリト云フカ如キ類ハ何レモ虚構捏造ニ係ル無

本邦支那留學生ハ其後毎船尚引続キ引揚来ルモノ多ク依然仏租界ニ事務所ヲ設ケ檣文様ノモノヲ配布シ何等力運動シツツアル模様ナルモ居留地警察ノ手ニテ取調ベタル所ニテハ右檣文ト雖モ鉄筆板ヲ使用セル極メテ粗末ナル撒紙風ノモノニテ格別注意ニ価スヘキモノトハ認メラレズ尚彼等ハ仏国租界ニテ公開演說等ヲ催ス計画モアリタル所同租界官憲ノ許可スル所トナラズ当館ハ尚支那官憲側ニモ交渉租界外ニ於テモ此種運動ノ取締方手配シ置タルニ付未タ公然集会等ノ事ナシ將又彼等ハ日貨排斥計画ノ商人側ニ容レラレザル結果國貨奨励ヲ唱ヘテ暗ニ目的ヲ貫徹セントノ運動モ之レアルヤニ伝ヘラルルモ結局左シタル効果ヲモ拳ケ得ザルモノト察セラル

在支公使ヘ電報セリ

三八四 五月二十九日 加藤海軍大臣ヨリ
後藤外務大臣宛

日中海軍共同防敵軍事協定並同説明書正文写

送附ノ件

附屬書一 日支海軍共同防敵軍事協定正文写

二 右説明書正文写

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三八四

三七四

根ノ報道ニシテ本協定ニハ全然此種ノ条項ナシ
註 右別紙ハ前掲三八〇文書ニ謂フ交換公文四通ヲ指ス

三八二 五月二十九日 在中國林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中軍事協定交換公文發表ニ付打合済ノ件

第七五三号至急

貴電第三六七号ニ関シ

五月二十九日船津ヲシテ曹外交總長ニ会见シ交換公文四通ハ五月三十日午後發表シ更ニ五月三十一日發行ノ政府公報ニテ正式發表スルコトニ打合ヲ了セシメタリ

註 本件交換公文ハ五月三十一日附官報ノ官庁彙報欄ニ於テ左ノ通公表セラレタリ

「日支兩國間公文交換 本年三月二十五日帝國外務大臣ト在京支那共和國特命全權公使トノ間ニ左ノ通公文ノ交換アリタリ

(以下交換公文正文四通、省略)」

三八三 五月二十九日 在上海有吉總領事ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

上海ニ於ケル留學生ノ動向ニ付報告ノ件

第八〇号

官房機密第八一六号 (五月二十九日接受)

大正七年五月二十九日

海軍大臣 加藤友三郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支海軍共同防敵軍事協定並同説明書送附ノ件

日支海軍共同防敵軍事協定並同説明書正本写 日本文及漢文各壹通及送附候

右申牒ス

(附屬書一)

日支海軍共同防敵軍事協定

日支兩國政府協商ノ結果 日本大正七年三月二十五日 東京ニ於テ兩國政府間ニ交換セル文書ニ拠リ兩國海軍当局互ニ委員ヲ派シ左ノ事項ヲ協定ス

第一条 日支兩國海軍ハ敵國勢力東漸シ其ノ結果極東全局ノ和平及安寧將ニ侵迫ヲ受クルノ危險アラムトスルニ因リ此ノ情勢ニ適応シ且兩國此次ノ歐洲戰爭参加ノ義務ヲ實行セムカ為共同防敵ノ行動ヲ執ル

第二条 協同軍事行動ニ関シ兩國ノ地位ト利害トハ平等ノ見地ニ於テ相互ニ尊重スルモノトス

三七五

第三条 日支両国当局ハ本協定ニ基キ行動ヲ開始スルニ方リ各自本国艦船及官民ノ軍事行動区域内ニ在ルモノニ対シテ命令又ハ訓告ヲ発シ彼此誠意親善同心協力以テ共同防敵ノ目的ヲ達セシム

第四条 作戰区域及作戰上ノ任務ハ共同防敵ノ目的ニ適応スル如ク両国海軍当局ニ於テ各自本国ノ兵力ヲ量リ別ニ之ヲ協定ス

第五条 日支両国海軍当局ハ協同作戰期間ニ於テ協同動作ノ便利ヲ図ル為左ノ事項ヲ行フ
一直接作戰上ニ関シ各軍事機關ハ彼此互ニ職員ヲ派遣シ往来聯絡ノ任ニ充ツ

二軍事行動及運輸補充ノ敏活確實ヲ期スル為海陸運輸通信諸業務ハ彼此共ニ便利ヲ謀ル

三艦艇兵器及軍事機具等ノ造修並之ニ要スル材料ニ関シテハ為シ得ル限り相互ニ補助ス軍需品亦同シ

四直接作戰上ニ関スル軍事技術人員ハ日支両国海軍相互補助ノ必要アルトキハ一方ノ請求ニ依リ他方ハ之ニ応シ派遣服務セシム

五日支両国海軍ハ各自必要ナル地点ニ諜報機關ヲ設置シ

委員長	海軍少將	吉田増次郎
委員	海軍大佐	伊集院 俊
委員	海軍大佐	樺山 可也
委員長	海軍中將	沈 寿 堃
委員	海軍少將	吳 振 南
委員	海軍少將	陳 恩 燾
委員	海軍中校	吳 光 宗

(右漢文)

中日海軍共同防敵軍事協定

基於中日両国政府協商之結果依拠 中華民國七年三月二十五日 日本大正七年三月二十五日 両国政府於東京交換之文件經両国海軍当局互派委員協定事項如左

第一条 中日両国海軍因敵国勢力之東漸其結果將使遠東全局之和平及安寧受侵迫之危險為適応此項情勢及実行両国参加此次歐戰之義務起見取共同防敵之行動

第二条 關於協同軍事行動彼此両国所処之地位与利害互相尊重其平等

第三条 中日両国当局屆基於本協定開始行動之時對於各自本国艦船及官民在軍事行動区域内当命令或訓告使彼此推

又行動上必要ナル水路図誌及情報ヲ交換ス

通信連絡ノ敏活確實ヲ期シ相互ニ補助シテ其ノ便利ヲ図ル為必要ナル設備ハ両国当事者臨時之ヲ協定ス

六共用ノ軍事暗号ヲ協同商定ス

本条列スル所ノ各項ニシテ予メ計畫ヲ要スルモノ及予メ施行スヘキモノハ作戰未実行前別ニ之ヲ協定ス

第六条 本協定実行上必要ナル詳細事項ハ日支両国海軍当局各当事者ヲ指定シ之ヲ協定ス

第七条 本協定及本協定附屬ノ詳細事項ハ日支両国ニ於テ均シク之ヲ公布スルコトナク軍事ノ秘密トシテ取扱フ

第八条 本協定ハ日支両国海軍代表者記名調印シ各自本国政府ノ承認ヲ經テ効力ヲ生ス其ノ作戰行動ハ適當ノ時機ヲ俟テ両国海軍最高統帥部商定シテ之ヲ開始ス

本協定及本協定ニ基キ發生スル所ノ各種細則ハ日支両国ノ独塊敵国ニ対スル戰爭狀態終了ノ時ヲ俟テ其ノ効力ヲ失フ

第九条 本協定ハ日本文及漢文各二通ヲ作り彼此対照シテ記名調印シ双方各一通ヲ保有シテ証拠ト為ス

日本大正七年五月十九日 於北京

中華民國七年五月十九日

誠親善同心協力以達共同防敵之目的

第四条 作戰区域及作戰上之任務如適応共同防敵之目的由両国海軍当局量各自本国之兵力另協定之

第五条 中日両国海軍当局在協同作戰期間為図協同動作之便利起見応行左記事項

一關於直接作戰上軍事機關彼此互相派遣職員充當往来聯絡之任

二為期軍事行動及運輸補充之敏活確實起見陸海運輸通信諸事宜須彼此共謀利便

三關於修造艦艇兵器及軍事機具等並其所需材料応量力互相補助其軍需品亦同

四關於直接作戰上之軍事技術人員中日両国海軍如有互相補助之必要時經一方之請求応由他方補助之以資運用

五中日両国海軍於必要之地点各自設置諜報機關又互相交換行動上所要水路図誌及情報並為期通信聯絡之敏活確實互相補助以図其便利起見両国当事者応臨時協定其所要之設備

六協同商定共同之軍事暗号

本条列各項其須預先計畫及応預先施行者在作戰未実行之前

另協定之

第六條 本協定実行上所要詳細事項由中日兩國海軍当局指定各當事者協定之

第七條 本協定及附屬本協定之詳細事項中日兩國均不公布
按照軍事之秘密事項弁理

第八條 本協定由中日兩國海軍代表者簽名蓋印經各自本國政府承認時發生效力其作戰行動俟適當之時機經兩國海軍最高統率部商定開始之

本協定及基於本協定所發生各種細則俟中日兩國對於德奧敵國戰爭狀態終了時失其效力

第九條 本協定以日本文及漢文各繕二分彼此對照簽名蓋印各執一分為証拠

中華民國七年五月十九日
日本大正七年五月十九日
在北京簽印

委員長	海軍中將	沈 壽 堃
委 員	海軍少將	吳 振 南
委 員	海軍少將	陳 恩 燾
委 員	海軍中校	吳 光 宗
委員長	海軍少將	吉田増次郎

委員長	海軍大佐	伊集院 俊
委 員	海軍大佐	樺山 可也
委員長	海軍中將	沈 壽 堃
委 員	海軍少將	吳 振 南
委 員	海軍少將	陳 恩 燾
委 員	海軍中校	吳 光 宗

(右漢文)

中日海軍共同防敵軍事協定説明書

一 中日兩國海軍為圖共同作戰之円満以副軍事協定第一條之宗旨起見和衷協同互相補助以期用兵計画周妥無遺

二 軍事協定之第五條各項内應行説明如左

第一項所定職員目下以公使館海軍武官及駐在各処海軍武官充之其他應於必要時隨時協定派遣之

第三項所需材料如金屬料件之類軍需品如燃料糧食之類以及子彈火藥為軍事上所必需者兩國均應量力輔助之

第五項交換水路図誌一事俟一方之請求時行之
軍事行動區域之内遇有應行補測之海灣經双方認為必要時應由該地方所屬之本國海軍当局自行補測之

中華民國七年五月十九日
日本大正七年五月十九日
在北京簽印

委員長	海軍大佐	伊集院 俊
委 員	海軍大佐	樺山 可也

(附屬書二)

日支海軍共同防敵軍事協定説明書

一 日支兩國海軍ハ共同作戰ノ円満ヲ図リ以テ軍事協定第一條ノ趣旨ニ副ハムカ為和衷協同相互補助シテ用兵計画ニ遺憾ナキヲ期ス

二 軍事協定第五條各項ノ説明左ノ如シ

第一項ノ職員ハ差当リ公使館附海軍武官及各処駐在海軍武官ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ハ必要ニ応シ臨時協定派遣ス
第三項ノ材料即チ金屬物件類ノ如キ又軍需品即チ燃料糧食類及軍事上必要ナル彈丸火藥等ノ如キハ兩國均シク為シ得ル限り相互ニ補助ス

第五項ノ水路図誌交換ハ他方ノ請求ヲ俟テ之ヲ行フ
軍事行動區域内ニ於ケル港灣ニシテ双方其ノ補測ノ必要ヲ認メタルトキハ該港灣所屬ノ本國海軍自ラ之ヲ行フ

日本大正七年五月十九日
中華民國七年五月十九日
於北京

委員長	海軍少將	吉田増次郎
-----	------	-------

委員長	海軍中將	沈 壽 堃
委 員	海軍少將	吳 振 南
委 員	海軍少將	陳 恩 燾
委 員	海軍中校	吳 光 宗
委員長	海軍少將	吉田増次郎
委 員	海軍大佐	伊集院 俊
委 員	海軍大佐	樺山 可也

三三五 五月三十日 後藤外務大臣ヨリ
在中国林公使宛(電報)

日中軍事協定成立ニ付寺内首相ノ名ニ於テ段國務總理ニ祝意表明方並段總理及中国各委員ノ友好的態度ニ対シ表謝方訓令ノ件

第三八一號

貴官ハ段國務總理ニ対シ寺内總理大臣ノ名ニ於テ今回成立ヲ見タル軍事協定ニ依リ親善ナル日支兩國ノ關係カ益々緊密ノ程度ヲ加フルニ至リタルハ深ク同慶ノ至リニ堪エザル所ナル旨ヲ述ヘ尚同官並ニ直接会商ノ任ニ当ラレタル支那側委員各位力克ク本協定ノ東洋平和確立ニ資スル所大ナル

所以ヲ了解セラレ常ニ腹藏ナク其所見ヲ開陳スルト同時ニ絶エス友好的態度ヲ以テ我方委員ノ所説ヲ聴取考量セラレタルニ対シ深甚ナル謝意ヲ表スル旨申添ヘラレタシ

三八六 五月三十日 後藤外務大臣ヨリ
在米國石井大使宛

日中軍事協定ニ関スル交換公文写及同英訳文
送付ノ件

附屬書 右交換公文英訳文
附 記 交換公文公表説明書英訳文

政合送第一四五号

本年三月二十五日帝国外務大臣ト在本邦支那公使トノ間ニ交換シタル公文及参考ノ為メ本省ニテ作成セル英訳別紙写及御送附候也

註 右同文公信ハ同日在英、仏、伊各大使及在支公使宛發送セラレタリ尚交換公文ノ原文写ハ前掲ニ付省略セリ

(附屬書)

日中軍事協定ニ関スル交換公文英文(一)(二)(三)(四)

(一)

在本邦中國公使來翰

at by the two Governments in common accord under the preceding clause shall be arranged by the competent authorities of the two Powers, who will from time to time consult each other fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters thus arranged by the competent authorities shall be confirmed by the two Governments and shall be put into operation at such time as may be deemed opportune.

In requesting that Your Excellency may be so good as to favour me with a reply to the foregoing proposals I avail myself of this opportunity to renew to you, Monsieur le Ministre, the assurances of my highest consideration.

Chang Tsung-Hsiang
Envoy Extraordinary and Minister
Plenipotentiary for the Republic of China

(1)

本野外務大臣往翰

(Note from Viscount Motono to Mr. Chang)

Tokio, March 25, 1918

Monsieur le Ministre:

(Note from Mr. Chang to Viscount Motono)
Tokio, March 25, 1918

Monsieur le Ministre:

I have the honour to communicate to Your Excellency that the Government of China believing that in the present situation, co-operation with the Government of Japan on the lines hereinafter indicated is highly important in the interest of both countries, have authorized me to approach your Government with a view to arranging for such co-operation.

1. Having regard to the steady penetration of hostile influence into Russian territory, threatening the general peace and security of the Far East, the Government of China and the Government of Japan shall promptly consider in common the measures to be taken in order to meet the exigencies of the situation, and to do their share in the Allied cause for the prosecution of the present war.

2. The methods and conditions of such co-operation between the Chinese and Japanese armed forces in the joint defensive movements against the enemy for giving effect to the decision which may be arrived

I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's note under to-day's date, in which you were so good as to communicate to me that the Government of China, believing that in the present situation, co-operation with the Government of Japan on the lines hereinafter indicated is highly important in the interest of both countries, have authorized you to approach this Government with a view to arranging for such co-operation.

1. Having regard to the steady penetration of hostile influence into Russian territory, threatening the general peace and security of the Far East, the Government of Japan and the Government of China shall promptly consider in common the measures to be taken in order to meet the exigencies of the situation, and to do their share in the Allied cause for the prosecution of the present war.

2. The methods and conditions of such co-operation between the Japanese and Chinese armed forces in the joint defensive movements against the enemy, for giving effect to the decision which may be arrived at by the two Governments in common accord under

the preceding clause, shall be arranged by the competent authorities of the two Powers, who will from time to time consult each other fully and freely upon all questions of mutual interest. It is understood that the matters thus arranged by the competent authorities shall be confirmed by the two Governments, and shall be put into operation at such time as may be deemed opportune.

The Imperial Government, fully sharing the views embodied in the foregoing proposals, will be happy to cooperate with the Chinese Government on the lines above indicated.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

I. Motono
Minister for Foreign Affairs

(iii)

有効期限 國々々々 野外務大臣 註

(Note from Viscount Motono to Mr. Chang)

Tokio, March 25, 1918

Monsieur le Ministre:

Tokio, March 25, 1918

Monsieur le Ministre:

With reference to the notes exchanged on March 25 between the Governments of Japan and of China on the subject of their joint defensive movements against the enemy, I have the honour to acknowledge the receipt of Your Excellency's communication under to-day's date, proposing on behalf of your Government that the period within which the said notes are to remain in force shall be determined by the competent military and naval authorities of the two Powers. I am happy to state in reply that the foregoing proposal is accepted by my Government. I am further gratified to take note of the declaration embodied in your communication under acknowledgment, that the Japanese troops stationed within the Chinese territory for the purpose of the defensive movements against the enemy shall be completely withdrawn from such territory upon the termination of the war.

In communicating the above to Your Excellency under instructions from my Government, I avail

With reference to the notes exchanged on March 25 instant between the Governments of China and of Japan on the subject of their joint defensive movements against the enemy, I have the honour to propose on behalf of my Government that the period within which the said notes are to remain in force shall be determined by the competent military and naval authorities of the two Powers. At the same time, the Imperial Government are happy to declare that the Japanese troops stationed within the Chinese territory for the purpose of such defensive movements against the enemy shall be completely withdrawn from such territory upon the termination of the war.

I avail myself of this opportunity to renew to Your Excellency the assurances of my highest consideration.

I. Motono
Minister for Foreign Affairs

(iv)

有効期限 國々々々 駐中 國公使 奉

(Note from Mr.Chang to Viscount Motono)

myself of this opportunity to renew to you, Monsieur le Ministre, the assurances of my highest consideration.

Chang Tsung-Psiang
Envoy Extraordinary and Minister
Plenipotentiary for the Republic of China

(附 記)

交換公文表證明書英略文

Having regard to the steady penetration of hostile influence into Russian territory, jeopardizing the peace and welfare of the Far East, and recognizing the imperative necessity of cooperation between Japan and China adequately to meet the exigencies of the case, the Governments of the two countries after frank interchange of views, caused the annexed Notes to be exchanged, on the 25th March this year, between the Minister of Foreign Affairs and the Chinese Minister in Tokio.

In pursuance of the purport of the Notes the Imperial Government subsequently sent Commissioners representing the Imperial Army and Navy to Peking, where they held conference with the authorities of the Chinese Army and Navy. The

negotiations progressing smoothly two agreements were concluded, one relating to the army being signed on the 16th May and the other relating to the navy on the 19th May.

These agreements only embody concrete arrangements as to the manner and conditions under which the armies and navies of the two countries are to cooperate in common defence against the enemy, on the basis of the above mentioned Notes exchanged on March 25. The details of the arrangements constituting as they do a military secret, can not be made public, but they contain no provision other than those pertaining to the object already defined. Currency has been given to various rumours, alleging that the agreements contain for instance such stipulations as that the Chinese Expedition is to be under Japanese command, that Japan may construct forts in Chinese territory at such places as she may choose, that Japan will take the control of Chinese railways, shipyards, and arsenals, and even that Japan will assume the control of China's finances, will organize China's police system, will acquire the

right of freely operating Chinese mines producing materials for the use of the arsenals, etc. It cannot be too emphatically stated that these and similar rumours are absolutely unfounded.

May 30, the 7th year of Taisho,

Ministry of Foreign Affairs.

註 右公表説書ノ和文ニ付テハ前掲三八一文書參看

三八七 五月三十一日

在中国林公使ヨリ
後藤外務大臣宛(電報)

日中陸海軍各軍事協定確認ノ為ノ公文交換ヲ
了シタル件

第七六二号

貴電第三六三号ニ関シ

御電訓ノ趣旨ニ基キ五月三十日午後三時半外交部ニ於テ本使及陸外交総長トノ間ニ五月二十九日附ヲ以テ公文ノ交換ヲ了セリ尚支那側ノ希望ニ依リ双方ヨリ同文ノ通告ヲナシ互ニ回答スルコトシ其往復文四通写本日郵報ス

三八八 六月十六日

在バタヴィア松本領事ヨリ
後藤外務大臣宛

日中軍事協定ニ関シ漢字紙華鐸号外ニ煽動
的記事掲載ニ付中国総領事ニ適宜措置方申入
ノ件

機密公信第一三号

(七月十日接受)

大正七年六月十六日

在バタヴィア

領事 松本幹之亮(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支協約ニ関スル件

今回日支間ニ締結セラレタリト伝ヘラルル協約ニ関シ当地週刊漢字新聞華鐸報ハ別紙^(註)如キ号外ヲ配付シ在住支那人ノ輿論ヲ喚起セント努メタリシモ同新聞社ハ創立日尚ホ浅ク発行部数亦極メテ少数ニシテ何等勢力ナキヲ以テ從テ其反響ナカリシモ他ノ有力ナル支那人機関タル馬來語新聞等ニ誇大ニ転載サルルニ於テハ面白カラズト認メ候ニ付当地支那総領事ヲ訪問シテ華鐸報ノ発シタル協約条項ハ全ク虚報ト認メラルルニ付支那人経営ノ各新聞カスル誤報ニ動カサルコトナキ様相当機宜ノ措置ヲ執ラルル様申入置候、御承知ノ道リ当領ニ於ケル支那人ノ本国政府ニ關聯セル潜

四 日中軍事協定締結ニ関スル件 三八九

三八九 七月八日

在天津沼野総領事ヨリ
後藤外務大臣宛

帰国セル留学生ノ天津ニ於ケル行動ニ関シ報

告ノ件

公信第二二四号

(七月十六日接受)

大正七年七月八日

在天津

総領事 沼野安太郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

留日学生在津者ノ行動ニ関シ報告ノ件

三八五

往電第四六号ヲ以テ報告ノ留日支那学生十余名ハ過般北京ヲ追ハレテ当地ニ来リ仏国租界内ニ仮住シタルモ同地官憲ノ干涉アリタルヤニテ更ラニ伊太利租界ニ移リタルガ目下当地ニアル是等学生ハ十二名ニシテ救国団天津支部労働部ナルモノヲ組織シ別紙写ノ如キ宣言書ヲ発表シタルガ右学生等ニ対スル支那警察庁ノ取締ハ頗ル嚴重ナルヲ以テ該学生等ハ支那町ニハ一步モ踏ミ込ムコト能ハズ外国租界就中伊露兩租界ニテ国貨提倡ト称シテ各種支那製文房具並ニ書籍等ヲ行商シ居ルモノ一般ニ之ヲ顧ミル者ナク学生等モ途方ニ暮レ居ル者ノ如シ右ニ関シ信ズヘキ筋ヨリ聴ク所ニヨレバ右学生ハ在上海孫洪伊等ノ煽動ニ乗リ多少ノ旅費ヲ貰ヒ帰国シタルモノナルガ支那官憲側ニテモ未ダ思想ノ固マラザル血氣ノ青年輩ガ政客ニ煽動セラレレ国事ニ奔走スルコトニ付テハ多少ノ同情モアリテ一面嚴重ニ取締ルト同時ニ他ノ一面ニ於テハ夫々人ヲ介シテ速カニ再就学ヲ勧告シ若シ来ル九月迄ニ復校スルニ於テハ引続キ學資ヲ給シテ成業セシムルコトヲ保証シ教育庁長等專ラ苦心中ナルヲ以テ右学生等モ遠カラズ反省シテ再ビ留学ノ氣運ニ向フヘシト云フ右及報告候 敬具

註 別紙省略

三九〇 七月二十二日

在奉天赤塚総領事ヨリ
後藤外務大臣宛

西比利亜出兵ト中国兵統帥ニ関シ楊參謀長ノ
菊池軍事顧問ニ対スル談話報告ノ件

機密公第四六号

(七月二十九日接受)

大正七年七月二十二日

在奉天

総領事 赤塚正助(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

楊參謀長ノ談話報告ノ件

西比利亜出兵ト支那兵統帥難トニ関シ本月十九日楊參謀長ノ語レルトコロナリトテ別紙ノ通菊池軍事顧問ヨリ内報有之候ニ付御参考迄此段及報告候 敬具

(別紙)

今十九日西比利亜出兵ニ関シ楊參謀長ト對話セシカ楊ハ曰ク中央政府ヨリ未タ何等ノ公電ニ接セザルモノ日本ニ於テハ出兵ニ決セシ模様ナレバ何レ其ノ筋ノ指示ニ接スヘシ然レトモ奉、吉、黒三省ニ於テ由來軍ノ統帥ガ如何ナルモノナ

安全ナリト云フヘシ

三九一 八月十二日

在汕頭田中領事館事務代理ヨリ
後藤外務大臣宛

日中軍事協定ニ反対シテ帰国セル留日学生ノ
排日行動ニ関シ稟報ノ件

機密第一九号

(八月二十日接受)

大正七年八月十二日

在汕頭領事館

事務代理 田中莊太郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

日支軍事協約ニ反対シ帰国セル留日支那学生ノ排日行

動ニ関シ稟報ノ件

案スルニ以上ハ支那軍ノ遺伝の宿癖ニシテ現今南征軍カ一
致ヲ欠キ此ノ間反問苦肉策ヲ弄セラルル所以モ亦茲ニ存
ス、サレハ支那軍ト共同シテ真面目ノ作戰ヲ為スニ当リテ
ハ古代ノ戰鬪区分ニ於テ見ル如ク作戰軍総指揮官ノ腹心タ
ル中堅ヲ備ヘ以テ絶エズ各部將ノ我僣ヲ制圧シ且其ノ作戰
ヲ指導スルヲ要ス又各關係督軍ノ許ニモ同一ノ目的ヲ以テ
權威アル武力ヲ分置セザルベカラズ故ニ若シ我帝國ノ軍隊
ヲ以テ軍ノ中堅ヲ造リ又各省ノ權威タルコトヲ得ハ始メテ

先般来日支軍事協約ニ反対シ帰国セル留日支那学生ノ当地
ニ於ケル行動ニ関シテハ夫々注意致居リ候処最近十数日前
ヨリ留學生沈毅、李鵬年及謝斌ナルモノノ名ヲ以テ「当地
方通訊処ヲ暫ク汕頭大風日報社内ニ設ク」ル旨一般帰国留
學生宛廣告シ何等カ排日行動ニ関シ画策セントスル模様ア
リシヲ以テ一層注意中ノ処数日前彼等ハ留日広東學生同郷
會事務所臨時増刊「警鐘」(民国七年七月七日刊行非売品

ニシテ同事務所ハ広東ニ在ルカ如シト称スル別冊第一号ノ如キ排日記事ヲ列載セル小冊子ヲ当地ニ輸入シ之ヲ当地ニ於テハ散布セズ更ニ内地ニ送レルカ如クニ有之尚ホ大風日報内ノ者ニ付間接ニ聞ク処ニ依レハ右小冊子ハ更ニ近々同日報社ニ於テ重版ノ上当地ニ頒布スル筈ノ由ニ有之候又タ彼等ハ留日広東学生同郷会同人刊行「国民乎其一攻中日軍事密約之用意」(警鐘)ナル小冊子内ノ一節ト称スル別紙^(註)二号ノ如キ印刷物ヲ同新聞社ニ於テ印刷シ多数市中ニ散布致候事実有之候日支軍事協約ノ内容ニ対スル一般支那人ノ誤解モ已ニ氷解セルモノト認メラルル昨今留学生等ノ斯カル行動ニ対スル何等一般ノ反響ハ当地ニ於テハ毫モ認ムル能ハザルハ当館ヨリ夫々人ヲ介シ確メタル主ナル商人ノ意向ニ照シ明カナル事実ニ有之且ツ右様行動ニ参加セル留学生ノ数モ目下多カラザル模様ニ有之候斯カル次等ナルヲ以テ当館ニ於テハ目下ノ処右排日行動鎮圧ニ干スル何等措置ヲ取ル必要ヲ認メズ且ツ右ニ干シ支那地方官憲ニ取締方ヲ交渉スルモ目下ノ状態ニテハ地方官力誠意ヲ以テ我交渉ニ応スル見込ナキヲ以テ旁々当館トシテハ傍觀致居候尚ホ右留学生ノ機関タル大風日報ハ素ヨリ勢力アル新聞ナラ

ザルモ曩ニ報告致候通り陳炯明ノ率ユル当地広東軍ノ機関新聞ニシテ從來極力本邦側ニ反対ノ筆ヲ弄スルモノニ有之候右事情御参考迄ニ及稟報候 敬具

追テ本信写ハ在支公使及広東総領事ニ送付致置候得共

「警鐘」ナル小冊子ハ他ニ入手難致候間送付致サズ候

註 別冊第一号及別紙第二号省略

三九二 八月二十二日 在米國石井大使ヨリ 後藤外務大臣宛

高平ルーツ協定ニ基キ日中軍事協定正文写交

付方國務卿ヨリ申出ノ件

機密第七二号 (九月二十五日接受)

大正七年八月廿二日

在米國

特命全權大使子爵 石井菊次郎(印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

「ルーツ」高平協約ニ基キ日支軍事協定交付方國務卿ヨリ申出ノ件

本年六月下旬本使國務卿ト会見ノ際同卿ヨリ先般日支間ニ軍事協定成立ノ次第ハ當時本使ヨリ内報ニ接シ尚ホ次テ公

式ノ通報ヲ受ケ且右内報ノ砌協定要綱ヲモ示サレタルガ「ルーツ」高平協約ニ依レハ斯ル協定ニ付テハ日本政府ヨリ其要綱ノミナラズ正文写ヲ与ヘラルヘキ筋合ト思料ス米國政府ニ於テ将来支那ト重要ナル協定ヲナスカ如キ場合ニハ事前ニ日本政府ニ内報スヘキハ勿論事後正文写ヲ与フヘキ所存ニテ斯クシテ日米間ノ協調ハ円満タルヲ得ヘシト語リタルニ付本使ヨリ曩ニ政府ノ訓令ニ依リ手交セル要綱ハ単ニ二三字句ヲ變改シタルノミニテ実質ニ於テ正文ト異ナルコトナシト答ヘタルニ國務卿ハ其点ハ承知シ居ルモ他人ニ向テ日本ヨリ正文ノ通告ヲ得タリト謂ヒ得ムカ為特ニ所望スル訳合ナリト語リタル次第有之候然ルニ其後間モナク五月三十日付政合送第一四五号ヲ以テ日支軍事協定ニ関スル公文英訳御送付ニ接シタルニ付早速手交ノ上且ツ「ルーツ」高平協約ニ関スル本使ノ所見ヲ述ヘ先方ノ考慮ヲ促カシ置カムト存シ居リタルニ恰モ國務卿賜暇旅行等ノ為其俟今日ニ及ヒタルガ八月十六日他用ヲ以テ往訪ノ機会ヲ利用シ前記英訳文写ヲ同卿ニ手交シ同時ニ腹藏ナク本使ノ意見ヲ述ヘタシト前置シタル上米國政府ニ於テ如何ナル解釈ヲ下サルルヤハ承知セザルモ「ルーツ」高平協約ノ文面ニテ

ハ日本又ハ米國ニ於テ支那ト何等カノ協約ヲ締結スルニ当リ相互ニ協約写ヲ公式ニ他ノ一方ニ通告セザルベカラザルガ如キ義務の規定更ニ無之様認メラレ現ニ先年滿蒙及山東ニ関シ日支間ニ条約ヲ締結セル際在本邦米國大使ヨリ今回同様「ルーツ」高平協約ニ依リ該条約ノ写ヲ得タシト申出デタルニ対シ當時ノ帝国外務大臣ヨリ日本政府ニ於テ右様ノ見解ヲ執ラザルモ該条約ノ写ハ米國政府参考ノ為与フヘシト答ヘタルコトアリト記憶ス今回ノ日支間軍事協定写モ同様ノ意味合ニテ手交スヘシト述ヘ同時ニ本使ヨリ本件ニ関スル國務卿ノ腹藏ナキ意見ヲモ承知シタキ旨申入レタルニ付之ニ対シ同卿ハ自分モ実ハ記憶シ居ラザルニ付何レ一応取調ヲナスヘキモ軍事協定ノ写ハ参考ノ為貰受クル丈ケニテ十分ナリト挨拶致候本件ニ付テハ或ハ重テ先方ヨリ何等申出ヅルコトアルヘキモ不取敢右応答振一応貴聞ニ達シ置度此段及報告候也

註 高平ルーツ協定ニ関シテハ日本外交文書第四十一卷第一冊 日米協商一件ノ項參看

三九三 十月十二日 田中陸軍大臣ヨリ 内田外務大臣宛

日中陸軍共同防敵軍事協定実施ニ要スル詳細ノ協定締結ニ付通報ノ件

附屬書 右詳細ノ協定

陸軍省 西密第五〇二号

日支陸軍共同防敵軍事協定実施ニ要スル詳細ノ協定ニ
関スル件通牒

大正七年十月十二日

陸軍大臣 田中義一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

日支陸軍共同防敵軍事協定第九条ニ拠リ該協定実施ニ要ス
ル詳細ノ協定別冊写ノ通締結致候条及通牒候也

(附屬書)

日支陸軍共同防敵軍事協定実施ニ要スル詳細ノ協定
日支軍事協定第九条ニ基キ日支兩國軍事当局ノ指定スル各
当事者ハ協定第六条、第七条ニ関シ左記事項ヲ協定ス

第一条 日支兩國ハ各其軍ノ一部ヲ派遣シ後員加爾州及黑
竜州ニ対シ軍事行動ヲ執ル其任務ハ「チエツク、スロワ
ツク」軍ノ救援並独塊兩國及之ニ加担スル勢力ヲ排除ス
ルニ在リ

庫倫方面ヨリ貝加爾湖方面ニ出動スル支那軍ニ一部ノ日
本軍隊ヲ参加セシムル場合ニハ該軍隊及其軍需品ハ太沽
又ハ秦皇島若クハ奉天迄日本軍ニ於テ輸送シ爾後ノ輸送
ハ支那軍之ヲ担任ス

東清鐵道輸送ハ東清鐵道当局ヲシテ之カ実施ニ当ラシム
該当局トノ交渉、日支兩軍及「チエツク、スロワツク」
軍ノ輸送ノ調節安排ヲ計ル為日支協同ノ機關ヲ設ク此機
関ニハ将来与国軍ニシテ此方面ニ行動スル場合ニ於テハ
其軍ヨリ所要ノ人員ヲ参加セシムルコトアルヘシ

第五条 連絡職員ノ派遣ニ関シテハ既ニ交渉ヲ了シ或ハ交
渉中ニ在ルモノノ外差当リ出先司令部ト将来之ヲ要スル
場合東京及北京ニ於ケル最高補給機關ニ相互職員ノ派遣
ヲ為スヘク爾後必要ニ応シ隨時協議ス

第六条 兵器其他軍需材料並其原料ノ供給及一方軍ノ為ニ
担任シタル輸送等ノ費用ハ有償トシ其決済ハ隨時又ハ軍
事行動終了後ニ於テ之ヲ行フ

第七条 本協定ハ日本文及漢文各々二通ヲ作り対照シテ記
名調印シ双方各一通ヲ保有シ証拠ト為ス

指揮ノ統一協同ノ円満ヲ期スル為該方面ニ行動スル支那
軍ハ日本軍司令官ノ指揮下ニ入ルモノトス

滿洲里方面ヨリ後員加爾方面ニ行動スル軍ト策応スル為
支那軍ノ一部ハ庫倫方面ヨリ貝加爾湖方面ニ行動ス而シ
テ支那ノ希望アラハ日本軍モ該方面ニ一部ノ兵力ヲ派遣
シ支那軍司令官ノ指揮下ニ入ラシムルモノトス
以上ノ外中部蒙古以西ノ辺境ハ支那自ラ其防備ヲ鞏固ニ
ス

第二条 兵器及軍需品ノ供給ハ緊急已ムヲ得ザルモノハ出
先司令官相互ノ協定ニ依リ之ヲ行フヘキモ其他ノモノ及
原料ノ供給ハ東京及北京ノ最高補給機關ヨリ交渉シテ之
ヲ行フ

第三条 衛生業務ニ関シ若シ支那ニ於テ之ヲ希望スルアレ
ハ日本軍ハ為シ得ル範圍ニ於テ便宜ヲ提供スヘク而シテ
情況進展セバ病院及休養所ノ施設等ニ関シ日本軍モ亦支
那ノ助力ヲ受クルモノトス

第四条 南滿鐵道ニ依リ輸送セラルヘキ支那軍隊及其軍需
品ハ支那ヨリ大連、營口若クハ奉天ニ搬出シ爾後長春迄
ノ輸送ハ日本軍之ヲ担任ス

大正 七年九月六日

於北京

中華民國七年九月六日

大日本帝國陸軍軍事当局ノ指定スル当事者

陸軍中將 斎藤季治郎(印)

大中華民國陸軍軍事当局所指定之当事者

陸軍中將 徐樹錚(印)

(右漢文)

關於中日陸軍共同防敵軍事協定實施上必要之詳細協定
基於中日軍事協定第九条中日兩國軍事当局指定之各当事者
關於該協定第六条第七条現協定左列事項

第一条 中日兩國各派遣其軍之一部對於後員加爾州及黑竜
州各取軍事行動其任務在救援捷克斯拉夫克軍並排除德奧
兩國及為之援助之勢力

期指揮之統一及協同円満起見行動於該方面之中国軍隊
入日本軍司令官指揮之下

為与自滿洲里方面行動於後員加爾方面之軍隊互相策応起
見中国軍隊之一部應於庫倫至貝加爾湖方面行動如中国於
該方面希望日本軍派遣兵力之一部日本亦可派往令属中国
軍司令官指揮之下

此外中部蒙古以西之辺境應由中国自行鞏固防備

第二条 關於兵器及軍需品之供給雖緊急不得已之物品可由前方司令官互相協定然其他之物品及原料之供給則應由東京及北京最高補給機關互相交渉行之

第三条 關於衛生業務中国如有所希望日本軍應於力所能及之範圍内提供便利将来情況進展則關於病院及休養所之施設等日本軍亦須受中国之助力

第四条 須由南滿鐵路輸送之中国軍隊及其軍需品應由中国自行運至大連營口或奉天自此以後至長春之輸送由日本軍担任之

自庫倫方面向貝加爾湖方面行動之中国軍隊若希望日本軍参加一部時則該日本軍隊及其軍需品至太沽秦皇島或奉天由日本軍自行輸送自此以後之輸送由中国軍担任之

關於東清鐵路之輸送應以東清鐵路之当局当實施之任而為与該当局交涉並使中日及捷克斯拉夫克各軍輸送之調度有方起見中日應設協同機關但此項機關将来聯合國軍隊倘行動於此方面之時該聯軍所要之人員亦可参加

第五条 關於連絡職員之派遣除交涉已定或正在交涉之外前方司令部或将来更有必須互遣職員情事應由東京与北京最

スル手續及取消後ニ於ケル国防軍配置ニ就キ研究中ニシテ頗ル秘密ヲ嚴守セル由ナリ

高補給機關弁理如或另有情事應再隨時協議

第六条 兵器及其他軍需材料並原料之供給及兩國運輸軍隊各應担任之輸送等費用均須給価應隨時或軍事終了後核算給之

第七条 本協定以漢文及日本文各繕二分彼此対照簽名蓋印各保有一分為証拠

中華民國七年九月六日

大正 七年九月六日 於北京

大中華民國陸軍軍事当局所指定之当事者

陸軍中將 徐 樹 錚

大日本帝國陸軍軍事当局ノ指定スル当事者

陸軍中將 齋藤季治郎

三九四 十一月二十四日 石光天津軍司令官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

歐洲戰終局ノ結果大總統府及參戰督弁処ニ於

テ日中軍事協約取消ノ議生ジタル件

天電第一五〇号 (十一月二十五日接受)

歐洲戰終局ノ結果北京大總統府部内ニ日支軍事協約ヲ取消スヘシトノ議アリテ參戰督弁処ニ於テモ該協約取消シニ関